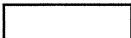




伊方発電所第3号機

第15回施設定期検査時の安全管理の計画

記載例

 : 機能要求なし

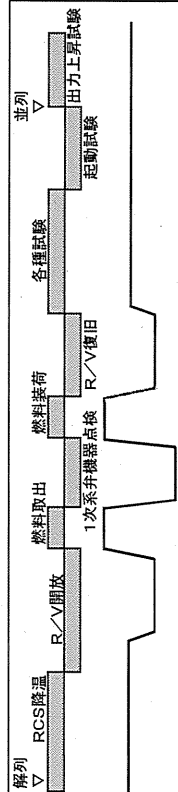
 : 機能要求あり

 : 機能要求あり (条件付)

なお、上記においても要求除外となる場合がある。詳細は、伊方発電所原子炉施設保安規定を参照。

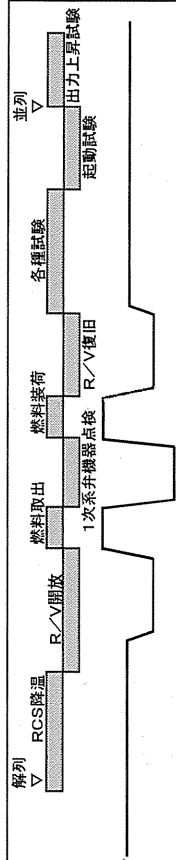
伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

主要工程		RCS水位		試験項目																		
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	6-1	6-2	5-1	5-2	4	5-1	4	5-1	4	3			
未臨界維持機能	第19条 停止余裕	モード3、4	停止余裕が1.8%Δk/k以上であること	×	×																	
		モード5	停止余裕が1.0%Δk/k以上であること				×															
		モード3	減速材温度係数が $-78 \times 10^{-5} \Delta k/k/^\circ C$ 以上であること	×																		
放射線物質格納機能	第33条 計測および制御設備 (原子炉保護系計装)	モード3、4、5 (原子炉格納容器内の燃料移動中でない場合)	原子炉保護系論理回路がシステム動作可能であること ・手動原子炉トリップが2チャンネル動作可能であること ・線源領域中性子束高が2チャンネル動作可能であること	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		モード3、4、5 (原子炉トリップしや断器が開放されている場合)	線源領域中性子束高が1チャンネル(監視機能のみ)動作可能であること	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		モード6 (原子炉格納容器内での燃料移動中でない場合)	線源領域中性子束高が1チャンネル(監視機能のみ)動作可能であること					△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
放射線物質格納機能	第80条 1次冷却材中のほう素濃度	モード6	1次冷却材中のほう素濃度が4,400ppm以上であること								×											
		モード3、4	蒸気発生器細管漏えい監視	蒸気発生器細管に漏えいがないこと ・蒸気発生器細管漏えい監視装置である蒸気発生器ブローダウンスモニタが動作可能であること(プラント状態により監視できない場合または洗浄中は除く)	×	×																
		モード3、4 (余熱除去系隔離弁が閉止している場合)	1次冷却系から余熱除去系への漏えいがないこと(漏えいがないこととは、余熱除去系の速がし弁が作動していないことをいう。)	×	×																	
放射線物質格納機能	第49条 1次冷却材中のほう素濃度	モード3 (1次冷却材温度が280°C以上の場合)	1次冷却材中のほう素濃度が $3.2 \times 10^5 \text{Bq/cm}^3$ 以下であること																			
		モード3、4	原子炉格納容器の機能が健全であること ・原子炉格納容器圧力が0.0098MPa(gage)以下であること ・エアロックが動作可能であること(動作可能であることは、エアロックのインターロック機構が健全であること、およびエアロックが閉止可能(閉止状態であることを含む)であることをいう。)(モード4の原子炉格納容器ハース後、直ちに閉止できることを条件にエアロックの両方のドアを開放する場合、運転上の制限を適用しない。) ・格納容器隔離弁が動作可能であること(動作可能であることは、閉止可能(閉止状態であることを含む)であることをいう。)																			
		モード3、4	原子炉格納容器スプレイス系2系統が動作可能であること(原子炉格納容器スプレイス系の弁閉閉点後を行う場合、2時間に限り、運転上の制限を適用しない。) ・ほう素除去薬品タンクのヒドランジ濃度が95wt%以上であること ・ほう素除去薬品タンクのヒドランジ濃度(有効水量)が1.6m ³ 以上であること																			
放射線物質格納機能	第57条 原子炉格納容器スプレイス	モード3、4	格納容器スプレイス系 ・エアロック ・格納容器隔離弁	×	×																	
		モード3、4	格納容器スプレイス系 ・ほう素除去薬品タンク	×	×																	
		モード3、4	格納容器スプレイス系 ・ほう素除去薬品タンク	×	×																	



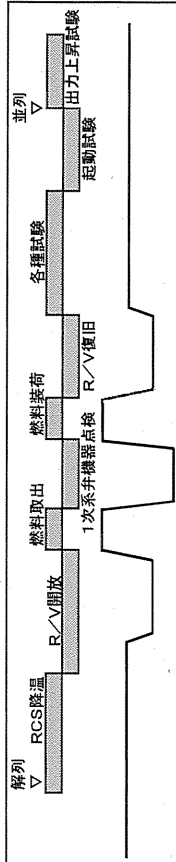
伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

主要工程		RCS水位		検査項目																				
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	6-2	6-1	5-1	4	5-1	4	5-1	4	5-1	4	3				
放射能汚染格納機能	第58条 アニュラス空気浄化系	モード3, 4	キヤビテリ満水 RCS満水 ミッドループ RCS全ブロー	アニュラス空気浄化系2系統が動作可能であること																				
		モード3, 4		アニュラスの機能が健全であること(アニュラス内点検、エアロック点検を行う場合、運転上の制限を適用しない。)																				
		モード3		主蒸気隔離弁が閉止可能であること(閉止状態にある主蒸気隔離弁については、運転上の制限を適用しない。)																				
		モード3		主給水隔離弁、主給水制御弁および主給水バイパス制御弁	主給水隔離弁、主給水制御弁が閉止可能であること(閉止状態にある主給水隔離弁、主給水制御弁または主給水バイパス制御弁については、運転上の制限を適用しない。)																			
		モード6-2(キヤビテリ高水位/原子炉キヤビテリ水位がEL.31.7m以上)		原子炉キヤビテリ水位がEL.31.7m以上であること(計画的な原子炉キヤビテリ水位げによりモード6(キヤビテリ水位)に移行する場合、運転上の制限を適用しない。)																				
		モード5, 6		原子炉格納容器真通部	機器ハッチが全閉状態で閉じられていること(原子炉格納容器内で燃料移動を行っていない場合、速やかに閉止できる条件(1次冷却材ポンプ停止中で余熱除去系による冷却時において、加圧器安全弁が動作可能であることおよび加圧器水位が10%から50%の範囲内にある場合、原子炉キヤビテリ水位がEL.31.7m以上である場合、1次冷却系の水位が原子炉容器フランジ面-30cm以上である場合(燃料取出前の原子炉容器のふたを開放してから原子炉キヤビテリ水位を下げた場合)、2MW未満と評価できる場合、燃料取り戻し完了後の期間において、炉心崩壊熱が2MW未満と評価できる場合、燃料冷却後の原子炉キヤビテリ水位が2MW未満と評価できる場合のいずれかを満足している場合)のいずれかを満足している場合に開放することが許容される。この場合、運転上の制限を満足していないとはみなさない。)																			
炉心冷却機能	第83条 使用済燃料ピット水位および水温	全モード		使用済燃料ピット水位がEL.31.7m以上であること(照射済燃料の移動を行っていない場合)、運転上の制限を適用しない。(照射済燃料の移動を行っていない場合は、運転上の制限を適用しない。)																				
		モード3		制御棒の引抜操作が行える状態である場合は、蒸気発生器による熱除去系2系統以上が運転中であること(制御棒引抜操作が行える状態とは、原子炉トリップや断器が投入され、制御棒クラススタ駆動装置(MGセット)による電源が制御棒駆動装置に供給されている状態をいう。)																				
		モード4		制御棒の引抜操作が行える状態でない場合は、蒸気発生器による熱除去系2系統以上が動作可能であり、そのうち1系統以上が運転中であること																				



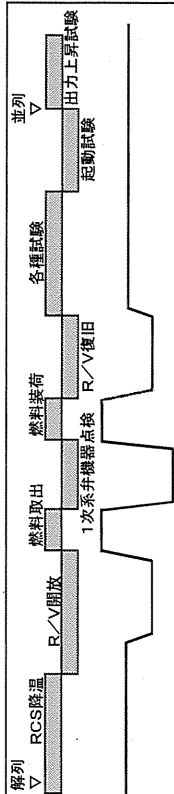
伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

主要工程		RCS降温												燃料取出			燃料接荷			各種試験			並列		
RCS水位		RCS降温												R/V開放			1次系弁機器点検			R/V復旧			出力上昇試験		
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モ-ド外	6-2	6-1	5-2	5-1	4	5-1	4	5-1	4	3					
第39条 1次冷却系	第38条 1次冷却系	モード5-1 (1次冷却系満水)	・余熱除去系1系統が運転中であること(計画的にモード4に加熱する場合は、蒸気発生器1基以上の水位(鉄域)が計器スパンの5%以上であることを条件に、すべての余熱除去系を隔離することが許容される。この場合、運転上の制限を満足していないとはみなさない。)(計画的にモード4に加熱するために1次冷却材ポンプを起動する場合は、他の余熱除去系が動作可能であることを条件に、1次冷却材ポンプの起動前から起動後までの1時間以内に、当該余熱除去ポンプを停止することが許容される。この場合、運転上の制限を満足していないとはみなさない。) ・他の余熱除去系が動作可能もしくは運転中であるか、2基以上の蒸気発生器の水位(鉄域)が計器スパンの5%以上であること(計画的にモード4に加熱する場合は、蒸気発生器1基以上の水位(鉄域)が計器スパンの5%以上であることを条件に、すべての余熱除去系を隔離することが許容される。この場合、運転上の制限を満足していないとはみなさない。)																						
第40条 1次冷却系		モード5-2 (1次冷却系非満水)	・余熱除去系2系統が動作可能であり、そのうち1系統以上が運転中であること(1次冷却材ポンプによる1次冷却系空気抜きを行う場合は、2時間以内に、すべての余熱除去系を隔離することが許容される。この場合、運転上の制限を満足していないとはみなさない。)(ポンプの切替を行う場合は、条件(炉心出口温度が飽和温度より5.6℃以上下回るように維持されていること、1次冷却系水量低下につながる操作が行われていないこと、1次冷却系水量低下により、15分に限り、すべての余熱除去ポンプを停止することが許容される。この場合、運転上の制限を満足していないとはみなさない。)(余熱除去ポンプを用いて1次冷却系の真空状態を維持している場合は、余熱除去系への切替操作が可能であることおよび他の1系統が運転中であることを条件に、1系統を隔離することが許容される。この場合、運転上の制限を満足していないとはみなさない。)(1次冷却材ポンプのターニングクルクの計測を行う場合は、2時間以内に、すべての余熱除去ポンプを停止することが許容される。この場合、運転上の制限を満足していないとはみなさない。)																						
第41条 1次冷却系		モード6-1 (キャビティ4他水位)	・余熱除去系1系統以上が運転中であること(1次冷却材中のほう素濃度を低下させる操作を行わないことを条件に、8時間あたり1時間に限り、余熱除去ポンプを停止することが許容される。この場合、運転上の制限を満足していないとはみなさない。) ・1次冷却材温度が65℃以下であること																						
第60条 主蒸気安全弁		モード3 (原子炉起動時のモード3から、主蒸気安全弁機能検査が完了するまでの間を除く)	・主蒸気安全弁が蒸気発生器毎に以下の騰載以上が動作可能であること 原子炉熱出力が80%超 : 5個 原子炉熱出力が60%超で、かつ80%以下 : 4個 原子炉熱出力が40%超で、かつ60%以下 : 3個 原子炉熱出力が40%以下 : 2個																						
第63条 主蒸気逃がし弁		モード3、モード4 (蒸気発生器が熱除去のために使用されている場合)	・主蒸気逃がし弁が手動での開弁ができること																						
第64条 補助給水系		モード3	・電動補助給水ポンプによる2系統およびタービン動補給水ポンプによる1系統が動作可能であること(タービン動補給水ポンプについては、原子炉起動時のモード3において試運転に係る調整を行っている場合、運転上の制限は適用しない。)																						



伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

主要工程		並列 V																										
RCS水位		RCS水位		各種試験																								
		保安規定条文	要求モード	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モ-ド外	6-1	6-2	6-1	6-2	5-1	5-2	6-1	6-2	5-1	5-2	6-1	6-2	4	5-1	4	3		
前導熱除去機能	第64条 補助給水系	モード4 (蒸気発生器が熱除去のために使用されている場合)	要求内容 ・電動補助給水ポンプによる1系統以上が動作可能であること																									
炉心冷却機能	第65条 復水タンク	モード3、モード4 (蒸気発生器が熱除去のために使用されている場合)	・補助給水タンク水量(有効水量)が610m ³ 以上であること																									
炉心冷却機能	第33条 計測および制御設備 (工学的安全施設等作動計装)	モード3、4	(1) 非常用炉心冷却系作動 ・非常用炉心冷却系作動回路が2系統動作可能であること (原子炉保護系統論理回路の機能検査時には、残り1系統が動作可能であることを条件に、2時間以内に、1系統をバイパスすることができる。この場合、バイパスした系統を動作不能とはみなさない。) ・原子炉格納容器スプレイ系作動手動起動が2チャンネル動作可能であること (2) 原子炉格納容器スプレイ系作動 ・原子炉格納容器スプレイ系作動回路が2系統動作可能であること(原子炉保護系統論理回路の機能検査時には、残り1系統が動作可能であることを条件に、2時間以内に、1系統をバイパスすることができる。この場合、バイパスした系統を動作不能とはみなさない。) ・原子炉格納容器スプレイ系作動手動起動が4チャンネル動作可能であること (3) 原子炉格納容器隔離(格納容器隔離A) ・格納容器隔離A作動論理回路が2系統動作可能であること(原子炉保護系統論理回路の機能検査時には、残り1系統が動作可能であることを条件に、2時間以内に、1系統をバイパスすることができる。この場合、バイパスした系統を動作不能とはみなさない。) ・格納容器隔離A手動起動が2チャンネル動作可能であること ・非常用炉心冷却系作動による格納容器隔離A作動(1)非常用炉心冷却系作動に同じ (4) 原子炉格納容器隔離(格納容器隔離B) ・格納容器隔離B作動論理回路が2系統動作可能であること(原子炉保護系統論理回路の機能検査時には、残り1系統が動作可能であることを条件に、2時間以内に、1系統をバイパスすることができる。この場合、バイパスした系統を動作不能とはみなさない。) ・原子炉格納容器スプレイ系作動手動起動による格納容器隔離B作動(2)原子炉格納容器スプレイ系作動(手動起動)に同じ (5) 格納容器隔離Aと6.6kV非常用母線電圧低の一致による隔離 ・格納容器隔離Aと6.6kV非常用母線電圧低の一致による隔離作動論理回路が2系統動作可能であること ・格納容器隔離A作動論理回路 ・非常用炉心冷却系作動論理回路 ・格納容器隔離A手動起動回路 ・格納容器隔離A手動起動信号検出、伝送ライン ・非常用炉心冷却系作動手動起動信号検出、伝送ライン ・6.6kV非常用母線電圧低信号検出、伝送ライン																									

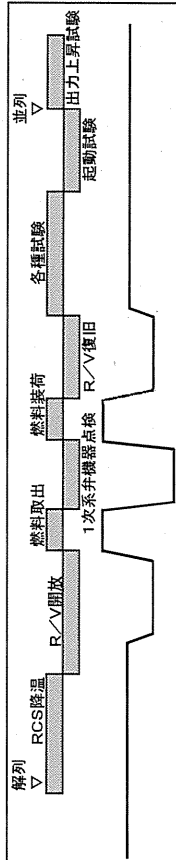


伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

主要工程		解列 V RCS降圧 R/V開放 燃料取出 燃料装荷 各種試験 出力上昇試験													
RCS水位		各種試験													
項目	保安規定条文	要求モード	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モード外	5-2	5-1	4	5-1	4	3
炉心冷却機能	第33条 計測および制御 設備 (工学的な安全施設等作動計装)	モード3、4	<p>キャビティ満水 RCS満水 ミッドループ RCS全ブロー</p>												
			<p>要求内容</p> <p>(6) 格納容器換気系隔離 ・格納容器換気系隔離作動論理回路が2系統動作可能であること ・格子炉格納容器スプレイ系作動(手動起動)による格納容器換気系隔離作動: (2) 原子炉格納容器スプレイ系作動(手動起動)と同じ ・格子炉格納容器A手動起動による格納容器換気系隔離作動:(3) 格納容器隔離 A作動(手動起動)と同じ ・非常用炉心冷却系作動: ・非常用炉心冷却系作動による格納容器換気系隔離作動:(1) 非常用炉心冷却 系作動と同じ</p>												
		モード3	<p>(1) 非常用炉心冷却系作動 ・格納容器圧力高(高1)が4チャネル動作可能であること(残りの3チャネル が動作可能であることを条件に、1チャネルをバイパスすることができる。この 場合、バイパスしたチャネルを動作不能とはみなさない。)</p> <p>(2) 原子炉格納容器スプレイ系作動 ・格納容器圧力異常高(高3)が4チャネル動作可能であること(残りの3チャ ネルが動作可能であることを条件に、1チャネルをバイパスすることができる。 この場合、バイパスしたチャネルを動作不能とはみなさない。)</p> <p>(3) 格納容器隔離B ・格納容器圧力異常高(高3)による格納容器隔離B作動、(2) 原子炉格納容器 スプレイ系作動と同じ</p>												
		モード3(P-11以上)	<p>非常用炉心冷却系作動 ・原子炉圧力低および加圧器水位低が4チャネル動作可能であること(残りの 3チャネルが動作可能であることを条件に、1チャネルをバイパスすること ができる。この場合、バイパスしたチャネルを動作不能とはみなさない。)</p> <p>・主蒸気ライン圧力低が4チャネル動作可能であること(残りの3チャ ネルが動作可能であることを条件に、1チャネルをバイパスすること ができる。この場合、バイパスしたチャネルを動作不能とはみなさない。)</p>												
		モード3 (全主蒸気隔離弁が閉じ ている場合を除く)	<p>主蒸気ライン隔離 ・主蒸気ライン隔離作動論理回路が2系統動作可能であること(原子炉保護系論 理回路の機能検査時には、残り1系統が動作可能であることを条件に、2 時間以内、1系統をバイパスすることができる。この場合、バイパスした系統を 動作不能とはみなさない。)</p> <p>・主蒸気ライン隔離手動起動が2チャネル動作可能であること ・格納容器圧力異常高(高2)が4チャネル動作可能であること(残りの3チャ ネルが動作可能であることを条件に、1チャネルをバイパスすること ができる。この場合、バイパスしたチャネルを動作不能とはみなさない。)</p>												
		モード3(P-11以上) (全主蒸気隔離弁が閉じ ている場合を除く)	<p>主蒸気ライン隔離 ・主蒸気ライン圧力低が主蒸気ライン毎に4チャネル動作可能であること(残 りの3チャネルが動作可能であることを条件に、1チャネルをバイパスすること ができる。この場合、バイパスしたチャネルを動作不能とはみなさない。)</p>												
		モード3(P-11未満) (全主蒸気隔離弁が閉じ ている場合を除く)	<p>主蒸気ライン隔離 ・主蒸気ライン圧力減少率が主蒸気ライン毎に4チャネル動作可能であるこ と(残りの3チャネルが動作可能であることを条件に、1チャネルをバイパス することができる。この場合、バイパスしたチャネルを動作不能とはみなさ ない。)</p>												
		モード3 (主給水隔離弁、主給水 制御弁および主給水パイ パス制御弁が閉じまた は隔離されている場合を除 く)	<p>主給水隔離 ・主給水隔離作動論理回路が2系統動作可能であること ・格納容器水位異常高(高4)が4チャネル動作可能であること(残りの3 チャネルが動作可能であることを条件に、1チャネルをバイパスすること ができる。この場合、バイパスしたチャネルを動作不能とはみなさない。)</p> <p>・非常用炉心冷却系作動による主給水隔離:モード3、4(1)非常用炉心冷却系 作動と同じ</p>												
			<p>関連設備</p> <p>・格納容器換気系隔離作動論理回路 ・非常用炉心冷却系作動論理回路 ・原子炉格納容器スプレイ系作動論理回路 ・格子炉格納容器A作動論理回路 ・格子炉格納容器隔離A作動論理回路 ・非常用炉心冷却系作動手動起動信号線 出、伝送ライン ・原子炉格納容器スプレイ系作動手動起動 信号線出、伝送ライン ・格納容器隔離A手動起動信号線出、伝送 ライン ・格納容器圧力高(高1)信号線出、伝送ラ イン ・格納容器圧力異常高(高3)信号線出、伝 送ライン ・原子炉格納容器スプレイ系作動論理回路 信号線出、伝送ライン ・主蒸気ライン隔離作動論理回路 送ライン ・格納容器圧力異常高(高2)信号線出、伝 送ライン ・主蒸気ライン圧力低信号線出、伝送ラ イン ・主蒸気ライン圧力低信号線出、伝送ラ イン ・主蒸気ライン圧力減少率信号線出、伝 送ライン</p>												

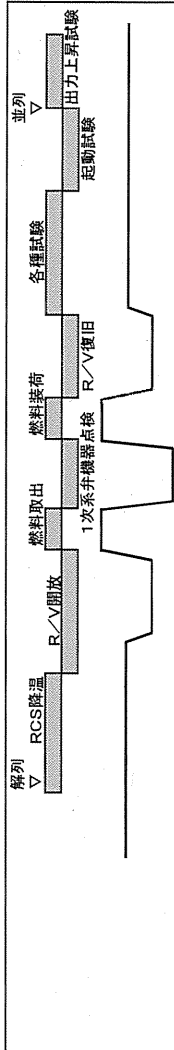
伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

主要工程		RCS水位		RCS降量		R/V開放		燃料取出		燃料装荷		各種試験		並列					
RCS水位		RCS降量		R/V開放		燃料取出		燃料装荷		各種試験		並列		出力上昇試験					
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	6-1外	6-2	6-1	6-2	5-1	5-2	4	3		
炉心冷却機能	第50条 蓄圧タンク	モード3 (1次冷却系圧力が6.89MPa [range]を超えない場合)	<ul style="list-style-type: none"> 蓄圧タンクのほう素濃度が4,400ppm以上であること 蓄圧タンクのほう素濃度(有効水量)が99.0m³以上であること 蓄圧タンクの圧力が4.0MPa [range]以上であること 蓄圧タンクの出口隔離弁が全閉であること 	△															
		モード3	<ul style="list-style-type: none"> 蓄圧タンクの2系統が動作可能であること(非常用炉心冷却系の弁開閉点検を行う場合、2時間に限り、運転上の制限を適用しない。) 蓄圧タンクの水張りを行う場合は、高圧注入ポンプを用いて動作可能であることを確認すること(非常用炉心冷却系の弁開閉点検を行う場合、2時間に限り、運転上の制限を適用しない。) 低圧注入系の2系統が動作可能であること(非常用炉心冷却系の弁開閉点検を行う場合、2時間に限り、運転上の制限を適用しない。) 																
		モード4	<ul style="list-style-type: none"> 蓄圧タンクまたは低圧注入系1系統以上が動作可能であること(非常用炉心冷却系の弁開閉点検を行う場合、2時間に限り、運転上の制限を適用しない。) 低圧注入系1系統以上が動作可能であること(非常用炉心冷却系の弁開閉点検を行う場合、2時間に限り、運転上の制限を適用しない。) 蓄圧タンクの水張りを行う場合は、高圧注入ポンプを用いて動作可能であることを確認すること(非常用炉心冷却系の弁開閉点検を行う場合、2時間に限り、運転上の制限を適用しない。) 低圧注入系への切替操作が可能な状態であることを確認すること(非常用炉心冷却系の弁開閉点検を行う場合、2時間に限り、運転上の制限を適用しない。) 																
		モード3、4	<ul style="list-style-type: none"> 燃料取替用水タンクのほう素濃度が4,400ppm以上であること 燃料取替用水タンク(有効水量)が1,700m³以上であること 	×															
電源供給	第33条 計測および制御設備(非常用ディーゼル発電機起動計装)	モード3、4	<ul style="list-style-type: none"> 非常用ディーゼル発電機起動論理回路が2系統動作可能であること 非常用炉心冷却系作動論理回路が2系統動作可能であること (原子炉保護系論理回路の機能検査時においては、残り1系統が動作可能であることを条件に、2時間に限り、1系統をバイパスすることができる。この場合、バイパスした系統を動作不能とはみなさない。) 非常用炉心冷却系作動起動が2チャンネル動作可能であること 	×															
		モード3	<ul style="list-style-type: none"> 非常用ディーゼル発電機起動論理回路が2系統動作可能であること 格納容器圧力高(高1)が4チャンネル動作可能であること(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に、1チャンネルをバイパスすることができる。この場合、バイパスしたチャンネルを動作不能とはみなさない。) 	×															
		モード3(P-11以上)	<ul style="list-style-type: none"> 非常用ディーゼル発電機起動論理回路が2系統動作可能であること 原子炉圧力低および加圧器水位低が4チャンネル動作可能であること(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に、1チャンネルをバイパスすることができる。この場合、バイパスしたチャンネルを動作不能とはみなさない。) 主蒸気ライン圧力低が主蒸気ライン毎に4チャンネル動作可能であること(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に、1チャンネルをバイパスすることができる。この場合、バイパスしたチャンネルを動作不能とはみなさない。) 	△															
	モード5、6、照射済燃料移動中	<ul style="list-style-type: none"> 非常用ディーゼル発電機起動論理回路が1系統動作可能であること 		×															
	モード3、4、5、6、照射済燃料移動中	<ul style="list-style-type: none"> 6.8kV非常用母線電圧低検出が所要の1母線あたり3チャンネル動作可能であること 			×														



伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

主要工程		燃料取出										燃料接合			各種試験			並列								
RCS水位		R/V開放										R/V復旧			出力上昇試験			起動試験								
RCS水位		RCS降温										1次系弁機器点検			R/V復旧			出力上昇試験			起動試験					
RCS水位		キヤビティ満水										R/V復旧			出力上昇試験			起動試験								
RCS水位		RCS満水										R/V復旧			出力上昇試験			起動試験								
RCS水位		ミッドループ										R/V復旧			出力上昇試験			起動試験								
RCS水位		RCS全プロー										R/V復旧			出力上昇試験			起動試験								
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モード外	6-2	6-1	6-2	5-1	5-2	6-1	6-2	5-1	5-2	6-1	6-2	4	5-1	4	3	
電源供給	第72条の3 外部電源	モード3, 4, 5, 6および使用済燃料ピットに燃料体を貯蔵している期間	外部電源3回線以上が動作可能であること(外部電源の回線数は、当該原子炉に対する各々の非常用高圧母線すべてに対して電力供給することができる発電機からの送電線の回線数とする。)(送電線事故の発生時は、運転上の制限を適用しない。) 外部電源のうち、1回線以上は他の回線に対して独立性を有していること(独立性を有するとは、「送電線の上流において1つの発電機または開閉所のみに連系していること」をいう。)(1つ以上の発電機または開閉所のルートにより供給または受電している場合であっても、設備構成として、別ルートでの連系が可能で状態であれば、独立性を有していることとみなすことができる。)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	第73条 ディーゼル発電機	モード3, 4	非常用ディーゼル発電機2基が動作可能であること(予備潤滑運転(ターニング、エアラン)を行う場合、運転上の制限を適用しない。) 燃料油サージタンクの貯油量(保有油量)が1,375L以上であること(非常用ディーゼル発電機が運転中および運転終了後の24時間は、運転上の制限を適用しない。)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	第74条 ディーゼル発電機	モード5, 6および使用済燃料ピットに燃料体を貯蔵している期間	非常用ディーゼル発電機2基が動作可能であること(非常用ディーゼル発電機の予備潤滑運転(ターニング、エアラン)を行う場合、運転上の制限を適用しない。)(非常用ディーゼル発電機には、非常用発電機1基を含めることができる。) 非常用発電機とは、所要の電力供給が可能となるをいう。なお、非常用発電機は複数の号炉で共用することができる。 非常用ディーゼル発電機に対応する燃料油サージタンクの貯油量(保有油量)が1,375L以上であること(非常用ディーゼル発電機が運転中および運転終了後の24時間は、運転上の制限を適用しない。)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	第75条 ディーゼル発電機の燃料油、潤滑油および始動用空気	モード3, 4, 5, 6および使用済燃料ピットに燃料体を貯蔵している期間	所要の非常用ディーゼル発電機の燃料油貯油槽および重油タンクの油量(保有油量)が250kL以上であること(燃料油貯油槽129kL以上および重油タンク129kL以上をいう。) 所要の非常用ディーゼル発電機の潤滑油タンクの油量(保有油量)が4,800L以上であること(予備潤滑運転(ターニング、エアラン)を行う場合、運転上の制限を適用しない。) 非常用ディーゼル発電機が運転中および運転終了後の24時間は、運転上の制限を適用しない。 所要の非常用ディーゼル発電機の起動用空気貯槽圧が2.50MPa以上であること(予備潤滑運転(ターニング、エアラン)を行う場合、運転上の制限を適用しない。) 非常用ディーゼル発電機が運転中および運転終了後の24時間は、運転上の制限を適用しない。	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	第76条 非常用直流通電源	モード3, 4	非常用直流通電源2系統(蓄電池非常用および充電器が動作可能であること(充電器は充電器または後備充電器のいずれかを用い、両方が機能喪失となつて動作不能とみなす。))	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	第77条 非常用直流通電源	モード5, 6および照射済燃料移動中	所要の設備の維持に必要な非常用直流通電線に接続する系統(蓄電池非常用および充電器が動作可能であること(充電器は充電器または後備充電器のいずれかを用い、両方が機能喪失となつて動作不能とみなす。))	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	第78条 所内非常用母線	モード3, 4	非常用高圧母線2回線、非常用低圧母線4回線、非常用直流通電線2回線および非常用計装用母線4回線が受電していること(所内非常用母線の電源の自動切替の間は、運転上の制限を適用しない。)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	第79条 所内非常用母線	モード5, 6および照射済燃料移動中	所要の設備の維持に必要な非常用高圧母線、非常用低圧母線、非常用直流通電線および非常用計装用母線が受電していること(所内非常用母線の電源の自動切替の間は、運転上の制限を適用しない。)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
海水系統他	第86条 原子炉補機冷却水系	モード3, 4	原子炉補機冷却水系2系統が動作可能であること	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

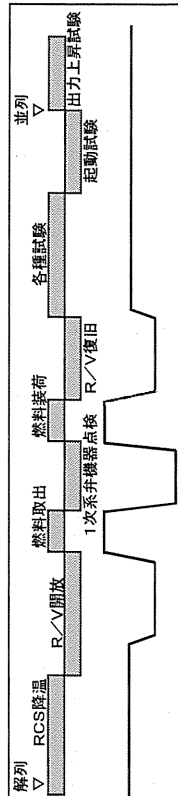


伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

RCS水位		主要工程		並列▽ RCS降温 R/V開放 燃料取出 燃料装置 各種試験 並列▽ 出力上昇試験 起動試験													
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	6-2外	5-2	5-1	4	5-1	4	3	
重大事故等対応設備	第84条 (第84-4-6) 代替再循環運転装置(高圧再循環ポンプ)による高圧再循環および格納容器再循環ユニットによる格納容器内冷却	モード3, 4, 5および6	高圧注入ポンプ(B, 海水冷却)による高圧再循環系が動作可能であること(動作可能とは、ポンプが手動起動(系統構成含む)できること、または運転中であることという。)	高圧注入ポンプ(B, 海水冷却) 格納容器再循環ポンプ 格納容器再循環ポンプスクリーン 格納容器再循環ポンプスクリーン 格納容器再循環ポンプスクリーン 格納容器再循環ポンプスクリーン 格納容器再循環ユニット(AおよびB) 可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口/出口用)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		モード3	空蒸ポンプ(加圧器逃がし弁用)および加圧器逃がし弁用可搬型蓄電池を使用した加圧器逃がし弁による1次冷却系統の減圧系が動作可能であること	空蒸ポンプ(加圧器逃がし弁用) 加圧器逃がし弁用可搬型蓄電池	×												
		モード3, 4, 5および6	原子炉格納容器スプレイ系(よう薬除去薬品タンクを除く)およびスプレイ再循環系の1系統以上が動作可能であること(動作可能とは、ポンプが手動起動(系統構成含む)できることという。)	格納容器スプレイポンプ 燃料取器用水タンク 格納容器再循環ポンプ 格納容器再循環ポンプスクリーン	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		モード3, 4, 5および6	代替格納容器スプレイポンプによる代替原子炉格納容器スプレイ系が動作可能であること	代替格納容器スプレイポンプ 燃料取器用水タンク 補助給水タンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
第84条 (第84-7-1) 原子炉格納容器内自然対流冷却	第84条 (第84-7-1) 原子炉格納容器内自然対流冷却	モード3, 4, 5および6	原子炉補機冷却系による原子炉格納容器内自然対流冷却系が動作可能であること(動作可能とは、ポンプが手動起動(系統構成含む)できること、または運転中であることという。)	格納容器再循環ユニット(AおよびB)(ダク開放機構を含む) 原子炉補機冷却水ポンプ 原子炉補機冷却水ポンプスクリーン 空蒸ポンプ(原子炉補機冷却水サーージタンク用) 海水ポンプ 可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口/出口用)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		モード3, 4, 5および6	中型ポンプ車による海水供給系2系統が動作可能であること	中型ポンプ車 格納容器再循環ユニット(AおよびB) 格納容器再循環ポンプ 軽油タンク ミニローリー 可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口/出口用)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
第84条 (第84-8-1) 2次冷却系からの除熱(注水)	第84条 (第84-8-1) 2次冷却系からの除熱(注水)	モード3, 4および5(1次冷却系注水)	補助給水タンクを水源とした電動補助給水ポンプによる蒸気発生器への給水系1系統(本表に限り電動補助給水ポンプ2台で1系統とする)が動作可能であること(動作可能とは、ポンプが手動起動(系統構成含む)できること、または運転中であることという。)	電動補助給水ポンプ 補助給水タンク 空冷式非常用発電装置	×	×	△	×	×	△	×	×	×	×	×	×	
		モード3および4(蒸気発生器が熱除去のために使用されている場合)	補助給水タンクを水源としたタービン動補助給水ポンプによる蒸気発生器への給水系1系統が動作可能であること(動作可能とは、ポンプが手動起動(系統構成含む)できること、または運転中であることという。)(タービン動補助給水ポンプについては、原子炉起動時のモード3において該運転に係る調整を行っている場合および原子炉起動時のモード4は運転上の制限を適用しない。)(タービン動補助給水ポンプが動作可能とは、現場手動による起動を含む。)	タービン動補助給水ポンプ タービン動補助給水ポンプ蒸気入口弁	×	△							△	△		△	×

伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

主要工程		RCS水位		RCS降溫												燃料取出			燃料装荷			各種試験			並列	
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	6-2外	6-2	6-1	5-2	5-1	4	5-1	4	5-1	4	3	出力上昇試験	起動試験				
			キャビティ満水 RCS満水 ミッドループ RCS全フロー																							
重大事故等対処設備	第84条 (表84-12-3) 使用済燃料ピット の監視	使用済燃料ピットに燃料 体を貯蔵している期間	・使用済燃料ピット水位(AM)が2個動作可能であること(使用済燃料ピット広域 水位(AM)が動作可能であれば動作不能とはみなさない) ・使用済燃料ピット温度(AM)が2個動作可能であること ・使用済燃料ピット監視カメラ(使用済燃料ピット監視カメラ冷却設備含む)が1個 動作可能であること ・使用済燃料ピット広域水位(AM)が2個動作可能であること ・可搬型使用済燃料ピットエリアモニタが2個動作可能であること ・空冷式非常用発電装置による電源系が動作可能であること	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
	第84条 (表84-13-1) 大気への拡散抑 制、航空機燃料 火災への泡消火	モード3、4、5、6および 使用済燃料ピットに燃料 体を貯蔵している期間	・大型ポンプ車(泡混合機能付)、または大型ポンプ車および泡混合器ならびに 大型放水砲による放水系1系統が動作可能であること(1系統とは、大型ポンプ 車(泡混合機能付)1台、または大型ポンプ車1台および泡混合器1台ならびに 大型放水砲1台をいう。)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
	第84条 (表84-13-2) 海洋への拡散抑 制	モード3、4、5、6および 使用済燃料ピットに燃料 体を貯蔵している期間	・所要数で使用可能であること	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
	第84条 (表84-14-1) 補助給水タンク への補給	モード3、4、5および6	・中型ポンプ車による補助給水タンクへの補給系が動作可能であること	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
	第84条 (表84-14-2) 燃料取替用水タ ンク	モード3、4、5および6 (キャビティ他水位)	・燃料取替用水タンク水量(有効水量)が1,700m ³ 以上であること(原子炉キャビ ティ水張り、水抜き期間においては、第84条に定める水源および炉心注水手段 等が確保されていることと条件に、運転上の制限を満足していないとはみなさな い。原子炉キャビティ水張り期間とは、原子炉キャビティ水抜き作業開始から水 張り完了までの期間をいう。また、原子炉キャビティ水抜き期間とは、原子炉キャ ビティ水抜き作業開始から燃料取替用水タンク水位を回復するまでの期間をい う。)	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
	第84条 (表84-15-1) 空冷式非常用発 電装置からの給 電	モード3、4、5および6	・補助給水タンク水量(有効水量)が10m ³ 以上であること	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
	第84条 (表84-15-2) 300kVA電源車か らの給電	モード3、4、5、6以外で 使用済燃料ピットに燃料 体を貯蔵している期間	・空冷式非常用発電装置による電源系が動作可能であること	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
	第84条 (表84-15-2) 300kVA電源車か らの給電	モード3、4、5、6および 使用済燃料ピットに燃料 体を貯蔵している期間	・300kVA電源車による電源系2系統が動作可能であること(1系統とは、300kVA 電源車1台および300kVA電源車用変圧器1台をいう。)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				

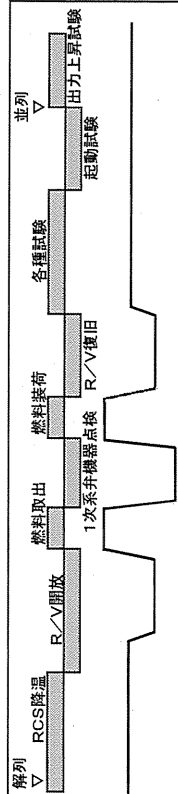


伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

主要工程		燃料取出 RCS降温 R/V開放 燃料装荷 R/V復旧 各種試験 出力上昇試験 並列 各種試験 出力上昇試験 起動試験													
項目	保安規定条文	要求モード	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モト外	5-1	5-2	4	5-1	4	3
重大事故等対応設備	第304条(表04-16-1)計装設備	要求内容	関連設備 ・線源領域中性子束検出、伝送ライン ・線源領域中性子束起動率検出、伝送ライン ・ほろ領域中性子束起動率検出、伝送ライン ・中間領域中性子束起動率検出、伝送ライン												
		キャビティ満水 RCS満水 ミッドループ RCS全フロー	(12) 未臨界の維持または監視(プラント起動時に伴う計器校正および原子炉格納容器漏えい事故発現時に計器保護のため隔離している場合は、運転上の制限を満足しないとはみなさない) ・線源領域中性子束が1チャンネル動作可能であること(P-6以上において、線源領域中性子束は電源切となるが運転上の制限を満足しないとはみなさない。) ・線源領域中性子束起動率が1チャンネル動作可能であること(多様性拡張設備であり、運転上の制限は適用しない。) ・ほろ領域中性子束が1チャンネル動作可能であること(代替パラメータ) ・中間領域中性子束が1チャンネル動作可能であること(代替パラメータ)												
RCS水位	第304条(表04-16-1)計装設備	要求内容	(13) 最終トートニングの準備(プラント起動時に伴う計器校正および原子炉格納容器漏えい事故発現時に計器保護のため隔離している場合は、運転上の制限を満足しないとはみなさない) ・格納容器内圧力(広域)が1チャンネル動作可能であること ・原子炉補機冷却水サージタンク水位が1チャンネル動作可能であること ・格納容器再循環ユニット入口温度および格納容器再循環ユニット出口温度が1チャンネル動作可能であること ・主蒸気ライン圧力が1チャンネル動作可能であること ・蒸気発生器交換水位が1チャンネル動作可能であること ・蒸気発生器広域水位が1チャンネル動作可能であること ・補助給水ライン流量が1チャンネル動作可能であること ・主蒸気ライン流量が1チャンネル動作可能であること ・線路上の制限は適用しない ・原子炉補機冷却水サージタンク広域圧力が1チャンネル動作可能であること(多様性拡張設備であり、運転上の制限は適用しない) ・格納容器再循環ユニットA、B冷却水流量が1チャンネル動作可能であること ・格納容器再循環ユニット入口温度および格納容器再循環ユニット出口温度が1チャンネル動作可能であること ・主蒸気ライン圧力が1チャンネル動作可能であること ・蒸気発生器交換水位検出、伝送ライン ・蒸気発生器広域水位検出、伝送ライン ・補助給水ライン流量検出、伝送ライン ・主蒸気ライン流量検出、伝送ライン ・格納容器内圧力(AM)検出、伝送ライン ・格納容器内温度検出、伝送ライン ・原子炉補機冷却水サージタンク加圧ライン圧力検出、伝送ライン ・1次冷却材低温側温度(広域)検出、伝送ライン ・1次冷却材高温側温度(広域)検出、伝送ライン												
		キャビティ満水 RCS満水 ミッドループ RCS全フロー	(14) 格納容器バイパスの監視(プラント起動時に伴う計器校正および原子炉格納容器漏えい事故発現時に計器保護のため隔離している場合は、運転上の制限を満足しないとはみなさない) ・蒸気発生器交換水位が1チャンネル動作可能であること ・主蒸気ライン圧力が1チャンネル動作可能であること ・補助建屋排気筒ガスモニタが1チャンネル動作可能であること(多様性拡張設備であり、運転上の制限は適用しない。) ・補助建屋排気筒ガスモニタが1チャンネル動作可能であること(代替パラメータ) ・補助建屋排気筒ガスモニタが1チャンネル動作可能であること(多様性拡張設備であり、運転上の制限は適用しない。) ・格納容器再循環ユニットA、B冷却水流量が1チャンネル動作可能であること(代替パラメータ) ・格納容器再循環ユニット入口温度および格納容器再循環ユニット出口温度が1チャンネル動作可能であること(代替パラメータ) ・1次冷却材低温側温度(広域)が1チャンネル動作可能であること(代替パラメータ) ・1次冷却材高温側温度(広域)が1チャンネル動作可能であること(代替パラメータ) ・1次冷却材低温側温度(広域)が1チャンネル動作可能であること(代替パラメータ) ・1次冷却材高温側温度(広域)が1チャンネル動作可能であること(代替パラメータ) ・加圧器水位が1チャンネル動作可能であること(代替パラメータ)												

伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

主要工程		RCS水位												各種試験												出力上昇試験
RCS水位		RCS水位												各種試験												出力上昇試験
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モト外	6-2	6-2	6-1	5-2	5-1	4	5-1	4	5-1	4	3					
重大事故等対応設備	第84条(表84-18-1)監視測定設備	モード3, 4, 5, 6および使用済燃料ピットに燃料体を貯蔵している期間	(1)放射線物質の濃度および放射線量の測定 ・可搬型モニタが5個動作可能であること ・可搬型モニタが6個動作可能であること ・可搬型ダストサンプラが1個動作可能であること ・GM汚染サーベイメータが1個動作可能であること ・NaIシンチレーションサーベイメータが1個動作可能であること ・ZnSシンチレーションサーベイメータが1個動作可能であること ・電離箱サーベイメータが1個動作可能であること ・小型船舶が使用可能であること (2)風向、風速その他の気象条件の測定 ・可搬型気象観測設備が1個動作可能であること																							
	第84条(表84-19-1)緊急時対策所代智文流電源からの給電	モード3, 4, 5, 6および使用済燃料ピットに燃料体を貯蔵している期間	緊急時対策所用発電機が2台動作可能であること																							
	第84条(表84-19-2)緊急時対策所居住性の確保	モード3, 4, 5, 6および使用済燃料ピットに燃料体を貯蔵している期間	緊急時対策所(空気浄化系)の所要数(空気浄化系)が使用可能であること ・緊急時対策所(空気浄化系)の所要数(空気浄化系)が使用可能であること ・酸濃度計 ・二酸化炭素濃度計 ・緊急時対策所エリアモニタ ・可搬型モニタ ・加圧判断に使用する可搬型モニタ ・可搬型気象観測設備のうち風向風速計																							
	第84条(表84-20-1)通信連絡を行うために必要な設備	モード3, 4, 5, 6および使用済燃料ピットに燃料体を貯蔵している期間	衛星電話設備が12台動作可能であること(12台は固定型4台および可搬型8台をいう) ・無線通信設備が4台動作可能であること ・緊急時専用携帯型通信設備が13台動作可能であること ・SPDS表示端末が1台動作可能であること ・安全パラメータ表示システムが1系列動作可能であること(安全パラメータ表示システムについては、A系またはB系のいずれかにより有線系、無線系または衛星系回線で所内および所外へ伝送可能であることをいう) ・テレビ会議システムが1系列動作可能であること(統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備については、テレビ会議システム、IP-電話、IP-ファックスのいずれかにより通信可能であることをいう) ・IP-電話が1系列動作可能であること(統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備については、テレビ会議システム、IP-電話、IP-ファックスのいずれかにより通信可能であることをいう)																							



伊方発電所第3号機 第15回 施設定期検査時の安全管理の計画

主要工程		解列 ▽ RCS降溫 R/V開放 燃料取出 1次系弁機器点検 燃料接荷 R/V復旧 各種試験 起動試験 出力上昇試験 並列 ▽																	
RCS水位		キヤビティ満水 RCS満水 ミッドループ RCS全フロー																	
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	6-2	6-1	5-2	5-1	4	5-1	4	5-1	4	3
重大事故等対処設備	第84条 (第84-21-1) 中型ポンプ車	モード3, 4, 5および6	・中型ポンプ車が6台動作可能であること	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	第84条 (第84-22-1) アクセルスタートの確保	モード3, 4, 5および6以外で使用済燃料ピットに燃料体を貯蔵している期間	・中型ポンプ車が2台動作可能であること																
	第84条 (第84-22-2) インターフェイスシステムLOCA時の1次冷却材の拡散防止	モード3	・ホイルローダが2台動作可能であること																
			・ISLOCA床下ドレン配管が使用可能であること(余熱除去冷却器室目皿～余熱除去ポンプ室通えい検知ピット、格納容器スプレッド冷却器室目皿および安全補機配管室(EI 3.3m)目皿～格納容器スプレッドポンプ室通えい検知ピットまでのドレン配管)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
定期事業者検査以外の安全上重要な保守点検活動				該当なし															

本計画は安全確保の方法の基本方針を示すものであり、作業工程等の変更により計画の変更が生じる可能性があるが、仮に変更が生じた場合においても、保安規定の遵守を徹底し安全確保に努めるものとする。

計画期間中における点検の実施状況等

「伊方発電所第3号機 点検計画（第15保全サイクル）」

点検計画の記載について

1. 点検計画については以下の方針に従い記載している。

(1) 記載している設備について

点検計画には発電所設備の主要機器として以下の設備を対象に記載している。

①核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の14第1項に規定する技術基準が適用される設備

a. 定期事業者検査の対象となる設備

b. 実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則別表第2において工事計画書に記載が要求されている設備

なお、工事計画書において仕様が記載されていない設備については、日常の管理の中で健全性が確認でき、かつ、取替が可能な下記のものについて除外する。

(a) 防保護具、現地操作時に用いる工具類、固縛用ナイロンスリング類

(b) 一般消耗品（電池類他）

(c) 一般産業品（可搬型照明、電話・ファックス他）

② 保全の重要度が高い設備

(2) 記載している点検について

点検計画には上記設備の主要な点検として以下を記載している。

・ 定期事業者検査に係る点検

・ 施設定期検査の都度性能維持のための措置を伴う点検

・ 施設定期検査対象機器に係る点検のうち定期事業者検査に係る点検の実施頻度より短い実施頻度で行う性能維持のための措置を伴う点検

・ 記載対象設備において上記に該当する点検がない設備については主要な点検

上記以外の点検（主要機器の上記条件以外の点検や附帯設備^{※1}の点検等）については、「伊方発電所保守内規」に定めている。

※1 附帯設備の例

潤滑油、潤滑水、シール水、冷却設備、電源、制御回路、オリフィス、レデューサ、サイトグラス等

(3) 保全の重要度について

機器レベルの保全の重要度は、「伊方発電所保守内規」により定義されている G1～G5 の5段階で表記する。5段階のうち、G1, G2, G3 は、保全重要度「高」、また、G4, G5 は、保全重要度「低」として取り扱うこととする。

ただし、構築物の保全の重要度については、系統レベルの影響度評価結果に基づき、「高」又は「低」と記載している。

なお、保全重要度「高」の設備については保全方式として予防保全（時間基準保全、状態基準保全）を選定し、事後保全は選定していない。

(4) 保全方式について

保全方式について以下のとおり記載している。

・ 時間基準保全を採用しているもの：点検頻度

・ 状態基準保全を採用しているもの：CBM

・ 事後保全を採用しているもの：BDM

なお、休止設備については使用時に保全方式を決定するため「-」と表示している。

(5) 点検頻度について

次の整理により「C」：保全サイクル、「M」：月、「Y」：年、「YP」：年、「B」：状態監視の結果で表記している。

- ・施設定期検査中に実施する性能維持のための措置を伴う点検及びそれに伴い実施する点検については、「M」又は「YP」により表記している。
なお、「M」により表示された頻度は、原子炉の運転期間（総合負荷性能検査～解列）に対応した値を示している。
- ・「供用期間中検査」や「蒸気タービン開放検査」のように施設定期検査中に実施するもので年度管理するものについては、「YP」により表記している。
- ・換気空調設備のようにプラント運転中に点検を実施するもので年度管理するものについては、「Y」により表記している。
- ・施設定期検査中に実施する性能維持のための措置を伴わない点検については、「C」※²により表記している。
また、「燃料取扱設備検査」のようにプラント運転中に実施しているものでも施設定期検査に合わせて実施しているものは「C」により表示している。
- ・このほか肉厚管理指針に従い管理する肉厚測定は、検査箇所ごとの管理となるため、本表では、“2次系配管肉厚検査計画による”と表記している。
- ・状態監視の結果実施した機器の分解点検等の後に実施する機能・性能試験については、「B」により表記している。

※2：「C」により表記している「機能・性能試験」、「漏えい試験」、「外観点検」等は、性能維持のための措置を予定していない点検であり、劣化進展がごく軽微なため、分解・開放点検やプラント施設定期検査停止時期に合わせた実施管理が適しているものを対象としている。

(6) 点検時期について

時間基準保全の点検については、“定検起動後”、“プラント運転中”の表現により、備考欄に実施時期を記載している。

なお、これらの記載のないものについては、定検停止中に実施することとしている。

(7) 状態監視方法の記載について

- ・保全方式として状態基準保全を用いる機器については、経年劣化事象等による劣化の有無・劣化の傾向を監視する方法（状態監視技術、定例試験、巡視点検等）並びにその頻度を備考欄に記載している。
- ・保全方式として時間基準保全を採用している機器については、保全をより充実する観点で採用している状態監視技術について方法・頻度を備考欄に記載している。
- ・状態監視の結果に基づき分解点検の実施時期を定め、分解点検に合わせて機能・性能試験を定期事業者検査として実施する場合については、技術基準適合判断を伴う状態監視の頻度を一定の期間として扱い、機能・性能試験の頻度を「B」により表記している。

(8) 今回の実施計画について

第15保全サイクル中に点検を計画するものに「○」を記載している。

なお、複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目にあつては、本保全サイクル中に1つでも点検の計画があれば「○」としている。

(9) 前回実施時期について

当該点検の前回実績（実施時期）を記載。

なお、複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目にあつては、最新実績を記載している。

目 次

1. 点検計画 設計基準事故対処設備等

機器又は系統名	ページ
原子炉本体 [炉心]	参考1-6
原子炉本体 [原子炉容器]	参考1-6
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [燃料取扱設備]	参考1-6
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [燃料貯蔵設備]	参考1-7
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備]	参考1-7
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [燃料取替用水設備]	参考1-8
原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備]	参考1-8
原子炉冷却系統施設 [主蒸気・主給水設備]	参考1-11
原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備]	参考1-14
原子炉冷却系統施設 [燃料取替用水設備]	参考1-19
原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備]	参考1-19
原子炉冷却系統施設 [化学体積制御設備]	参考1-25
原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却水設備]	参考1-25
原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却海水設備]	参考1-27
原子炉冷却系統施設 [原子炉格納容器内の一次冷却材の漏えいを監視する装置]	参考1-28
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [車室, 円板, 隔板, 噴口, 翼, 車軸]	参考1-28
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [調速装置及び非常調速装置並びに 調速装置で制御される主要弁]	参考1-29
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [復水器]	参考1-30
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [蒸気タービンに附属する熱交換 器]	参考1-32
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [蒸気タービンに附属する給水ポン プ及び貯水設備並びに給水処理設 備]	参考1-34
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [蒸気タービンに附属する管等]	参考1-36

機器又は系統名	ページ
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [その他設備]	参考1-37
計測制御系統施設 [制御材]	参考1-38
計測制御系統施設 [制御棒駆動装置]	参考1-38
計測制御系統施設 [ほう酸注入機能を有する設備]	参考1-39
計測制御系統施設 [制御用空気設備]	参考1-40
計測制御系統施設 [その他設備]	参考1-40
計測制御系統施設 [発電用原子炉の運転を管理するた めの制御装置]	参考1-41
放射性廃棄物の廃棄施設 [気体, 液体, 又は固体廃棄物貯蔵 設備]	参考1-41
放射性廃棄物の廃棄施設 [気体, 液体, 又は固体廃棄物処理 設備]	参考1-42
放射性廃棄物の廃棄施設 [原子炉格納容器本体外の廃棄物貯 蔵設備又は廃棄物処理設備からの流 体状の放射性廃棄物の漏えいの検出 装置又は自動警報装置]	参考1-46
放射線管理施設 [放射線管理用計測装置]	参考1-46
放射線管理施設 [換気設備]	参考1-46
原子炉格納施設 [原子炉格納容器]	参考1-54
原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備]	参考1-62
原子炉施設 [その他設備]	参考1-65
その他発電用原子炉の附属施設 (非常用電源設備) [非常用発電装置]	参考1-66
その他発電用原子炉の附属施設 (非常用電源設備) [その他の電源装置]	参考1-67
その他発電用原子炉の附属施設 (非常用電源設備) [その他機器]	参考1-68
その他発電用原子炉の附属施設 (常用電源設備) [発電機]	参考1-68
その他発電用原子炉の附属施設 (常用電源設備) [変圧器]	参考1-68

機器又は系統名	ページ
その他発電用原子炉の附属施設 (常用電源設備) [しゃ断器]	参考1-68
その他発電用原子炉の附属施設 (常用電源設備) [その他機器]	参考1-68
その他発電用原子炉の附属施設 (補助ボイラー) [補助ボイラー]	参考1-68
その他発電用原子炉の附属施設 (補助ボイラー) [補助ボイラーに属する燃料燃焼設備]	参考1-68
その他発電用原子炉の附属施設 (火災防護設備) [消火設備]	参考1-69
その他発電用原子炉の附属施設 (火災防護設備) [その他設備]	参考1-69
その他発電用原子炉の附属施設 (浸水防護施設) [外郭浸水防護設備] [内郭浸水防護設備]	参考1-70
その他発電用原子炉の附属施設 (浸水防護施設) [その他設備]	参考1-70
その他発電用原子炉の附属施設 (非常用取水設備) [取水設備]	参考1-70
その他発電用原子炉の附属施設 (緊急時対策所)	参考1-71
竜巻防護対策設備	参考1-71
土木建築設備	参考1-71
プラント総合	参考1-71
全般機器	参考1-71

2. 点検計画 重大事故等対処設備

機器又は系統名	ページ
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [燃料貯蔵設備]	参考1-72
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備]	参考1-72
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [その他設備]	参考1-73
原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備]	参考1-73
原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却水設備]	参考1-73
原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却海水設備]	参考1-74
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [蒸気タービンに附属する管等]	参考1-74

機器又は系統名	ページ
計測制御系統施設 [計測装置]	参考1-74
計測制御系統施設 [工学的安全施設等の作動信号]	参考1-75
計測制御系統施設 [制御用空気設備]	参考1-75
計測制御系統施設 [その他設備]	参考1-75
放射線管理施設 [放射線管理用計測装置]	参考1-76
放射線管理施設 [換気設備]	参考1-76
原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備]	参考1-78
原子炉格納施設 [その他設備]	参考1-79
原子炉施設 [その他設備]	参考1-79
その他発電用原子炉の附属施設 (非常用電源設備) [非常用発電装置]	参考1-79
その他発電用原子炉の附属施設 (非常用電源設備) [その他の電源装置]	参考1-82
その他発電用原子炉の附属施設 (浸水防護施設) [内郭浸水防護設備]	参考1-83
その他発電用原子炉の附属施設 (緊急時対策所)	参考1-83
全般機器	参考1-84

3. 点検計画 1, 2, 3号機共用設備

機器又は系統名	ページ
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [その他設備]	参考1-85
放射性廃棄物の廃棄施設 [気体, 液体, 又は固体廃棄物貯蔵設備]	参考1-85
放射性廃棄物の廃棄施設 [気体, 液体, 又は固体廃棄物処理設備]	参考1-85
放射線管理施設 [放射線管理用計測装置]	参考1-85
放射線管理施設 [換気設備]	参考1-86
その他発電用原子炉の附属施設 [電気設備]	参考1-89
その他発電用原子炉の附属施設 (火災防護設備) [消火設備]	参考1-90

4. 行政指導文書の点検指示による点検

機器又は系統名	ページ
原子炉本体 [炉心]	参考1-91

1.点検計画 設計基準事故対処設備等

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
原子炉本体 〔炉心〕	照射済燃料集合体	※1一式 外観点検	G3	IC	○	14回	2 燃料集合体外観検査	※1 炉心設計による ※2 燃料集合体の不具合により 計画	
		外観点検		IC	○	14回	700 燃料集合体外観検査 ※2		
	照射済燃料集合体(取出し燃料)	※1一式 外観点検	G3	IC	○	14回	81 燃料集合体外観検査(取出し燃料)	※炉心設計による	
		157体 外観点検		IC	○	14回	3 燃料集合体内配置検査		
		48体 ※一式 ※一式 ※一式		IC	○	14回			
		1.燃料集合体 2.内挿物 (1)制御棒カスカ (2)ハーレーボイスン (3)フレンジグデハイス (4)2次中性子源		IC	○	14回			
	原子炉本体のうち炉心		機能・性能試験	G3	IC	○	14回	4 原子炉停止余裕検査	定検起動後
			機能・性能試験		IC	○	14回	80 炉物理検査	
	原子炉本体 〔原子炉容器〕 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取扱設備〕	原子炉容器	開放点検	G1	13M	○	14回		
			1台 機能・性能試験		G3	IC	○	14回	36 燃料取扱装置機能検査
燃料取扱器ケレン3号		機能・性能試験	G3	IC		○	14回	94 燃料取扱設備検査(動作・インターロック試験等)	
		簡易点検(点検手入れ)	G3	IC	○	14回			
使用済燃料ピットケレン3号		1台 機能・性能試験	G3	IC	○	14回	36 燃料取扱装置機能検査		
		機能・性能試験		G3	IC	○	14回	94 燃料取扱設備検査(動作・インターロック試験等)	プラント運転中
燃料取扱器ケレン3号		簡易点検(点検手入れ)	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中	
		1台 機能・性能試験		G3	IC	○	14回	74 燃料取扱設備検査	プラント運転中
燃料取扱器ケレン3号		機能・性能試験	G3		IC	○	14回	94 燃料取扱設備検査(動作・インターロック試験等)	プラント運転中
		簡易点検(点検手入れ)		G3	1Y	○	2019年		プラント運転中
燃料移送装置(FH/B側)	1台 機能・性能試験	G3	IC	○	14回	36 燃料取扱装置機能検査	(潤滑油診断:2C)		
	機能・性能試験		G3	IC	○	14回	94 燃料取扱設備検査(動作・インターロック試験等)	プラント運転中	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定換回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料貯蔵設備〕 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕	燃料移送装置(C/V側)	1台 機能・性能試験	G3	IC	○	14回	36 燃料取扱装置機能検査	(潤滑油診断:2C)	
	新燃料エレベータ	1台 機能・性能試験	G3	IC	○	14回	94 燃料取扱設備検査(動作・インターロック試験等)	プラント運転中 (潤滑油診断:2C)	
		簡易点検(点検手入れ)	G3	IC	○	14回			
	燃料取置ブック	1台 機能・性能試験	G3	IC	○	14回	74 燃料取扱設備検査	プラント運転中 (潤滑油診断:2C)	
		機能・性能試験	G3	IC	○	14回	94 燃料取扱設備検査(動作・インターロック試験等)		
	新燃料取扱工具	1台 外観点検	G3	IC	○	14回	94 燃料取扱設備検査(動作・インターロック試験等)	プラント運転中	
		機能・性能試験	G3	IC	○	14回			
	新制御棒クラスプ取扱工具	1台 外観点検	G3	IC	○	14回	94 燃料取扱設備検査(動作・インターロック試験等)	プラント運転中	
		機能・性能試験	G3	IC	○	14回			
	使用済燃料取扱工具	3台 外観点検	G3	IC	○	14回	94 燃料取扱設備検査(動作・インターロック試験等)	一部プラント運転中	
		機能・性能試験 他	G3	IC	○	14回			
	核燃料貯蔵庫(ラック)	使用済燃料ピット浄化冷却設備	機能・性能試験	G3,G4	IC	○	14回	75 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化系機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
			分解点検	G3	130M	—	13回		(振動診断:1M)
		使用済燃料ピットポンプ*3A電動機	分解点検	G3	130M	—	14回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
分解点検			G3	130M	—	13回		(振動診断:1M)	
使用済燃料ピットポンプ*3B電動機		分解点検	G3	130M	○	9回		(振動診断:1M)	
		開放点検	G4	130M	—	9回			
使用済燃料ピット脱塩塔*40kg3A		開放点検	G4	130M	—	9回			
		開放点検	G4	130M	—	9回			
使用済燃料ピット脱塩塔*40kg3B		開放点検	G3	195M	—	12回	91 1次系熱交換器検査		
		非破壊試験		390M	—	12回	91 1次系熱交換器検査		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取替用水設備〕	使用済燃料L外冷却器3B	開放点検 非破壊試験	G3	195M 390M	—	13回	91 1次系熱交換器検査		
	使用済燃料L外冷却器3C	開放点検	G3	130M	—	11回	91 1次系熱交換器検査		
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕 その他の弁一式	分解点検 他	G3,G4	144M~ 180M	—	14回	84 1次系弁検査 86 1次系逆止弁検査	一部プラント運転中	
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕 その他機器一式	単体調整試験 他	G4	13M	○	14回			
	燃料取替用水タンクポンプ3A	機能・性能試験 分解点検	G3	10C 130M	—	13回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:IM, 潤滑油診断:2C, 赤外線診断:IM)	
	燃料取替用水タンクポンプ3A電動機	機能・性能試験 分解点検	G3	6C 78M	—	14回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:IM, 赤外線診断:IM)	
	燃料取替用水タンクポンプ3B	機能・性能試験 分解点検	G3	10C 130M	—	13回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:IM, 潤滑油診断:2C, 赤外線診断:IM)	
	燃料取替用水タンクポンプ3B電動機	機能・性能試験 分解点検	G3	6C 78M	—	13回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:IM, 赤外線診断:IM)	
	原子炉冷却系統施設 〔一次冷却材の循環設備〕	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取替用水設備〕 その他の弁一式	分解点検 他	G3,G4	130M~ 156M	—	13回	84 1次系弁検査 85 1次系安全弁検査	
		核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取替用水設備〕 その他機器一式	開放点検 他	G3	195M~ 390M	—	9回		
蒸気発生器3A		開放点検(1次側マンホール) 増締め(1次側マンホール) 非破壊試験	G1	26M 13M 26M	— ○ —	14回 14回 14回	6 蒸気発生器伝熱管体積検査	伝熱管数:3,382本	
		開放点検(2次側マンホール) 開放点検(2次側ハンドホール)		65M 39M	— ○	14回 12回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
蒸気発生器3B		開放点検(1次側マニホール)	G1	26M	○	13回		
		増締め(1次側マニホール)		13M	—	14回		
		非破壊試験		26M	○	13回	6 蒸気発生器伝熱管体積検査	伝熱管数:3,382本
		開放点検(2次側マニホール)		65M	—	14回		
		開放点検(2次側ハンドホール)		39M	○	13回		
		開放点検(1次側マニホール)		26M	○	13回		
		増締め(1次側マニホール)		13M	—	14回		
		非破壊試験		26M	○	13回	6 蒸気発生器伝熱管体積検査	伝熱管数:3,382本
		開放点検(2次側マニホール)		65M	—	14回		
		開放点検(2次側ハンドホール)		39M	○	13回		
加圧器安全弁3A	3V-RC-055	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	8 加圧器安全弁機能検査	
		分解点検		13M	○	14回	10 加圧器安全弁分解検査	
		漏えい試験		1C	○	14回	9 加圧器安全弁漏えい検査	
		機能・性能試験		1C	○	14回	8 加圧器安全弁機能検査	
加圧器安全弁3B	3V-RC-056	機能・性能試験	G3	13M	○	14回	10 加圧器安全弁分解検査	
		分解点検		1C	○	14回	9 加圧器安全弁漏えい検査	
		漏えい試験		1C	○	14回	8 加圧器安全弁機能検査	
		機能・性能試験		13M	○	14回	10 加圧器安全弁分解検査	
加圧器安全弁3C	3V-RC-057	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	8 加圧器安全弁機能検査	
		分解点検		13M	○	14回	10 加圧器安全弁分解検査	
		漏えい試験		1C	○	14回	9 加圧器安全弁漏えい検査	
		機能・性能試験		1C	○	14回	8 加圧器安全弁機能検査	
加圧器逃がし弁3A	3PCV-452A	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	11 加圧器逃がし弁機能検査	
		分解点検(弁本体)		26M	○	13回	13 加圧器逃がし弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		26M	○	13回		
		漏えい試験		1C	○	14回	12 加圧器逃がし弁漏えい検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定換回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
	加圧器逃がし弁3B	3PCV-452B	G3	IC	○	14回	11 加圧器逃がし弁機能検査		
		機能・性能試験			—	14回	13 加圧器逃がし弁分解検査		
		分解点検(弁本体)			—	14回			
		分解点検(駆動部)			○	14回	12 加圧器逃がし弁漏えい検査		
	加圧器逃がし弁3A	3V-RC-054A	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	14 加圧器逃がし弁元弁機能検査	
			分解点検(弁本体)			—	12回		
			分解点検(駆動部)			—	7回		
			分解点検(電動機)			—	7回		
	加圧器逃がし弁3B	3V-RC-054B	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	14 加圧器逃がし弁元弁機能検査	
			分解点検(弁本体)			—	13回		
			分解点検(駆動部)			—	13回		
			分解点検(電動機)			—	3回		
	1次冷却材ポンプ3A		機能・性能試験	G1	IC	○	14回	92 1次冷却材ポンプ機能検査	一部定検起動後
			分解点検			—	7回		
軸封部点検			○			14回	90 1次冷却材ポンプカニカル分解検査	一部アラート運転中	
非破壊試験(フライホイール)			—			13回	(振動診断: 1M, 1C, 潤滑油診断: 1C)		
1次冷却材ポンプ3B		機能・性能試験	G1	IC	○	14回	92 1次冷却材ポンプ機能検査	一部定検起動後	
		分解点検			—	13回			
		軸封部点検			○	14回	90 1次冷却材ポンプカニカル分解検査		一部アラート運転中
		非破壊試験(フライホイール)			—	14回	(振動診断: 1M, 1C, 潤滑油診断: 1C)		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕 一部定検起動後
原子炉冷却系統施設 〔主蒸気・主給水設備〕	1次冷却材ポンプ3C	機能・性能試験	G1	1C	○	14回	92 1次冷却材ポンプ機能検査	一部定検起動後
		分解点検		130M	—	7回		
	1次冷却材ポンプ3C電動機	軸封部点検	G1	13M	○	14回	90 1次冷却材ポンプ/カニカニール分解検査	一部アブレット運転中
		分解点検		39M	○	12回		
	加圧器3号	非破壊試験(ブライホイール)	G3	130M	○	9回		(振動診断: 1M, 1C, 潤滑油診断: 1C)
		開放点検		39M	○	14回		
		マンホール増締め		13M	○	14回		
		分解点検 他		13M~156M	○	14回	84 1次系弁検査	
	原子炉冷却系統施設 〔一次冷却材の循環設備〕 その他の弁一式	分解点検 他	G1~G3	13M~325M	○	14回	34 安全保護系設定値確認検査 35 アブレット状態監視設備機能検査	
		機能・性能試験		G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査
	主蒸気安全弁3A1	分解点検	G3	26M	—	14回		
		漏えい試験		2C	—	14回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
	主蒸気安全弁3B1	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	○	13回		
主蒸気安全弁3C1	漏えい試験	G3	2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査		
	機能・性能試験		1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査		
主蒸気安全弁3A2	分解点検	G3	26M	○	13回			
	漏えい試験		2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査		
主蒸気安全弁3B2	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査		
	分解点検		26M	—	14回			
主蒸気安全弁3C2	漏えい試験	G3	2C	—	14回	26 主蒸気安全弁漏えい検査		
	機能・性能試験		1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
主蒸気安全弁3B2	3V-MS-522B	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	○	13回		
		漏えい試験		2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
	3V-MS-522C	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	○	13回		
		漏えい試験		2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
主蒸気安全弁3A3	3V-MS-523A	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	—	14回		
		漏えい試験		2C	—	14回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
	3V-MS-523B	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	○	13回		
		漏えい試験		2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
主蒸気安全弁3B3	3V-MS-523C	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	○	13回		
		漏えい試験		2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
	3V-MS-523D	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	○	13回		
		漏えい試験		2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
主蒸気安全弁3A4	3V-MS-524A	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	—	14回		
		漏えい試験		2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
	3V-MS-524B	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	○	13回		
		漏えい試験		2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
主蒸気安全弁3C4	3V-MS-524C	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	○	13回		
		漏えい試験		2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
主蒸気安全弁3A5	3V-MS-525A	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	—	14回		
		漏えい試験		2C	—	14回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
主蒸気安全弁3B5	3V-MS-525B	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	○	13回		
		漏えい試験		2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
主蒸気安全弁3C5	3V-MS-525C	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	25 主蒸気安全弁機能検査	
		分解点検		26M	○	13回		
		漏えい試験		2C	○	13回	26 主蒸気安全弁漏えい検査	
主蒸気逃がし弁3A	3PCV-465	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	27 主蒸気逃がし弁機能検査 148 最終ヒートシフト熱輸送設備作動検査	一部プラント運転中
		分解点検(弁本体)		13M	○	14回	122 2次系弁検査	
		分解点検(駆動部)		52M	○	13回		
主蒸気逃がし弁3B	3PCV-475	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	28 主蒸気逃がし弁漏えい検査	
		分解点検(弁本体)		13M	○	14回	27 主蒸気逃がし弁機能検査 148 最終ヒートシフト熱輸送設備作動検査	
		分解点検(駆動部)		52M	○	13回	122 2次系弁検査	
		漏えい試験		1C	○	14回	28 主蒸気逃がし弁漏えい検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
原子炉冷却系統施設 〔余熱除去設備〕	主蒸気逃がし弁3C	3PCV-485 機能・性能試験	G3	1C	○	14回	27 主蒸気逃がし弁機能検査 148 最終ヒートシフト熱輸送設備作動検査	一部アブト運転中
		分解点検(弁本体)		13M	○	14回	122 2次系弁検査	
		分解点検(駆動部)		52M	○	13回		
	主蒸気隔離弁3A	3V-MS-528A 機能・性能試験	G3	1C	○	14回	28 主蒸気逃がし弁漏えい検査	
		分解点検(弁本体)		26M	—	14回	29 主蒸気隔離弁機能検査	
		分解点検(駆動部)		26M	○	14回	122 2次系弁検査	
	主蒸気隔離弁3B	3V-MS-528B 機能・性能試験	G3	1C	○	14回	29 主蒸気隔離弁機能検査	
		分解点検(弁本体)		26M	—	14回	122 2次系弁検査	
		分解点検(駆動部)		26M	○	14回		
	主蒸気隔離弁3C	3V-MS-528C 機能・性能試験	G3	1C	○	14回	29 主蒸気隔離弁機能検査	
		分解点検(弁本体)		26M	○	13回	122 2次系弁検査	
		分解点検(駆動部)		26M	—	14回		
原子炉冷却系統施設 〔主蒸気・主給水設備〕 その他の弁一式	分解点検 他	G3	13M~195M	○	14回	122 2次系弁検査		
	単体調整試験 他		13M	○	14回			
	機能・性能試験		10C	—	11回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C, 赤外線診断:1C)	
余熱除去ポンプ3A	機能点検	G3	130M	—	11回	19 非常用炉心冷却系ポンプ分解検査 (低圧注入系ポンプ) 145 その他原子炉注水系ポンプ分解検査		
	機能・性能試験		12C	—	14回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断: 2C, 赤外線診断:1C) 有効性評価No.8の反映	
	分解点検		156M	—	14回			
		潤滑油入替	26M	○	14回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
機器又は系統名	余熱除去ポンプ3B	機能・性能試験	G3	10C	—	14回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C, 赤外線診断:1C)	
		分解点検		130M	—	14回	19 非常用炉心冷却系ポンプ分解検査 (低圧注入系ポンプ) 145 その他原子炉注水系ポンプ分解検査		
		機能・性能試験		12C	—	12回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C, 赤外線診断:1C) 有効性評価 No.8の反映	
	ループ3C余熱除去系第2入口弁	分解点検	G3	156M	—	12回			
		潤滑油入替		26M	○	14回			
		分解点検(弁本体)		130M	—	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
	ループ3B余熱除去系第2入口弁	分解点検(駆動部)	G3	130M	—	9回			
		分解点検(電動機)		195M	—	7回			
		分解点検(弁本体)		130M	—	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
	余熱除去ポンプ3A再循環ポンプ:RWST側入口弁	機能・性能試験	G3	10C,15C	—	8回			弁本体, 電動機の分解点検に合 わせて実施
		分解点検(弁本体)		130M	—	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		130M	—	13回			
		分解点検(電動機)	195M	—	6回				

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	余熱除去ターボ3B再循環サブ3V-RH-024B 出口弁	機能・性能試験	G3	10C,15C	—	13回	84.1次系弁検査	弁本体,電動機の分解点検に合 わせて実施
		分解点検(弁本体)		130M	—	7回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検(駆動部)		130M	—	13回		
		分解点検(電動機)		195M	—	6回		
	余熱除去ターボ3A出口弁	機能・性能試験	G3	10C,15C	—	7回	84.1次系弁検査	弁本体,電動機の分解点検に合 わせて実施
		分解点検(弁本体)		130M	—	7回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検(駆動部)		130M	—	7回		
		分解点検(電動機)		195M	—	4回		
	余熱除去ターボ3B出口弁	機能・性能試験	G3	10C,15C	—	11回	84.1次系弁検査	弁本体,電動機の分解点検に合 わせて実施
		分解点検(弁本体)		130M	—	11回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検(駆動部)		130M	—	8回		
		分解点検(電動機)		195M	—	4回		
余熱除去ライノループ3A低溫側入口第2逆止弁	3V-RH-044A	分解点検	G3	78M	—	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検		78M	—	10回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検		78M	—	14回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検		39M	—	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
	余熱除去ラインループ3B低溫側入口第1逆止弁	分解点検	G3	39M	○	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
		分解点検	G3	39M	—	14回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
		分解点検(弁本体)	G3	130M	—	12回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
	余熱除去系出口連絡ライン弁3A	分解点検(駆動部)		130M	—	9回			
		分解点検(電動機)		195M	—	8回			
		分解点検(弁本体)	G3	130M	—	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
	余熱除去ラインループ3B	分解点検(駆動部)		130M	—	13回			
		分解点検(電動機)		195M	—	3回			
		分解点検(弁本体)	G3	130M	—	12回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
	余熱除去ラインループ3A高溫側注入弁	分解点検(駆動部)		130M	—	9回			
		分解点検(電動機)		195M	—	7回			
		分解点検(弁本体)	G3	130M	—	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
余熱除去ラインループ3B高溫側注入弁	分解点検(駆動部)		130M	—	13回				
	分解点検(電動機)		195M	—	8回				
	分解点検(弁本体)	G3	78M	—	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
	余熱除去ラインループ3C高温側入口逆止弁 3V-RH-053B	分解点検	G3	78M	—	12回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
		ループ3B余熱除去系第1入口弁 3PCV-420	分解点検(弁本体)	G3	130M	—	11回		20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査
			分解点検(駆動部)		130M	—	9回		
			分解点検(電動機)		195M	—	8回		
	ループ3C余熱除去系第1入口弁 3PCV-430		分解点検(弁本体)	G3	130M	—	12回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		130M	—	13回		
			分解点検(電動機)		195M	—	8回		
			機能・性能試験	G3	4C,8C	—	14回	84 1次系弁検査	
	余熱除去冷却器3A出口流量調整弁 3HCV-603		分解点検(弁本体)		104M	—	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		52M	—	14回		
			機能・性能試験	G3	4C,8C	—	13回	84 1次系弁検査	
			分解点検(弁本体)		104M	—	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
余熱除去冷却器3B出口流量調整弁 3HCV-613		分解点検(駆動部)		52M	○	13回			
		機能・性能試験	G3	4C,8C	—	13回	84 1次系弁検査		
		分解点検(弁本体)		104M	—	13回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		52M	—	13回			
余熱除去ループ3A流量制御弁弁 3FCV-604		機能・性能試験	G3	4C,8C	—	13回	84 1次系弁検査		
		分解点検(弁本体)		104M	—	12回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		52M	○	13回			
		分解点検(電動機)		52M	—	13回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
原子炉冷却系統施設 〔燃料取替用水設備〕	3FCV-6.14 余熱除去ループ3B流量制御弁	機能・性能試験	G3	4C,8C	—	13回	84 1次系弁検査	弁本体、駆動部の分解点検に合 わせて実施
		分解点検(弁本体)		104M	—	11回	20 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (低圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検(駆動部)		52M	—	14回		
		開放点検	G3	195M	—	13回	91 1次系熱交換器検査	
		非破壊試験		390M	—	13回	91 1次系熱交換器検査	
		開放点検	G3	195M	—	13回	91 1次系熱交換器検査	
		非破壊試験		390M	—	13回	91 1次系熱交換器検査	
		分解点検 他	G3,G4	104M~ 390M	○	14回	84 1次系弁検査 85 1次系安全弁検査 86 1次系逆止弁検査	
		単体調整試験 他	G2	13M	○	14回		
		開放点検	G3	195M	—	13回		
原子炉冷却系統施設 〔燃料取替用水設備〕	高圧及び低圧注入系	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	16 非常用炉心冷却系機能検査 147 その他原子炉注水系機能検査	プラント運転中 〔対象設備〕 ・高圧注入ポンプ3A, 3B ・余熱除去ポンプ3A, 3B
		機能・性能試験(状態監視含む)	G3	6M	○	14回	137 運転中安全系ポンプ機能検査	
		分解点検	G3	195M	—	1回	17 非常用炉心冷却系ポンプ分解検査 (高圧注入系ポンプ) 145 その他原子炉注水系ポンプ分解 検査	
		分解点検	G3	130M	—	14回		
		分解点検	G3	195M	—	2回	17 非常用炉心冷却系ポンプ分解検査 (高圧注入系ポンプ) 145 その他原子炉注水系ポンプ分解 検査	
		分解点検	G3	130M	—	12回		
		分解点検	G3	130M	—	14回		
		分解点検	G3	130M	—	14回		
		分解点検	G3	130M	—	14回		
		分解点検	G3	130M	—	14回		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
高圧注入ポンプ3A入口弁	3V-SI-002A	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	13回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	〔()内は適用する設備診断技術〕	
		分解点検(駆動部)		130M	—	14回			
		分解点検(電動機)		195M	—	6回			
	高圧注入ポンプ3B入口弁	3V-SI-002B	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	11回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	〔()内は適用する設備診断技術〕
			分解点検(駆動部)		130M	○	5回		
			分解点検(電動機)		195M	—	6回		
	高圧注入ポンプ3A封水注入ライン止弁	3V-SI-026A	機能・性能試験	G3	10C,15C	—	8回	84 1次系弁検査	弁本体、電動機の分解点検に合 わせて実施
			分解点検(弁本体)		130M	—	6回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
			分解点検(電動機)		130M	—	6回		
	高圧注入ポンプ3B封水注入ライン止弁	3V-SI-026B	機能・性能試験	G3	10C,15C	—	13回	84 1次系弁検査	弁本体、電動機の分解点検に合 わせて実施
			分解点検(弁本体)		130M	—	9回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
			分解点検(電動機)		130M	—	13回		
高圧注入ライン隔離弁3A	3V-SI-062A	機能・性能試験	G3	10C,15C	—	14回	84 1次系弁検査	弁本体、電動機の分解点検に合 わせて実施	
		分解点検(弁本体)		130M	—	14回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		130M	—	14回			
		分解点検(電動機)		130M	—	14回			
		分解点検(電動機)		195M	—	7回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔 ()内は適用する設備診断技術〕 弁本体、電動機の分解点検に合 わせて実施
高圧注入ライン隔離弁3B	3V-SI-062B	機能・性能試験	G3	10C, 15C	—	8回	84 1次系弁検査	
		分解点検(弁本体)		130M	—	8回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検(駆動部)		130M	○	5回		
		分解点検(電動機)		195M	—	4回		
高圧注入ポンプ出口連絡弁3A	3V-SI-066A	分解点検(弁本体)	G3	130M	—	14回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検(駆動部)		130M	—	14回		
		分解点検(電動機)		195M	—	8回		
高圧注入ポンプ出口連絡弁3B	3V-SI-066B	分解点検(弁本体)	G3	130M	—	8回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検(駆動部)		130M	—	13回		
		分解点検(電動機)		195M	—	8回		
高温側高圧注入ライン止弁3A	3V-SI-067A	分解点検(弁本体)	G3	130M	—	11回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検(駆動部)		130M	—	10回		
		分解点検(電動機)		195M	—	7回		
高温側高圧注入ライン止弁3B	3V-SI-067B	分解点検(弁本体)	G3	130M	—	6回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検(駆動部)		130M	—	6回		
		分解点検(電動機)		195M	—	8回		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	高圧注入ラインループ3A低温側第2逆止弁	3V-SI-072A 分解点検	G3	260M	—	12回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	高圧注入ラインループ3B低温側第2逆止弁	3V-SI-072B 分解点検	G3	260M	—	12回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	高圧注入ラインループ3C低温側第2逆止弁	3V-SI-072C 分解点検	G3	260M	—	10回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	高圧注入ラインループ3A低温側第1逆止弁	3V-SI-075A 分解点検	G3	260M	○	12回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	高圧注入ラインループ3B低温側第1逆止弁	3V-SI-075B 分解点検	G3	260M	—	12回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	高圧注入ラインループ3C低温側第1逆止弁	3V-SI-075C 分解点検	G3	260M	—	—	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	28回にて初回点検を計画
	高圧注入ラインループ3A高温側第2逆止弁	3V-SI-079A 分解点検	G3	260M	—	—	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	29回にて初回点検を計画
	高圧注入ラインループ3B高温側第2逆止弁	3V-SI-079B 分解点検	G3	260M	—	—	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	30回にて初回点検を計画
	高圧注入ラインループ3C高温側第2逆止弁	3V-SI-079C 分解点検	G3	260M	—	—	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	29回にて初回点検を計画
	高圧注入ラインループ3A高温側第1逆止弁	3V-SI-079D 分解点検	G3	260M	—	—	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	30回にて初回点検を計画
	高圧注入ラインループ3A高温側第1逆止弁	3V-SI-082A 分解点検	G3	65M	—	13回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実 施計画	前回実施 時期(定換 回数)	検査名	備考 〔 ()内は適用する 設備診断技術 〕
	高圧注入ラインループ3B高温側第1逆止弁	3V-SI-082B 分解点検	G3	65M	—	12回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		3V-SI-082C 分解点検	G3	65M	—	13回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
	格納容器再循環ポンプ3A隔離弁	3V-SI-093A 分解点検(弁本体)	G3	156M	—	4回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
		分解点検(駆動部)		130M	—	14回		
		分解点検(電動機)		195M	—	7回		
		3V-SI-093B 分解点検(弁本体)	G3	156M	—	10回	18 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (高圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
	格納容器再循環ポンプ3B隔離弁	3V-SI-093B 分解点検(駆動部)		130M	—	13回		
		3V-SI-093C 分解点検(電動機)		195M	—	3回		
	蓄圧注入系	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	16 非常用炉心冷却系機能検査 147 その他原子炉注水系機能検査	
		3V-SI-132A 分解点検(弁本体)	G3	130M	—	11回	22 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (蓄圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
	蓄圧タンク3A出口弁	3V-SI-132A 分解点検(弁本体)	G3	130M	—	8回		
		分解点検(駆動部)		130M	—	8回		
		分解点検(電動機)		195M	—	11回		
		3V-SI-132B 分解点検(弁本体)	G3	130M	—	13回	22 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (蓄圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解 検査	
	蓄圧タンク3B出口弁	3V-SI-132B 分解点検(駆動部)		130M	—	6回		
		3V-SI-132C 分解点検(電動機)		195M	—	3回		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	蓄圧タンク3C出口弁	3V-SI-132C 分解点検(弁本体)	G3	130M	—	13回	22 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (蓄圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		130M	—	13回		
		分解点検(電動機)		195M	—	3回		
	蓄圧タンク3A出口注入ライン第2逆止弁	3V-SI-134A 分解点検	G3	78M	—	14回	22 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (蓄圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		3V-SI-134B 分解点検	G3	78M	—	10回	22 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (蓄圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		3V-SI-134C 分解点検	G3	78M	—	12回	22 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (蓄圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	蓄圧タンク3A出口注入ライン第1逆止弁	3V-SI-136A 分解点検	G3	39M	○	13回	22 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (蓄圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		3V-SI-136B 分解点検	G3	39M	—	13回	22 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (蓄圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		3V-SI-136C 分解点検	G3	39M	—	14回	22 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 (蓄圧注入系主要弁) 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	蓄圧タンク3A	開放点検	G3	195M	—	1回		
	蓄圧タンク3B	開放点検	G3	195M	—	2回		
	蓄圧タンク3C	開放点検	G3	195M	—	3回		
	格納容器再循環サブ3A	外観点検	G3	1C, 2C	○	14回	89 1次系容器検査	
	格納容器再循環サブ3B	外観点検	G3	1C, 2C	○	14回	89 1次系容器検査	
	原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] その他の弁一式	分解点検 他	G3,G4	78M~ 390M	○	14回	84 1次系弁検査 85 1次系安全弁検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
原子炉冷却系統施設 [化学体積制御設備]	原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] その他AM弁一式	分解点検 他	G3	156M~208M	—	13回	84 1次系弁検査	
	原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] その他機器一式	分解点検 他	G2,G3	13M~195M	○	14回		
	充てんポンプ冷却材補給系	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	69 充てんポンプ冷却材補給系機能検査 147 その他原子炉注水系機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:3M)
	充てんポンプ3A	分解点検	G3	65M	—	14回	145 その他原子炉注水系ポンプ分解検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:6M)
	充てんポンプ3A電動機	分解点検	G3	130M	—	13回		
		潤滑油入替		13M	○	14回		
	充てんポンプ3B	分解点検	G3	65M	—	13回	145 その他原子炉注水系ポンプ分解検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:3M)
	充てんポンプ3B電動機	分解点検	G3	130M	—	13回		
		潤滑油入替		13M	○	14回		
	充てんポンプ3C	分解点検	G3	65M	○	13回	145 その他原子炉注水系ポンプ分解検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:3M)
	充てんポンプ3C電動機	分解点検	G3	130M	—	13回		
		潤滑油入替		13M	○	14回		
	体積制御タンク3号	開放点検	G3	195M	—	8回		
	冷却材74/3号	開放点検	G3	130M	—	9回		
	非再生冷却器3号	開放点検	G3	195M	—	10回	91 1次系熱交換器検査	
原子炉冷却系統施設 [化学体積制御設備] その他の弁一式	非破壊試験		390M	—	10回	91 1次系熱交換器検査		
	分解点検 他	G3,G4	13M~390M	○	14回	84 1次系弁検査 85 1次系安全弁検査 86 1次系逆止弁検査		
	分解点検 他	G2~G4	13M~390M	○	14回		有効性評価 No.4の反映	
	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	15 原子炉補機冷却系機能検査		
	機能・性能試験	G3	10C	—	13回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1M)	
	分解点検		130M	—	13回	82 1次系ポンプ分解検査		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
原子炉補機冷却水ポンプ3A電動機		機能・性能試験	G3	10C	—	13回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		130M	—	13回		
		潤滑油入替		26M	○	14回		
原子炉補機冷却水ポンプ3B		機能・性能試験	G3	10C	—	13回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1M)
		分解点検		130M	—	13回	82 1次系ポンプ分解検査	
		機能・性能試験		10C	—	14回	83 1次系ポンプ機能検査	
原子炉補機冷却水ポンプ3C		機能・性能試験	G3	10C	—	14回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		130M	—	14回		
		潤滑油入替		26M	○	14回		
原子炉補機冷却水ポンプ3C		機能・性能試験	G3	10C	—	14回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1M)
		分解点検		130M	—	14回	82 1次系ポンプ分解検査	
		機能・性能試験		10C	—	13回	83 1次系ポンプ機能検査	
原子炉補機冷却水ポンプ3D		機能・性能試験	G3	10C	—	13回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1M)
		分解点検		130M	—	13回		
		潤滑油入替		26M	○	14回		
原子炉補機冷却水ポンプ3D		機能・性能試験	G3	10C	○	8回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1M)
		分解点検		130M	○	8回	82 1次系ポンプ分解検査	
		機能・性能試験		10C	—	13回	83 1次系ポンプ機能検査	
原子炉補機冷却水ポンプ3D電動機		機能・性能試験	G3	10C	—	13回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		130M	—	13回		
		潤滑油入替		26M	○	14回		
原子炉補機冷却水ポンプ3A		開放点検	G3	26M	○	14回	91 1次系熱交換器検査	
		非破壊試験		26M	○	14回	91 1次系熱交換器検査	
		漏えい試験		2C	○	14回	91 1次系熱交換器検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実 施計画	前回実施 時期(定検 回数)	検査名	備考 〔()内は適用する 設備診断技術〕		
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水 設備〕	原子炉補機冷却水冷却器3B	開放点検	G3	26M	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
		非破壊試験		26M	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
		漏えい試験		2C	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
		開放点検	G3	26M	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
		非破壊試験		26M	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
		漏えい試験		2C	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
	原子炉補機冷却水冷却器3C	開放点検	G3	26M	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
		非破壊試験		26M	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
		漏えい試験		2C	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
	原子炉補機冷却水冷却器3D	開放点検	G3	26M	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
		非破壊試験		26M	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
		漏えい試験		2C	○	14回	91 1次系熱交換器検査			
原子炉補機冷却水ポンプ3号	原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却水設備〕 その他の弁一式	開放点検	G3	195M	—	14回				
		分解点検 他		G3,G4	52M~ 390M	○	14回		85 1次系安全弁検査 84 1次系弁検査 87 1次系真空破壊弁検査	
		分解点検 他			G3	130M~ 156M	—		13回	84 1次系弁検査
		単体調整試験 他	G2		13M	○	14回			
		原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却水設備〕 その他機器一式	機能・性能試験	G3	2C	○	14回		121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M)
			分解点検		26M	○	14回		120 2次系ポンプ分解検査	
	機能・性能試験		G3		8C	—	14回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C)	
	海水ポンプ3A	分解点検	G3	104M	—	14回				
		潤滑油入替		26M	○	14回				
		機能・性能試験		G3	2C	○	14回		121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M)
	海水ポンプ3B	分解点検	G3	26M	○	14回	120 2次系ポンプ分解検査			
		機能・性能試験		26M	○	14回	121 2次系ポンプ機能検査			
分解点検		26M		○	14回	120 2次系ポンプ分解検査				

機器又はシステム名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕		
原子炉冷却系統施設 〔原子炉格納容器内の一次冷却材の漏えいを監視する装置〕	海水ポンプ3B電動機	機能・性能試験	G3	8C	—	13回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C)		
		分解点検		104M	—	13回				
		潤滑油入替		26M	○	14回				
		機能・性能試験	G3	2C	○	14回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M)		
		分解点検		26M	○	14回	120 2次系ポンプ分解検査			
		機能・性能試験	G3	8C	○	13回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C)		
		分解点検		104M	○	13回				
		潤滑油入替		26M	○	14回				
		機能・性能試験	G3	2C	○	14回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M)		
		分解点検		26M	○	14回	120 2次系ポンプ分解検査			
		機能・性能試験	G3	8C	—	13回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C)		
		分解点検		104M	—	13回				
潤滑油入替		26M	○	14回						
分解点検 他	G3	26M~195M	○	14回	122 2次系弁検査					
分解点検 他	G3	26M~196M	○	14回		一部点検実施				
原子炉冷却系統施設 〔原子炉格納容器内の一次冷却材の漏えいを監視する装置〕	海水ポンプ3C電動機	機能・性能試験	G2	1C	○	14回	78 格納容器サンプ水位上昇率測定装置及び格納容器内凝縮液量測定装置漏えい検出器機能検査			
		機能・性能試験	G1	1C	○	14回	55 総合負荷性能検査 129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)			
		開放点検		4YP	—	13回	128 蒸気タービン開放検査			
		部分点検		26M	○	14回				
		原子炉冷却系統施設 〔原子炉格納容器内の一次冷却材の漏えいを監視する装置〕	海水ポンプ3D	機能・性能試験	G3	8C	—	13回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M)
				分解点検		104M	—	13回		
				潤滑油入替		26M	○	14回		
				機能・性能試験	G3	2C	○	14回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M)
				分解点検		26M	○	14回	120 2次系ポンプ分解検査	
				機能・性能試験	G3	8C	—	13回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C)
				分解点検		104M	—	13回		
				潤滑油入替		26M	○	14回		
機能・性能試験	G3			26M~195M	○	14回	122 2次系弁検査			
分解点検 他	G3			26M~196M	○	14回		一部点検実施		
機能・性能試験	G2			1C	○	14回	78 格納容器サンプ水位上昇率測定装置及び格納容器内凝縮液量測定装置漏えい検出器機能検査			
機能・性能試験	G1			1C	○	14回	55 総合負荷性能検査 129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)			
開放点検		4YP	—	13回	128 蒸気タービン開放検査					
部分点検		26M	○	14回						

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 ()内は適用する [設備診断技術]
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [調速装置及び非常調速装置並びに調速装置で制御される主要弁]	低圧第1タービン	機能・性能試験	G1	1C	○	14回	55 総合負荷性能検査	
		開放点検		4YP	○	12回	128 蒸気タービン開放検査	
		部分点検		26M	-	14回	128 蒸気タービン開放検査	
		機能・性能試験	G1	1C	○	14回	55 総合負荷性能検査	
		開放点検		4YP	-	14回	128 蒸気タービン開放検査	
		部分点検		26M	○	13回	128 蒸気タービン開放検査	
	主蒸気止め弁3A	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
		開放点検		4YP	-	14回	128 蒸気タービン開放検査	
		機能・性能試験		G3	1C	○	14回	
		開放点検	4YP		○	12回	128 蒸気タービン開放検査	
		機能・性能試験	G3		1C	○	14回	
		開放点検		4YP	○	14回	128 蒸気タービン開放検査	
	機能・性能試験	G3		1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
	開放点検		4YP	○	12回	128 蒸気タービン開放検査		
	機能・性能試験		G3	1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
	開放点検	4YP		-	14回	128 蒸気タービン開放検査		
	機能・性能試験	G3		1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
	開放点検		4YP	○	14回	128 蒸気タービン開放検査		
	機能・性能試験		G3	1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
	開放点検	4YP		-	14回	128 蒸気タービン開放検査		
	機能・性能試験	G3		1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
	開放点検		4YP	○	12回	128 蒸気タービン開放検査		
	機能・性能試験		G3	1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
	開放点検	4YP		○	12回	128 蒸気タービン開放検査		
機能・性能試験	G3	1C		○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)		
開放点検		4YP	○	12回	128 蒸気タービン開放検査			
機能・性能試験		G3	1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)		
開放点検	4YP		○	14回	128 蒸気タービン開放検査			
機能・性能試験	G3		1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)		
開放点検		4YP	-	14回	128 蒸気タービン開放検査			
機能・性能試験		G3	1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)		
開放点検	4YP		○	14回	128 蒸気タービン開放検査			
機能・性能試験	G3		1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)		
開放点検		4YP	○	14回	128 蒸気タービン開放検査			
機能・性能試験		G3	1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)		
開放点検	4YP		○	14回	128 蒸気タービン開放検査			
機能・性能試験	G3		1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)		
開放点検		4YP	-	14回	128 蒸気タービン開放検査			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン 〔復水器〕	再熱蒸気止め弁3A	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
		開放点検					128 蒸気タービン開放検査	
	再熱蒸気止め弁3B	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
		開放点検					128 蒸気タービン開放検査	
	再熱蒸気止め弁3C	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
		開放点検					128 蒸気タービン開放検査	
	再熱蒸気止め弁3D	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
		開放点検					128 蒸気タービン開放検査	
	インターロック弁3A	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
		開放点検					128 蒸気タービン開放検査	
	インターロック弁3B	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
		開放点検					128 蒸気タービン開放検査	
	インターロック弁3C	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
		開放点検					128 蒸気タービン開放検査	
	インターロック弁3D	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
		開放点検					128 蒸気タービン開放検査	
	蒸気タービン附属設備	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	142 蒸気タービン附属設備機能検査	
		開放点検					128 蒸気タービン開放検査	
	復水器ホットウェル3A	開放点検	G3	13M	○	14回	128 蒸気タービン開放検査	
		機能・性能試験					129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
	復水器ホットウェル3B	開放点検	G3	13M	○	14回	128 蒸気タービン開放検査	
		機能・性能試験					129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
	復水器出入口水室3A	開放点検	G3	13M	○	14回	128 蒸気タービン開放検査	
		機能・性能試験					129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	
復水器出入口水室3B	開放点検	G3	13M	○	14回	128 蒸気タービン開放検査		
	機能・性能試験					129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)		
復水器出入口水室3C	開放点検	G3	13M	○	14回	128 蒸気タービン開放検査		
	機能・性能試験					129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)		
復水器出入口水室3D	開放点検	G3	13M	○	14回	128 蒸気タービン開放検査		
	機能・性能試験					129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	復水ポンプ3A	分解点検	G4	78M	○	9回		
	復水ポンプ3A電動機	分解点検	G4	78M	○	9回	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C)	
		潤滑油入替		26M	○	13回		
	復水ポンプ3B	分解点検	G4	78M	—	11回		
	復水ポンプ3B電動機	分解点検	G4	78M	—	11回	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C)	
		潤滑油入替		26M	○	13回		
	復水ポンプ3C	分解点検	G4	78M	—	13回		
	復水ポンプ3C電動機	分解点検	G4	78M	—	13回	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C)	
		潤滑油入替		26M	○	13回		
	復水器真空ポンプ3A	分解点検	G4	78M	—	11回	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1M)	
	復水器真空ポンプ3A電動機	分解点検	G4	130M	—	7回	(振動診断:1M, 赤外線診断:1M)	
	復水器真空ポンプ3B	分解点検	G4	78M	—	14回	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1M)	
	復水器真空ポンプ3B電動機	分解点検	G4	130M	—	14回	(振動診断:1M, 赤外線診断:1M)	
	復水器過器3号	開放点検	G3	104M	—	8回	124 2次系容器検査	
	循環水ポンプ3A	分解点検	G3	39M	—	13回	(潤滑油診断:1C)	
	循環水ポンプ3A電動機	分解点検	G3	78M	—	13回	(振動診断:1M, 潤滑油診断:6M)	
		潤滑油入替		39M	—	13回		
	循環水ポンプ3B	分解点検	G3	39M	○	13回	(潤滑油診断:1C)	
	循環水ポンプ3B電動機	分解点検	G3	78M	○	12回	(振動診断:1M, 潤滑油診断:6M)	
		潤滑油入替		39M	○	13回		
	復水器真空ポンプセパレーター3A逃がし弁 3V-BS-657A	機能・性能試験	G4	10C	—	8回	123 2次系安全弁検査	
		分解点検		130M	—	8回		
		漏えい試験		10C	—	8回	123 2次系安全弁検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕		
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する熱交換器〕	復水器真空ポンプセパレータータンク3B返がし弁	機能・性能試験	G4	10C	—	9回	123 2次系安全弁検査			
	原子炉冷却系統施設 蒸気タービン〔復水器〕 その他機器 一式	分解点検			130M	—	9回			
		漏えい試験			10C	—	9回	123 2次系安全弁検査		
		分解点検		G3	CBM	—	8回		(振動診断:IC)〔復水器水室空気抜ポンプ、復水器水室空気抜ポンプ電動機〕	
	水分離加熱器3A	水分離加熱器3A	開放点検(GEN側蒸気室)	G3	104M	○	7回	128 蒸気タービン開放検査		
			開放点検(GOV側蒸気室)		104M	—	9回	128 蒸気タービン開放検査		
			開放点検(胴側蒸気室)		52M	—	14回	128 蒸気タービン開放検査		
			非破壊試験		104M	○	9回	128 蒸気タービン開放検査		
			漏えい試験		8C	—	9回	128 蒸気タービン開放検査		
			水分離加熱器3B	水分離加熱器3B	開放点検(GEN側蒸気室)	G3	104M	—	8回	128 蒸気タービン開放検査
開放点検(GOV側蒸気室)						104M	—	14回	128 蒸気タービン開放検査	
開放点検(胴側蒸気室)						52M	—	12回	128 蒸気タービン開放検査	
非破壊試験						104M	—	14回	128 蒸気タービン開放検査	
脱気器3A			脱気器3A	漏えい試験		8C	—	8回	128 蒸気タービン開放検査	
	開放点検	G3		104M	—	14回	124 2次系容器検査			
	開放点検			104M	○	7回	124 2次系容器検査			
	開放点検	G3		26M	○	13回	124 2次系容器検査			
	開放点検	G3		130M	—	7回	125 2次系熱交換器検査			
	漏えい試験			10C	—	7回	125 2次系熱交換器検査			
	第1低圧給水加熱器3A	第1低圧給水加熱器3A		開放点検	G3	52M	—	13回	125 2次系熱交換器検査	
				非破壊試験		52M	—	13回	125 2次系熱交換器検査	
				漏えい試験		4C	—	13回	125 2次系熱交換器検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 ()内は適用する [] 設備診断技術
第1低圧給水加熱器3B		開放点検	G3	52M	-	14回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	-	14回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	-	14回	125 2次系熱交換器検査	
		開放点検		52M	○	11回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	○	11回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	○	11回	125 2次系熱交換器検査	
第2低圧給水加熱器3A		開放点検	G3	52M	○	12回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	○	12回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	○	12回	125 2次系熱交換器検査	
		開放点検		52M	-	13回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	-	13回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	-	13回	125 2次系熱交換器検査	
第3低圧給水加熱器3A		開放点検	G3	52M	-	14回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	-	14回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	-	14回	125 2次系熱交換器検査	
		開放点検		52M	○	11回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	○	11回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	○	11回	125 2次系熱交換器検査	
第4低圧給水加熱器3A		開放点検	G3	52M	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		開放点検		52M	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
第4低圧給水加熱器3B		開放点検	G3	52M	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		開放点検		52M	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	-	12回	125 2次系熱交換器検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保金の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備〕	原子炉冷却系統施設 蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する熱交換器〕 その他の弁一式	分解点検 他	G4	52M~65M	-	13回		
	原子炉冷却系統施設 蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する熱交換器〕 その他の機器 一式	開放点検 他	G4,G5	104M	-	12回		一部BDMあり
	補助給水系	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	23 補助給水系機能検査	
	タービン動補助給水ポンプ3号	機能・性能試験	G3	10C	-	13回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:3M)
	電動補助給水ポンプ3A	分解点検		130M	-	13回	24 補助給水系ポンプ分解検査	
	電動補助給水ポンプ3A電動機	分解点検	G3	130M	-	13回	24 補助給水系ポンプ分解検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
	電動補助給水ポンプ3B	潤滑油入替		26M	○	14回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C) 有効性評価 No.8の反映
	電動補助給水ポンプ3B電動機	分解点検	G3	130M	-	13回	24 補助給水系ポンプ分解検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
	蒸気タービン附属設備	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	142 蒸気タービン附属設備機能検査	
	復水アースポンプ3A	分解点検	G4	117M	-	12回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
	復水アースポンプ3A電動機	分解点検	G4	78M	-	12回		(振動診断:1M)
	復水アースポンプ3B	分解点検	G4	117M	-	13回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
	復水アースポンプ3B電動機	分解点検	G4	78M	-	14回		(振動診断:1M)
	復水アースポンプ3C	分解点検	G4	117M	-	11回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
復水アースポンプ3C電動機	分解点検	G4	78M	-	13回		(振動診断:1M)	
給水アースポンプ3A	分解点検	G3	78M	-	12回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	給水ポンプ・スタンプ3A電動機	分解点検	G3	78M	—	12回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C)
		潤滑油入替		13M	○	14回		
	給水ポンプ・スタンプ3B	分解点検	G3	78M	—	14回		
		分解点検	G3	78M	—	14回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C)
	給水ポンプ・スタンプ3B電動機	潤滑油入替		13M	○	14回		
		分解点検	G3	104M	○	7回	120 2次系ポンプ分解検査	
	給水ポンプ・スタンプ3C	分解点検	G3	104M	—	13回		(振動診断:6M, 潤滑油診断:2C)
		潤滑油入替		52M	○	13回		
	電動主給水ポンプ3号	分解点検	G3	130M	—	7回	120 2次系ポンプ分解検査	(振動診断:6M, 潤滑油診断:1C)
		ロータ精密点検		260M	—	—	120 2次系ポンプ分解検査	16回にて初回点検を計画
	電動主給水ポンプ3号電動機	分解点検	G3	130M	—	13回		(振動診断:6M)
		機能・性能試験	G3	6C	—	14回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:3M)
	タービン動主給水ポンプ3A	分解点検		78M	—	14回		
		機能・性能試験	G3	4C	—	13回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M)
	主給水ポンプタービン3A	分解点検		52M	—	14回	120 2次系ポンプ分解検査	
		機能・性能試験	G3	1C	○	14回	121 2次系ポンプ機能検査	
	タービン動主給水ポンプ保安装置・调速装置 3A	分解点検	G3	52M	○	11回		
		機能・性能試験	G3	6C	—	11回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:3M)
	タービン動主給水ポンプ3B	分解点検		78M	—	11回		
		機能・性能試験	G3	4C	—	12回	121 2次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M)
	主給水ポンプタービン3B	分解点検	G3	52M	—	12回	120 2次系ポンプ分解検査	
		機能・性能試験	G3	1C	○	14回	121 2次系ポンプ機能検査	
	タービン動主給水ポンプ保安装置・调速装置 3B	分解点検		52M	—	12回	121 2次系ポンプ機能検査	
		機能・性能試験	G3	52M	○	11回	121 2次系ポンプ機能検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	補助給水タンク3号	開放点検	G3	104M	-	12回		
	第6 高圧給水加熱器3A	開放点検	G3	52M	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	-	12回	125 2次系熱交換器検査	
	第6 高圧給水加熱器3B	開放点検	G3	52M	-	13回	125 2次系熱交換器検査	
		非破壊試験		52M	-	13回	125 2次系熱交換器検査	
		漏えい試験		4C	-	13回	125 2次系熱交換器検査	
	復水脱塩塔3A	開放点検	G3	130M	○	10回	124 2次系容器検査	
	復水脱塩塔3B	開放点検	G3	130M	-	11回	124 2次系容器検査	
	復水脱塩塔3C	開放点検	G3	130M	-	7回	124 2次系容器検査	
	復水脱塩塔3D	開放点検	G3	130M	-	8回	124 2次系容器検査	
	復水脱塩塔3E	開放点検	G3	130M	-	14回	124 2次系容器検査	
	原子炉冷却系統施設 蒸気タービン[蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備]その他機器 一式	分解点検 他	G3,G4	13M~195M	○	14回		(振動診断:IM)モニタ注入ポンプ 電動機,希トランジ注入ポンプ*電動機) (振動診断:IC)濃ヒトランジ注入ポンプ*電動機,予備薬注ポンプ*電動機) (振動診断:IC,潤滑油診断:IC)蒸気発生器水張ポンプ) (振動診断:IC,潤滑油診断:IC)蒸気発生器水張ポンプ*電動機) 有効性評価 No.9の反映
原子炉冷却系統施設 [蒸気タービンに附属する管等]	主な配管(主蒸気系統・再熱蒸気系統・抽気系統) 一式	開放点検(非破壊試験)	G3	※1	○	14回	128 蒸気タービン開放検査	※1 2次系配管肉厚検査計画による。
		目視点検		1C	○	14回	128 蒸気タービン開放検査	
	2次系配管等※2(上記以外の主蒸気系統・再熱蒸気系統・抽気系統・復水系統・給水系統・トレン系統・その他の系統) 一式 ※2 配管の他,ポンプ,熱交換器,弁等を含む。	非破壊試験	G3	※1	○	14回	126 2次系配管検査	※1 2次系配管肉厚検査計画による。
		外観点検		1C	○	14回	126 2次系配管検査	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [その他設備]	原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [蒸気タービンに付属する管等] その他機器一式	開放点検 他	G3,G4	52M~104M	○	14回		
		機能・性能試験	G1,G3	1C	○	14回	55 総合負荷性能検査	定検起動後
	主蒸気ガンブ弁3A	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	129 蒸気タービン性能検査(保安装置検査)	一部定検起動後
		分解点検(弁本体)		13M	○	14回	61 主蒸気ガンブ弁機能検査	
	主蒸気ガンブ弁3B	分解点検(駆動部)		78M	-	13回	122 2次系弁検査	一部プラント運転中
		機能・性能試験	G3	1C	○	14回	61 主蒸気ガンブ弁機能検査	
	主蒸気ガンブ弁3C	分解点検(弁本体)		13M	○	14回	122 2次系弁検査	一部プラント運転中
		分解点検(駆動部)		78M	-	13回		
	主蒸気ガンブ弁3D	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	61 主蒸気ガンブ弁機能検査	一部プラント運転中
		分解点検(弁本体)		52M	○	11回	122 2次系弁検査	
	主蒸気ガンブ弁3E	分解点検(駆動部)		78M	-	13回		
		クランクハンギン取替		13M	-	14回		
	主蒸気ガンブ弁3E	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	61 主蒸気ガンブ弁機能検査	一部プラント運転中
		分解点検(弁本体)		52M	○	11回	122 2次系弁検査	
主蒸気ガンブ弁3E	分解点検(駆動部)		78M	-	13回			
	クランクハンギン取替		13M	-	14回			
主蒸気ガンブ弁3E	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	61 主蒸気ガンブ弁機能検査	一部プラント運転中	
	分解点検(弁本体)		52M	-	14回	122 2次系弁検査		
主蒸気ガンブ弁3E	分解点検(駆動部)		78M	-	13回			
	クランクハンギン取替		13M	○	13回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保金の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
計測制御系統施設 〔制御材〕	主蒸気ガンブ弁3F	3TCV-500F	G3	1C	○	14回	61 主蒸気ガンブ弁機能検査	一部プラント運転中	
		機能・性能試験			—	14回	122 2次系弁検査		
		分解点検(弁本体)			—	13回			
		分解点検(駆動部)			○	13回			
	主蒸気ガンブ弁3G	3TCV-500G	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	61 主蒸気ガンブ弁機能検査	一部プラント運転中
			分解点検(弁本体)			—	12回	122 2次系弁検査	
			分解点検(駆動部)			—	13回		
			クランクハンギン取替			○	14回		
	主蒸気ガンブ弁3H	3TCV-500H	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	61 主蒸気ガンブ弁機能検査	一部プラント運転中
			分解点検(弁本体)			—	12回	122 2次系弁検査	
			分解点検(駆動部)			—	13回		
			クランクハンギン取替			○	14回		
計測制御系統施設 〔制御材〕	原子炉冷却系統施設 蒸気タービン[その他設備]その他の弁 一式	分解点検 他	G3,G4	13M~390M	○	14回	122 2次系弁検査	一部プラント運転中	
		分解点検(弁本体)			—	14回	123 2次系安全弁検査		
		分解点検(駆動部)			—	13回			
		クランクハンギン取替			○	14回			
	原子炉冷却系統施設 蒸気タービン[その他設備] 他	48本	機能・性能試験	G2	13M~260M	○	14回	(ターニング油ポンプ)電動機 振動診断:6M(他) 一部点検実施	一部プラント運転中
			分解点検 他			—	14回		
			機能・性能試験			○	14回	106 制御棒クランク動作検査	
			外観点検			○	14回	107 制御棒クランク検査	
	制御棒クランク ハーナルボイス ブランキングデバイス 2次中性子源	48本 ※一式 ※一式 ※一式	機能・性能試験	G3	1C	○	14回		※炉心設計による
			分解点検			—	14回	30 制御棒駆動系機能検査	
			機能・性能試験			○	14回	106 制御棒クランク動作検査	
			分解点検			○	13回	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1M)	
制御棒駆動系	48本	機能・性能試験	G2	1C	○	14回			
		分解点検			—	14回			
		潤滑油入替			—	14回			
		分解点検			○	13回	(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1M)		
制御棒駆動用電源M-Gセット3A 発電機	48本	機能・性能試験	G3	39M	○	13回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1M)	
		分解点検			—	14回			
		潤滑油入替			—	14回			
		分解点検			○	13回	(振動診断:1M, 赤外線診断:1M)		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
計測制御系統施設 〔ほう酸注入機能を有する設備〕	制御棒駆動用電源M-Gセット3B 発電機	分解点検 潤滑油入替	G3	39M 26M	- -	14回 14回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1M)
	制御棒駆動用電源M-Gセット3B 電動機	分解点検	G3	39M	-	14回		(振動診断:1M, 赤外線診断:1M)
	ほう酸ポンプ3A	機能・性能試験 分解点検 カニカルシール取替	G3	1C 156M 78M	○ - -	14回 7回 13回	31-2 ほう酸ポンプ機能検査 31-1 ほう酸ポンプ分解検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
	ほう酸ポンプ3A 電動機	分解点検	G3	156M	-	11回		(振動診断:1M)
	ほう酸ポンプ3B	機能・性能試験 分解点検 カニカルシール取替	G3	1C 156M 78M	○ - -	14回 8回 13回	31-2 ほう酸ポンプ機能検査 31-1 ほう酸ポンプ分解検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
	ほう酸ポンプ3B 電動機	分解点検	G3	156M	-	13回		(振動診断:1M)
	1次系補給水ポンプ3A	機能・性能試験 分解点検	G3	10C 130M	- -	13回 13回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
	1次系補給水ポンプ3A 電動機	機能・性能試験 分解点検	G3	6C 78M	- -	14回 14回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M)
	1次系補給水ポンプ3B	機能・性能試験 分解点検	G3	10C 130M	- -	13回 13回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)
	1次系補給水ポンプ3B 電動機	機能・性能試験 分解点検	G3	6C 78M	- -	14回 14回	83 1次系ポンプ機能検査	(振動診断:1M)
	ほう酸タンク3A	開放点検	G3	195M	-	14回		
	ほう酸タンク3B	開放点検	G3	195M	-	2回		
	1次系純水タンク3号	開放点検	G3	195M	-	9回		
	ほう酸740kg3号	開放点検	G3	130M	-	9回		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
計測制御系統施設 〔その他設備〕	計測制御系統施設 〔ばう酸注入機能を有する設備〕 その他弁一式	分解点検 他	G3,G4	13M~ 195M	○	14回	84 1次系弁検査 86 1次系逆止弁検査 87 1次系真空破膜弁検査	
	計測制御系統施設 〔ばう酸注入機能を有する設備〕 その他機器一式	漏えい試験	G3	10VP	—	13回		
計測制御系統施設 〔制御用空気設備〕	制御用空気圧縮機3A	機能・性能試験	G2	1C	○	14回	32 制御用空気圧縮系機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断: 1C, 赤外線診断:1M)
		部分点検		13M	○	14回		
		分解点検		26M	○	14回		
	制御用空気圧縮機3B	分解点検	G3	130M	—	13回		(振動診断:1M)
		機能・性能試験	G2	1C	○	14回	32 制御用空気圧縮系機能検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断: 1C, 赤外線診断:1M)
		部分点検		13M	○	14回		
制御用空気圧縮機3C	分解点検		26M	○	14回			
	分解点検	G3	130M	—	13回		(振動診断:1M)	
計測制御系統施設 〔制御用空気設備〕 その他弁一式	計測制御系統施設 〔制御用空気設備〕 その他弁一式	分解点検 他	G3,G4	13M~ 312M	○	14回	85 1次系安全弁検査 84 1次系弁検査	
		分解点検 他	G2,G3	13M~ 52M	○	14回		有効性評価 No.5の反映
計測制御系統施設 〔その他設備〕	1.原子炉保護系ロソク回路 2.安全防護系ロソク回路	機能・性能試験	G2	1C	○	14回	33 安全保護系機能検査	
		特性試験	G1~G4	13M	○	14回	34 安全保護系設定値確認検査	
	1.原子炉リフアップ,工学的安全施設の始動,原子炉格納容器隔離等を行うためのすべての伝送器,設定器及び保護継電器 (1)1次冷却材等計測装置 伝送器 設定器(保護継電器含む) (2)核計装装置 設定器 2.重要な指示計器 (1)1次冷却材等計測装置 中央指示計 現場指示計 現場記録計 (2)核計装装置 中央指示計 現場記録計	27回路 34回路		55個 132個 20個 16個 9個 4個 8個 1個				

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保金の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
計測制御系統施設[発電用原子炉の運転を管理するための制御装置]	事故時監視計器 圧力監視計器 水位監視計器 流量監視計器 温度監視計器	特性試験 他 7個 20個 9個 10個	G2,G4	13M	○	14回	35 プラント状態監視設備機能検査	
	事故時試料採取設備 格納容器雰囲気ガス試料採取設備	機能・性能試験 1台	G3	13M	○	14回	35 プラント状態監視設備機能検査	
	1.制御系統系 2.加圧器水位制御系 3.加圧器圧力制御系 4.蒸気発生器水位制御系 一式	機能・性能試験	G2,G3	1C	○	14回	71 計測制御系機能検査	
	1.1次系計測制御装置 2.2次系計測制御装置 一式	特性試験	G1~G4	12M~ 104M	○	14回	72 計測制御系監視機能検査	一部プラント運転中 有効性評価 No.6.38,39の反映
	炉外核計測装置 1.線源領域計測装置 2.中間領域計測装置 3.出力領域計測装置	特性試験 2台 2台 4台	G1,G2	13M~ 26M	○	14回	105 核計装設備検査	
	炉内核計測装置 一式	機能・性能試験	G2	1C	○	14回	105 核計装設備検査	
	制御棒位置指示装置	特性試験 48個	G2	13M	○	14回	108 制御棒位置指示装置設定値検査	
	IISシリアルチェーン	非破壊試験 50本	G3	78M	○	9回	109 炉内計装用シリアルチェーン体積検査	
	ハミソフロック回路 1.原子炉保護系ロック関連 2.安全保護系ロック関連	機能・性能試験 5回路 2回路	G2	1C	○	14回	110 安全保護系機能検査(ハミソフロック検査)	
	総合ターボロータ 1.原子炉トリップによるタービン、発電機トリップ 検査 2.タービントリップによる原子炉、発電機トリップ 検査 3.発電機トリップによる原子炉、タービントリップ 検査 一式	機能・性能試験	G1~G3	1C	○	14回	112 総合インターロック検査	
計測制御系統施設 その他機器 一式	単体調整試験 他 44回路	G1~G5	12M~ 169M	○	14回		一部プラント運転中 一部BDMあり 有効性評価 No.3,4の反映	
計測制御系統施設[発電用原子炉の運転を管理するための制御装置]	中央制御室外原子炉停止盤補機操作回路	機能・性能試験	G2	1C	○	14回	73 原子炉の停止制御回路健全性確認検査	
放射性廃棄物の廃棄施設 施設[気体、液体又は固体廃棄物貯蔵設備]	放射線廃棄物の廃棄施設 施設[気体、液体又は固体廃棄物貯蔵設備] 一式	開放点検	G3,G5	216M	—	2012年	プラント運転中 一部BDMあり	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔 ()内は適用する設備診断技術〕
放射線廃棄物の廃棄施設(気体、液体又は固体廃棄物処理設備)	ガス圧縮装置	2台 機能・性能試験(電動機含む) 分解点検 他	G4	IC 78M~156M 130M	○	14回	42 気体廃棄物処理系機能検査	(振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
	ガス圧縮装置電動機	2台 分解点検	G4		—	13回		
	水素再結合ガス圧縮装置	1台 機能・性能試験(電動機含む) 分解点検 他	G4	IC 104M~208M 130M	○	14回	42 気体廃棄物処理系機能検査	(振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
	水素ガス圧縮装置電動機	1台 分解点検	G4		—	11回		(振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
	水素再結合装置	1台 機能・性能試験	G4	IC	○	14回	42 気体廃棄物処理系機能検査	
	ガス減衰タンク/圧力制御弁	6台 機能・性能試験(駆動部含む) 機能・性能試験(駆動部含む) 分解点検(弁本体) 分解点検(駆動部)	G3	IC 52M~144M 144M 52M	○	14回	42 気体廃棄物処理系機能検査 84 1次系弁検査	
	ほう酸回収装置	1基 機能・性能試験	G4	2Y	○	2018年	64 液体廃棄物処理系機能検査	ブロー運転中
	廃液蒸発装置	2基 機能・性能試験	G4	2Y	○	2018年	64 液体廃棄物処理系機能検査	ブロー運転中
	ガス圧縮装置3A気水分離器破損板	分解点検	G4	195M	—	14回	88 1次系破損板検査	
	ガス圧縮装置3B気水分離器破損板	分解点検	G4	195M	—	14回	88 1次系破損板検査	
	水素再結合ガス圧縮装置気水分離器破損板	分解点検	G4	195M	—	14回	88 1次系破損板検査	
	水素再結合装置破損板	分解点検	G4	195M	○	—	88 1次系破損板検査	
	モニタタンクポンプ3A	機能・性能試験 分解点検	G4	B CBM	—	1996年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
	モニタタンクポンプ3A電動機	分解点検			—	1996年		
	モニタタンクポンプ3B	機能・性能試験 分解点検	G4	B CBM	—	1996年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
	モニタタンクポンプ3B	機能・性能試験 分解点検	G4	B CBM	—	—	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
					—	—		分解未実施

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	モーターポンプ3B電動機	機能・性能試験	G4	B	—	1996年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
		分解点検		CBM	—	1996年		
	ほう酸回収装置給水ポンプ3A	機能・性能試験	G4	B	—	1995年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		CBM	—	1995年		
	ほう酸回収装置給水ポンプ3A電動機	機能・性能試験	G4	B	—	1995年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
		分解点検		CBM	—	1995年		
	ほう酸回収装置給水ポンプ3B	機能・性能試験	G4	B	—	—	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		CBM	—	—		
	ほう酸回収装置給水ポンプ3B電動機	機能・性能試験	G4	B	—	1998年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
		分解点検		CBM	—	1998年		
	廃液蒸留水ポンプ3A	機能・性能試験	G4	B	—	1998年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		CBM	—	1998年		
	廃液蒸留水ポンプ3A電動機	機能・性能試験	G4	B	—	1998年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
		分解点検		CBM	—	1998年		
	廃液蒸留水ポンプ3B	機能・性能試験	G4	B	—	—	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		CBM	—	—		
	廃液蒸留水ポンプ3B電動機	機能・性能試験	G4	B	—	—	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		CBM	—	—		
	洗浄排水ポンプ3A	機能・性能試験	G4	B	—	2002年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
		分解点検		CBM	—	2002年		
	洗浄排水ポンプ3A電動機	機能・性能試験	G4	B	—	1995年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		CBM	—	1995年		
	洗浄排水ポンプ3A電動機	機能・性能試験	G4	B	—	1995年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
		分解点検		CBM	—	1995年		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	洗浄排水ポンプ*3B	機能・性能試験	G4	B	-	-	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C) 分解未実施
		分解点検		CBM	-	-	-	
	洗浄排水ポンプ*3B電動機	機能・性能試験	G4	B	-	1996年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C) 分解未実施
		分解点検		CBM	-	-	-	
	洗浄排水モータポンプ*3A	機能・性能試験	G4	B	-	1998年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		CBM	-	-	-	
	洗浄排水モータポンプ*3A電動機	機能・性能試験	G4	B	-	1995年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C) 分解未実施
		分解点検		CBM	-	-	-	
	洗浄排水モータポンプ*3B	機能・性能試験	G4	B	-	-	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C) 分解未実施
		分解点検		CBM	-	-	-	
	強酸トレンポンプ*3号(電動機含む)	機能・性能試験	G4	B	-	2002年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C) 分解未実施
		分解点検		CBM	-	-	-	
	格納容器冷却材トレンポンプ*3A	機能・性能試験	G4	B	-	-	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (ヘアリングモニタにより監視) 分解未実施
		分解点検		CBM	-	-	-	
	格納容器冷却材トレンポンプ*3A	機能・性能試験	G3	15C	-	7回	96 液体廃棄物処理系設備検査	(振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		195M	-	-	-	
	格納容器冷却材トレンポンプ*3A電動機	機能・性能試験	G3	15C	-	11回	96 液体廃棄物処理系設備検査	(振動診断:1C)
		分解点検		195M	-	-	-	
	格納容器冷却材トレンポンプ*3B	機能・性能試験	G3	15C	-	3回	96 液体廃棄物処理系設備検査	(振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		195M	-	-	-	
	格納容器冷却材トレンポンプ*3B電動機	機能・性能試験	G3	15C	-	14回	96 液体廃棄物処理系設備検査	(振動診断:1C)
		分解点検		195M	-	-	-	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保金の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	格納容器サブポンプ3A	機能・性能試験	G4	6C	○	9回	96 液体廃棄物処理系設備検査	
		分解点検		78M	○	9回		
	格納容器サブポンプ3A電動機	機能・性能試験	G4	6C	○	9回	96 液体廃棄物処理系設備検査	
		電動機取替		78M	○	9回		
	格納容器サブポンプ3B	機能・性能試験	G4	6C	○	9回	96 液体廃棄物処理系設備検査	
		分解点検		78M	○	9回		
	格納容器サブポンプ3B電動機	機能・性能試験	G4	6C	○	9回	96 液体廃棄物処理系設備検査	
		電動機取替		78M	○	9回		
	補助建屋サブタンクポンプ3A	機能・性能試験	G4	B	—	1995年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C) 有効性評価 No.10の反映
		分解点検		CBM	—	1995年		
	補助建屋サブタンクポンプ3A電動機	機能・性能試験	G4	B	—	1995年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
		分解点検		CBM	—	1995年		
	補助建屋サブタンクポンプ3B	機能・性能試験	G4	B	—	—	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C) 有効性評価 No.10の反映
		分解点検		CBM	—	—		
	補助建屋サブタンクポンプ3B電動機	機能・性能試験	G4	B	—	1999年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
		分解点検		CBM	—	1999年		
	廃液給水ポンプ3A	機能・性能試験	G4	B	—	1995年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		CBM	—	1995年		
	廃液給水ポンプ3A電動機	機能・性能試験	G4	B	—	1995年	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
		分解点検		CBM	—	1995年		
	廃液給水ポンプ3B	機能・性能試験	G4	B	—	—	96 液体廃棄物処理系設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C, 潤滑油診断:2C)
		分解点検		CBM	—	—		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
放射性廃棄物の廃棄施設 [原子が格納容器本体外の廃棄物貯蔵設備又は廃棄物処理設備からの流体の放射性廃棄物の漏えいの検出装置又は自動警報装置]	廃液給水ポンプ3B電動機	機能・性能試験 分解点検	G4	B CBM	- -	1996年 1996年	96 液体廃棄物処理系設備検査 (振動診断:1C)	分解点検に合わせて実施
	セメント固化装置	機能・性能試験 分解点検 他	G4 G3,G4	2Y 52M~195M	○ ○	2018年 14回	115 固体廃棄物処理系セメント固化装置機能検査 84 1次系弁検査 86 1次系逆止弁検査 85 1次系安全弁検査 87 1次系真空破壊弁検査	フランク運転中 一部フランク運転中 有効性評価 No.31の反映
放射性廃棄物の廃棄施設 [原子が格納容器本体外の廃棄物貯蔵設備又は廃棄物処理設備からの流体の放射性廃棄物の漏えいの検出装置又は自動警報装置]	放射性廃棄物の廃棄施設 [気体、液体又は固体廃棄物処理設備]その他の弁一式	開放点検 他	G3~G5	12M~444M	○	2019年		一部フランク運転中 一部BDMあり
	流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置一式	機能・性能試験 他	G4	5Y	-	2019年	68 流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置機能検査 72 計測制御系監視機能検査	フランク運転中
放射線管理施設 [放射線管理用計測装置]	液体廃棄物貯蔵設備および処理設備の漏えい防止に係わる警報装置一式	機能・性能試験	G4	52M~60M	-	14回	118 液体廃棄物貯蔵設備・処理設備の警報機能検査	一部フランク運転中
	格納容器高圧モニタ	特性試験	G2	13M	○	14回	63-2 エリアモニタ機能検査	
放射線管理施設 [放射線管理用計測装置]	1.エリアモニタ 2.プロセスマニタ	特性試験	G2~G4	13M	○	14回	76 放射線監視装置機能検査	
	モニタリングステーション及びモニタリングポスト専用の無線伝送装置	機能・性能試験	G4	2Y	○	2019年	62 野外モニタ機能検査	フランク運転中または定期検査停止中
放射線管理施設 [換気設備]	放射線管理施設 [放射線管理用計測装置]その他の機器一式	単体調整試験 他	G2,G3	13M~65M	○	14回		
	中央制御室非常用循環系	機能・性能試験	G3,G4	1C	○	14回	40 中央制御室非常用循環系機能検査	
放射線管理施設 [換気設備]	中央制御室再循環ファン3A	機能・性能試験 分解点検	G3	- 156M	- -	7回 7回		
	中央制御室再循環ファン3A電動機	機能・性能試験 分解点検	G3	6C 78M	- -	14回 14回		(振動診断:1M)

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔 ()内は適用する設備診断技術〕
中央制御室再循環ファン3B	中央制御室再循環ファン3B	機能・性能試験	G3	—	—	3回		
		分解点検		156M	○	3回		
	中央制御室再循環ファン3B電動機	機能・性能試験	G3	6C	—	13回		(振動診断:1M)
		分解点検		78M	—	13回		
	中央制御室空調ファン3A	機能・性能試験	G3	—	—	7回		(振動診断:1M, 赤外線診断:1M)
		分解点検		195M	—	7回		
	中央制御室空調ファン3A電動機	機能・性能試験	G3	6C	—	14回		(振動診断:1M, 赤外線診断:1M)
		分解点検		78M	—	14回		
	中央制御室空調ファン3B	機能・性能試験	G3	—	—	9回		(振動診断:1M, 赤外線診断:1M)
		分解点検		195M	—	9回		
	中央制御室空調ファン3B電動機	機能・性能試験	G3	6C	—	13回		(振動診断:1M, 赤外線診断:1M)
		分解点検		78M	—	13回		
	中央制御室非常用給気ファン3A	機能・性能試験	G3	390M	—	1回		(振動診断:1M)
		分解点検		156M	—	11回		(振動診断:1M)
中央制御室非常用給気ファン3B	機能・性能試験	G3	390M	—	2回		(振動診断:1M)	
	分解点検		156M	—	12回		(振動診断:1M)	
中央制御室空調ユニット3A	開放点検	G3	78M	—	10回			
	開放点検		78M	—	10回			
中央制御室非常用給気ファンユニット3号	機能・性能試験(よう素除去効率)	G3	1C	○	14回		41 中央制御室非常用循環系ファンが性能検査	
			1C	○	14回		41 中央制御室非常用循環系ファンが性能検査	
	機能・性能試験(漏えい率)	—	—	—	—	1回		
	開放点検	390M	—	—	1回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保金の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	格納容器給気ファン3A	機能・性能試験	G4	B	-	1995年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (電動機の振動により解析)
		分解点検		CBM				
	格納容器給気ファン3A電動機	機能・性能試験	G4	B	-	2016年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1M, 赤外線診断:1C)
		分解点検		CBM				
	格納容器給気ファン3B	機能・性能試験	G4	B	-	1999年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (電動機の振動により解析)
		分解点検		CBM				
	格納容器給気ファン3B電動機	機能・性能試験	G4	B	-	2011年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1M, 赤外線診断:1C)
		分解点検		CBM				
	格納容器給気ファン3A	機能・性能試験	G4	B	-	1996年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1M, 赤外線診断:1C)
		分解点検		CBM				
	格納容器排気ファン3A電動機	機能・性能試験	G4	B	-	2016年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1M, 赤外線診断:1C)
		分解点検		CBM				
	格納容器排気ファン3B	機能・性能試験	G4	B	-	2000年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1M, 赤外線診断:1C)
		分解点検		CBM				
	格納容器排気ファン3B電動機	機能・性能試験	G4	B	-	2012年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1M, 赤外線診断:1C)
		分解点検		CBM				
	格納容器再循環ファン3A	分解点検	G4	156M	-	13回		
		分解点検		52M				
	格納容器再循環ファン3A電動機	分解点検	G4	156M	-	6回		
		分解点検		52M				
	格納容器再循環ファン3B	分解点検	G4	156M	-	13回		
		分解点検		52M				
	格納容器再循環ファン3B電動機	分解点検	G4	156M	-	13回		
		分解点検		52M				

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保金の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	格納容器再循環ファン3D	分解点検	G4	156M	—	6回		
	格納容器再循環ファン3D電動機	分解点検	G4	52M	—	14回		(振動診断:1M,潤滑油診断:1C)
	格納容器空気浄化ファン3A	機能・性能試験	G4	B	—	1995年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (電動機の振動により解析)
		分解点検		CBM	—	1995年		
	格納容器空気浄化ファン3A電動機	機能・性能試験	G4	B	—	1996年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
		分解点検		CBM	—	1996年		
	格納容器空気浄化ファン3B	機能・性能試験	G4	B	—	1999年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (電動機の振動により解析)
		分解点検		CBM	—	1999年		
	格納容器空気浄化ファン3B電動機	機能・性能試験	G4	B	—	1999年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1C)
		分解点検		CBM	—	1999年		
	補助建屋給気ファン3A	機能・性能試験	G4	22Y	—	2001年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中
		分解点検		22Y	—	2001年		ファン運転中
	補助建屋給気ファン3A電動機	機能・性能試験	G4	7Y	—	2019年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断:1M)
		分解点検		7Y	—	2019年		ファン運転中
	補助建屋給気ファン3B	機能・性能試験	G4	22Y	—	2004年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中
		分解点検		22Y	—	2004年		ファン運転中
	補助建屋給気ファン3B電動機	機能・性能試験	G4	7Y	—	2018年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断:1M)
		分解点検		7Y	—	2018年		ファン運転中
	補助建屋排気ファン3A	機能・性能試験	G4	B	—	2013年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1M,赤外線診断:1M) 有効性評価 No.12の反映
		分解点検		CBM	—	2013年		ファン運転中
	補助建屋排気ファン3A電動機	機能・性能試験	G4	6Y	—	2019年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.16の反映
		分解点検		6Y	—	2019年		ファン運転中 有効性評価 No.16の反映

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	補助建屋排気ファン3B	機能・性能試験	G4	B	—	2014年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断: 1M, 赤外線診断: 1M) 有効性評価 No.12の反映 ファン運転中
		分解点検		CBM	—	2014年		
	補助建屋排気ファン3B電動機	機能・性能試験	G4	6Y	○	2014年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断: 1M) 有効性評価 No.16の反映
		分解点検		6Y	○	2014年		
	補助建屋排気ファン3C	機能・性能試験	G4	B	—	2016年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断: 1M, 赤外線診断: 1M) 有効性評価 No.12の反映 ファン運転中
		分解点検		CBM	—	2016年		
	補助建屋排気ファン3C電動機	機能・性能試験	G4	6Y	—	2017年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断: 1M) 有効性評価 No.16の反映
		分解点検		6Y	—	2017年		
	燃料取扱建屋空気浄化系	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 有効性評価 No.16の反映
		分解点検		15Y	—	2011年		
	放射線管理室給気ファン3A	機能・性能試験	G4	15Y	—	2011年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中
		分解点検		15Y	—	2011年		
	放射線管理室給気ファン3A電動機	機能・性能試験	G4	15Y	—	2019年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断: 1M)
		分解点検		15Y	—	2019年		
	放射線管理室給気ファン3B	機能・性能試験	G4	15Y	—	2014年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中
		分解点検		15Y	—	2014年		
	放射線管理室給気ファン3B電動機	機能・性能試験	G4	15Y	—	2007年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断: 1M)
		分解点検		15Y	—	2007年		
	放射線管理室排気ファン3A	機能・性能試験	G4	15Y	—	2011年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断: 1M)
		分解点検		15Y	—	2011年		
	放射線管理室排気ファン3A電動機	機能・性能試験	G4	15Y	—	2019年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断: 1M)
		分解点検		15Y	—	2019年		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔 ()内は適用する設備診断技術〕
	放射線管理室排気ファン3B	機能・性能試験	G4	15Y	—	2018年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断:1M)
		分解点検		15Y	—	2018年		ファン運転中
	放射線管理室排気ファン3B電動機	機能・性能試験	G4	15Y	—	2018年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断:1M)
		分解点検		15Y	—	2018年		ファン運転中
	ヘ行排気ファン3号	機能・性能試験	G4	B	—	—	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (セーガの振動により解析)
		分解点検		CBM	—	—		分解未実施
	ヘ行排気ファン3号電動機	機能・性能試験	G4	B	—	2004年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1Y)
		分解点検		CBM	—	2004年		
	セメント固化装置オフガスファン3A	機能・性能試験	G4	5Y	—	2018年	77 1次系換気空調設備検査	有効性評価No.32の反映
		分解点検		5Y	—	2018年		有効性評価No.32の反映
	セメント固化装置オフガスファン3A電動機	機能・性能試験	G4	B	—	2001年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1M, 赤外線診断:1M)
		分解点検		CBM	—	2001年		
	セメント固化装置オフガスファン3B	機能・性能試験	G4	5Y	—	2018年	77 1次系換気空調設備検査	有効性評価No.32の反映
		分解点検		5Y	—	2018年		有効性評価No.32の反映
	セメント固化装置オフガスファン3B電動機	機能・性能試験	G4	B	—	2002年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1M, 赤外線診断:1M)
		分解点検		CBM	—	2002年		
	廃棄物処理室給気ファン3A	機能・性能試験	G4	15Y	—	2014年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中
		分解点検		7Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断:1M)
	廃棄物処理室給気ファン3A電動機	機能・性能試験	G4	7Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中
		分解点検		7Y	—	2015年		
	廃棄物処理室給気ファン3B	機能・性能試験	G4	15Y	—	2014年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中
		分解点検		7Y	—	2014年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断:1M)
	廃棄物処理室給気ファン3B電動機	機能・性能試験	G4	7Y	—	2014年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中
		分解点検		7Y	—	2014年		ファン運転中

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保金の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実 施計画	前回実施 時期(定検 回数)	検査名	備考 〔()内は適用する 設備診断技術〕
	廃棄物処理室排気ファン3A	機能・性能試験	G4	15Y	—	2013年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断: 1M, 赤外線診断: 1M)
		分解点検		CBM	—	1998年		
	廃棄物処理室排気ファン3A電動機	機能・性能試験	G4	B	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断: 1M, 赤外線診断: 1M)
		分解点検		CBM	—	2015年		ファン運転中
	廃棄物処理室排気ファン3B	機能・性能試験	G4	15Y	—	2013年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断: 1M, 赤外線診断: 1M)
		分解点検		CBM	—	2004年		
	廃棄物処理室排気ファン3B電動機	機能・性能試験	G4	B	—	2016年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断: 1M, 赤外線診断: 1M)
		分解点検		CBM	—	2016年		ファン運転中
	廃棄物処理室排気ファン3C	機能・性能試験	G4	15Y	—	2013年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中 (振動診断: 1M, 赤外線診断: 1M)
		分解点検		CBM	—	2004年		
	廃棄物処理室排気ファン3C電動機	機能・性能試験	G4	B	—	2007年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断: 1M, 赤外線診断: 1M)
		分解点検		CBM	—	2007年		ファン運転中
	換気空調設備のその他のファン 一式	機能・性能試験	G3, G4	12M~ 260M	○	14回		一部ファン運転中 有効性評価 No.14,15,17,18,26,27,28の反映
		分解点検		CBM	—	2007年		ファン運転中
	格納容器給気ユニット3A	開放点検	G4	7Y	—	2014年		ファン運転中
		開放点検		7Y	—	2014年		ファン運転中
	格納容器給気ユニット3B	機能・性能試験	G4	18Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中
		開放点検		18Y	—	2015年		ファン運転中
	格納容器排気ファンユニット3A	機能・性能試験	G4	18Y	—	2016年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中
		開放点検		18Y	—	2016年		ファン運転中
	格納容器排気ファンユニット3B	機能・性能試験	G4	18Y	—	2016年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中
		開放点検		18Y	—	2016年		ファン運転中
	補助建屋給気ユニット3号(Aハンク側)	開放点検	G4	7Y	—	2015年		ファン運転中
		開放点検		7Y	—	2015年		ファン運転中
	補助建屋給気ユニット3号(Bハンク側)	開放点検	G4	7Y	—	2015年		ファン運転中
		開放点検		7Y	—	2015年		ファン運転中
	補助建屋排気ファンユニット3A	機能・性能試験	G4	18Y	—	2013年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	補助建屋排気ファンユニット3B	機能・性能試験	G4	18Y	—	2013年	77 1次系換気空調設備検査	プラント運転中
	放射線管理室給気ユニット3号	開放点検	G4	7Y	—	2014年		プラント運転中
	放射線管理室排気ファンユニット3A	機能・性能試験	G4	15Y	—	2011年	77 1次系換気空調設備検査	プラント運転中
	放射線管理室排気ファンユニット3B	機能・性能試験	G3	15Y	—	2011年	77 1次系換気空調設備検査	プラント運転中
	ペーパ排気ファンユニット3号	機能・性能試験	G4	B	—	—	77 1次系換気空調設備検査	ファン(CBM)の機能・性能試験に合わせて実施
	廃棄物処理室排気ファンユニット3号(A・B・C側)	機能・性能試験	G4	15Y	—	2012年	77 1次系換気空調設備検査	プラント運転中
	廃棄物処理室排気ファンユニット3号(B・C側)	機能・性能試験	G4	15Y	—	2012年	77 1次系換気空調設備検査	プラント運転中
	格納容器空気浄化ファンユニット3号	機能・性能試験	G3	B	—	—	77 1次系換気空調設備検査	ファン(CBM)の機能・性能試験に合わせて実施
	格納容器減圧排気ファンユニット3号	機能・性能試験	G4	15C	—	3回	77 1次系換気空調設備検査	
		開放点検		195M	—	3回		
	セメント固化装置オフガスファンユニット3A	機能・性能試験	G4	5Y	—	2018年	77 1次系換気空調設備検査	有効性評価No.33の反映
	セメント固化装置オフガスファンユニット3B	機能・性能試験	G4	5Y	—	2018年	77 1次系換気空調設備検査	有効性評価No.33の反映
	中央制御室	漏えい試験 外観点検(貫通部)	高	6YP 1C	— ○	13回 14回	139 中央制御室の居住性確認検査	
	タンク(タンクホールド、防火タンク)、手動ガン バキューム一式	機能・性能試験	G3,G4	13M~ 264M	○	14回	77 1次系換気空調設備検査	一部プラント運転中 有効性評価 No.20,21,22,23,24,29の反映
	放射線管理施設 [換気設備] その他の弁一式	分解点検 他	G3,G4	26M~ 195M	○	14回	85 1次系安全弁検査	一部プラント運転中
	放射線管理施設 [換気設備] その他AM弁一式	分解点検	G3	195M	—	3回		
	放射線管理施設 [換気設備] その他機器一式	分解点検 他	G2~G4	12M~ 300M	○	14回		一部プラント運転中 有効性評価 No.25の反映

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実 施計画	前回実施 時期(定検 回数)	検査名	備考 〔()内は適用する 設備診断技術〕
原子炉格納施設 〔原子炉格納容器〕	原子炉格納容器	漏えい率試験	G3	3C	—	13回	43 原子炉格納容器全体漏えい率検査	
	通常用エアロック	1個 漏えい率試験 開放点検 部分点検	G3	2C/3C 130M 1C	○ — ○	14回 14回 14回	44 原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	非常用エアロック	1個 漏えい率試験 開放点検 部分点検	G3	2C/3C 130M 1C	○ — ○	14回 6回 14回	44 原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	格納容器機器搬入口	1個 漏えい率試験 開放点検	G3	2C/3C 13M	○ ○	14回 14回	44 原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	配管貫通部(伸縮式配管貫通部、貫通配管 フランジ部) 一式	漏えい率試験	G3	2C/3C	○	14回	44 原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	電気配線用貫通部 一式	漏えい率試験	G3	2C/3C	○	14回	44 原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	配管貫通部(伸縮式配管貫通部、貫通配管 フランジ部)及び電気配線用貫通部 一式	開放点検	G3	13M~ 104M	○	14回		
	原子炉格納容器隔離弁 一式	漏えい率試験	G3	2C/3C	○	14回	44 原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	格納容器隔離(T-V信号及びT+UV信号)に より隔離される弁	65個 機能・性能試験	G3	1C	○	14回	45 原子炉格納容器隔離弁機能検査	
	格納容器隔離(P-V信号)により隔離される 弁	16個 機能・性能試験	G3	1C	○	14回	45 原子炉格納容器隔離弁機能検査	
	格納容器冷却材トロンポンプ出口ライン第1隔 離弁3号	3LCV-1000 分解点検(弁本体)	G3	130M	—	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	SG-3Aナンプリンク隔離弁	3V-BD-009A 分解点検(駆動部)	G3	52M	○	13回		
	SG-3Bナンプリンク隔離弁	3V-BD-009B 分解点検(弁本体)	G3	78M	○	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	SG-3Cナンプリンク隔離弁	3V-BD-009C 分解点検(駆動部)	G3	78M	○	13回		
		3V-BD-009C 分解点検(弁本体)	G3	78M	○	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-BD-009C 分解点検(駆動部)	G3	78M	○	13回		
		3V-BD-009C 分解点検(弁本体)	G3	78M	○	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-BD-009C 分解点検(駆動部)	G3	78M	○	13回		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実 施計画	前回実施 時期(定検 回数)	検査名	備考 〔()内は適用する 設備診断技術〕	
SG-3A7ロータリオン隔離弁	3V-BD-030A	分解点検(弁本体)	G3	78M	-	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		78M	-	14回			
		分解点検(弁本体)		78M	-	14回			
	SG-3B7ロータリオン隔離弁	3V-BD-030B	分解点検(弁本体)	G3	78M	-	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		78M	-	14回		
			分解点検(弁本体)		78M	-	13回		
	SG-3C7ロータリオン隔離弁	3V-BD-030C	分解点検(弁本体)	G3	78M	-	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		78M	-	13回		
			分解点検(弁本体)		78M	-	13回		
	C/V再循環ユニット3A,3B冷却水入口隔離弁	3V-CC-189A	分解点検(弁本体)	G3	156M	-	6回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		130M	-	13回		
			分解点検(電動機)		195M	-	7回		
分解点検(弁本体)			156M		-	7回			
分解点検(駆動部)			130M		-	7回			
分解点検(電動機)			195M		-	5回			
C/V再循環ユニット3A冷却水出口隔離弁	3V-CC-198A	分解点検(弁本体)	G3	156M	-	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		130M	-	8回			
		分解点検(電動機)		195M	-	4回			
		分解点検(弁本体)		156M	-	13回			
		分解点検(駆動部)		130M	-	12回			
		分解点検(電動機)		195M	-	4回			
C/V再循環ユニット3B冷却水出口隔離弁	3V-CC-198B	分解点検(弁本体)	G3	156M	-	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		130M	-	12回			
		分解点検(電動機)		195M	-	4回			
		分解点検(弁本体)		156M	-	6回			
		分解点検(駆動部)		130M	-	13回			
		分解点検(電動機)		195M	-	5回			
C/V再循環ユニット3C冷却水出口隔離弁	3V-CC-198C	分解点検(弁本体)	G3	156M	-	6回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		130M	-	13回			
		分解点検(電動機)		195M	-	5回			
		分解点検(弁本体)		156M	-	6回			
		分解点検(駆動部)		130M	-	13回			
		分解点検(電動機)		195M	-	5回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
C/V再循環ユニット3D冷却水出口隔離弁	3V-CC-198D	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	6回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		130M	—	13回			
		分解点検(電動機)		195M	—	5回			
	CRDMおよび余剰抽出クーラ冷却水入口隔離弁3号	3V-CC-342	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	9回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		130M	—	9回		
			分解点検(電動機)		195M	—	5回		
	CRDMおよび余剰抽出クーラ冷却水出口隔離弁3号	3V-CC-349	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	6回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		130M	—	13回		
			分解点検(電動機)		195M	—	5回		
	RCP冷却水入口第2隔離弁3号	3V-CC-401	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	8回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		130M	—	8回		
			分解点検(電動機)		195M	—	5回		
RCP冷却水入口第1隔離弁3号	3V-CC-403	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	10回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		130M	—	10回			
		分解点検(電動機)		195M	—	5回			
RCP冷却水出口第1隔離弁3号	3V-CC-427	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	7回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		130M	—	7回			
		分解点検(電動機)		195M	—	3回			
RCP冷却水出口第2隔離弁3号	3V-CC-429	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	7回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		130M	—	13回			
		分解点検(電動機)		195M	—	5回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実 施計画	前回実施 時期(定検 回数)	検査名	備考 〔()内は適用する 設備診断技術〕	
DRPI(冷却ユニット)3号入口隔離弁	3V-CH-404	分解点検(弁本体)	G3	104M	—	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		78M	—	13回			
		クランプ・ハット取替		52M	—	13回			
	DRPI(冷却ユニット)3号出口隔離弁	3V-CH-410	分解点検(弁本体)	G3	52M	—	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		78M	—	13回		
	抽出オフライン隔離弁3A	3V-CS-004A	分解点検(弁本体)	G3	52M	—	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		78M	—	14回		
	抽出オフライン隔離弁3B	3V-CS-004B	分解点検(弁本体)	G3	52M	—	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		78M	—	14回		
	抽出オフライン隔離弁3C	3V-CS-004C	分解点検(弁本体)	G3	52M	—	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		78M	—	14回		
	抽出ライン隔離弁3号	3V-CS-007	分解点検(弁本体)	G3	104M	—	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
分解点検(駆動部)			52M		—	13回			
クランプ・ハット取替			52M		—	13回			
封水戻りライン第1隔離弁3号	3V-CS-213	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	10回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		130M	—	10回			
		分解点検(電動機)		195M	—	8回			
封水戻りライン第2隔離弁3号	3V-CS-214	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	10回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		130M	—	10回			
		分解点検(電動機)		195M	—	4回			
格納容器減圧装置第1隔離弁3号	3V-DP-001	分解点検(弁本体)	G3	130M	—	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		52M	○	13回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
機器又は系統名	格納容器減圧装置第2隔離弁3号 3V-DP-002	分解点検(弁本体)	G3	130M	—	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		52M	○	13回		
		分解点検(弁本体)		104M	○	12回		
	消火系格納容器隔離弁3号 3V-FS-503	分解点検(駆動部)	G3	52M	○	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(弁本体)		52M	—	13回		
		クアントハットン取替		52M	—	13回		
	制御用空気供給ヘッダ3A格納容器隔離弁 3V-IA-508A	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		130M	—	13回		
		分解点検(電動機)		195M	—	4回		
	制御用空気供給ヘッダ3B格納容器隔離弁 3V-IA-508B	分解点検(弁本体)	G3	156M	—	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		130M	—	13回		
		分解点検(電動機)		195M	—	5回		
炉内核計装置ガスハンジライン第2隔離弁3号 3V-IG-008	分解点検(弁本体)	G3	130M	—	11回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
	分解点検(駆動部)		52M	—	14回			
	分解点検(弁本体)		130M	—	14回			
炉内核計装置ガスハンジライン第1隔離弁3号 3V-IG-009	分解点検(弁本体)	G3	130M	—	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
	分解点検(駆動部)		52M	—	14回			
	分解点検(電動機)		130M	—	14回			
加圧器逃がしタンクガス分析ライン第1隔離弁3号 3V-RC-077	分解点検(弁本体)	G3	26M	—	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
	分解点検(駆動部)		104M	—	13回			
	分解点検(弁本体)		52M	—	14回			
加圧器逃がしタンクガス分析ライン第2隔離弁3号 3V-RC-078	分解点検(弁本体)	G3	52M	—	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
	分解点検(駆動部)		104M	—	13回			
	分解点検(弁本体)		104M	○	11回			
加圧器逃がしタンク窒素隔離弁3号 3V-RC-084	分解点検(弁本体)	G3	104M	—	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
	分解点検(駆動部)		104M	—	13回			
	クアントハットン取替		52M	—	13回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実 施計画	前回実施 時期(定検 回数)	検査名	備考 〔 ()内は適用する 設備診断技術〕	
	加圧器逃がしタンク補給水隔離弁3号	3V-RC-095	G3	104M	-	12回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(弁本体)							
		分解点検(駆動部)							
	格納容器空気モニタリング第1隔離弁3号	3V-RM-001	グランドハブタンク取替	G3	52M	○	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(弁本体)						
			分解点検(駆動部)						
	格納容器空気モニタリング第2隔離弁3号	3V-RM-002	分解点検(電動機)	G3	130M	-	10回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(弁本体)						
			分解点検(駆動部)						
	格納容器空気モニタリング戻り隔離弁3号	3V-RM-018	分解点検(弁本体)	G3	195M	-	9回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)						
			分解点検(電動機)						
安全注入システム第1戻り弁3号	3V-SI-144	分解点検(弁本体)	G3	52M	○	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)							
		分解点検(電動機)							
蓄圧タンク補給タンク隔離弁3号	3V-SI-145	グランドハブタンク取替	G3	104M	-	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(弁本体)							
		分解点検(駆動部)							
安全注入システム第2戻り弁3号	3V-SI-147	分解点検	G3	52M	-	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)							
		分解点検(電動機)							
加圧器気相部サブタンク隔離弁3号	3V-SS-503	分解点検(弁本体)	G3	104M	-	12回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)							
		分解点検(電動機)							
加圧器液相部サブタンク隔離弁3号	3V-SS-523	分解点検(弁本体)	G3	52M	○	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)							
		分解点検(電動機)							

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
機器又は系統名	ループ3A高温側および加圧器サブリング隔離弁	3V-SS-524	G3	26M	-	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
				78M	-	13回			
	ループ3A高温側サブリング隔離弁	3V-SS-543A	分解点検(弁本体)	G3	130M	-	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		130M	-	9回		
			分解点検(電動機)		195M	-	14回		
	ループ3B高温側サブリング第1隔離弁	3V-SS-543B	分解点検(弁本体)	G3	130M	-	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		130M	○	13回		
			分解点検(電動機)		195M	-	8回		
	ループ3B高温側サブリング第2隔離弁	3V-SS-544	分解点検(弁本体)	G3	26M	-	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
			分解点検(駆動部)		78M	-	13回		
			分解点検(電動機)		104M	○	12回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	蓄圧タンク3Aサブリング隔離弁	3V-SS-563A	分解点検(弁本体)	G3	78M	-	13回		
分解点検(駆動部)				78M	-	13回			
分解点検(電動機)				78M	○	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
蓄圧タンク3Bサブリング隔離弁	3V-SS-563B	分解点検(弁本体)	G3	78M	-	14回			
		分解点検(駆動部)		78M	-	14回			
		分解点検(電動機)		78M	○	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
蓄圧タンク3Cサブリング隔離弁	3V-SS-563C	分解点検(弁本体)	G3	78M	-	13回			
		分解点検(駆動部)		78M	-	13回			
		分解点検(電動機)		78M	○	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
蓄圧タンクサブリング隔離弁3号	3V-SS-564	分解点検(弁本体)	G3	78M	○	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		104M	-	14回			
格納容器真空逃がし装置3A隔離弁	3V-VR-001A	分解点検(弁本体)	G3	130M	-	10回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		52M	○	13回			
格納容器真空逃がし装置3B隔離弁	3V-VR-001B	分解点検(弁本体)	G3	130M	-	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		52M	○	13回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	格納容器真空逃がし弁3A	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	47 原子炉格納容器真空逃がし弁機能検査	
		分解点検(弁本体)		156M	-	10回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	格納容器真空逃がし弁3B	機能・性能試験	G3	IC	○	14回	47 原子炉格納容器真空逃がし弁機能検査	
		分解点検(弁本体)		156M	-	10回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		156M	-	14回		
	格納容器冷却材ポンプ出口ライン第2隔室 隔離弁3号	分解点検(弁本体)	G3	130M	-	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		52M	○	13回		
	格納容器冷却材ポンプ出口ライン第1隔室 隔離弁3号	分解点検(弁本体)	G3	52M	-	14回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		104M	-	14回		
	格納容器冷却材ポンプ出口ライン第2隔室 隔離弁3号	分解点検(弁本体)	G3	52M	○	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		104M	○	12回		
	格納容器冷却材ポンプ出口ライン第1隔室 隔離弁3号	分解点検(弁本体)	G3	130M	-	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		52M	-	14回		
	格納容器冷却材ポンプ出口ライン第2隔室 隔離弁3号	分解点検(弁本体)	G3	130M	-	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		104M	○	11回		
	格納容器冷却材ポンプ出口ライン第1隔室 隔離弁3号	分解点検(弁本体)	G3	130M	-	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		104M	○	11回		
	格納容器冷却材ポンプ出口ライン第2隔室 隔離弁3号	分解点検(弁本体)	G3	130M	-	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		52M	-	13回		
	格納容器冷却材ポンプ出口ライン第1隔室 隔離弁3号	分解点検(弁本体)	G3	130M	-	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		52M	-	13回		
	格納容器冷却材ポンプ出口ライン第2隔室 隔離弁3号	分解点検(弁本体)	G3	130M	-	13回	46 原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		分解点検(駆動部)		52M	-	13回		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
原子炉格納施設[圧力低減設備その他の安全設備]	原子炉格納施設[原子炉格納容器]その他の弁一式	分解点検 他	G3	13M~208M	○	14回	84 1次系弁検査 86 1次系逆止弁検査	
	原子炉格納施設[原子炉格納容器]その他機器一式	開放点検	G3	1C	○	14回		[対象設備] ・アエフスノール
原子炉格納施設[圧力低減設備その他の安全設備]	原子炉格納容器スプレッド系	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	48 原子炉格納容器安全系機能検査 147 その他原子炉注水系機能検査	
		機能・性能試験(状態監視含む)		6M	○	14回	137 運転中安全系ポンプ機能検査	アエフ運転中 [対象設備] ・格納容器スプレッド*3A,3B
	格納容器スプレッド冷却器3A	開放点検	G3	195M	—	14回	91 1次系熱交換器検査	
		非破壊試験		390M	—	14回	91 1次系熱交換器検査	
格納容器スプレッド冷却器3B	開放点検	G3	195M	○	—	91 1次系熱交換器検査		
	非破壊試験		390M	○	—	91 1次系熱交換器検査		
格納容器スプレッドポンプ3A	分解点検	G3	195M	—	14回	49 原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)	
		G3	130M	○	9回		(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C) 有効性評価 No.8の反映	
格納容器スプレッドポンプ3B	潤滑油入替	G3	26M	○	13回			
		G3	195M	—	13回	49 原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査 145 その他原子炉注水系ポンプ分解検査	(振動診断:1M, 潤滑油診断:2C)	
格納容器スプレッドポンプ3B電動機	分解点検	G3	130M	—	13回			
		G3	26M	○	13回			
よう素除去薬品タケ3号	開放点検	G3	390M	—	—		89 1次系容器検査	30回にて初回点検を計画
		G3	156M	—	13回	50 原子炉格納容器安全系主要弁分解検査		
格納容器スプレッドポンプ3A入口弁	分解点検(弁本体)	G3	130M	—	13回			
		G3	195M	—	6回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	格納容器スプレッドポンプ3B入口弁 3V-CP-001B	分解点検(弁本体)	G3	156M	-	11回	50 原子炉格納容器安全系主要弁分解検査 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		分解点検(駆動部)						
		分解点検(電動機)						
	格納容器スプレッドポンプ3A出口弁 3V-CP-021A	分解点検(弁本体)	G3	156M	-	13回	50 原子炉格納容器安全系主要弁分解検査	
		分解点検(駆動部)						
		分解点検(電動機)						
	格納容器スプレッドポンプ3B出口弁 3V-CP-021B	分解点検(弁本体)	G3	156M	-	13回	50 原子炉格納容器安全系主要弁分解検査 146 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		分解点検(駆動部)						
		分解点検(電動機)						
	よう素除去薬品タンク出口第1弁3A 3V-CP-054A	分解点検(弁本体)	G3	156M	-	8回	50 原子炉格納容器安全系主要弁分解検査	
		分解点検(駆動部)						
		分解点検(電動機)						
	よう素除去薬品タンク出口第1弁3B 3V-CP-054B	分解点検(弁本体)	G3	156M	-	7回	50 原子炉格納容器安全系主要弁分解検査	
		分解点検(駆動部)						
		分解点検(電動機)						
	原子炉格納施設[圧力低減設備その他の安全設備] その他の弁 一式	分解点検 他	G3,G4	13M~ 390M	○	14回	84 1次系弁検査 85 1次系安全弁検査 86 1次系逆止弁検査 87 1次系真空破壊弁検査	
		分解点検(電動機)	G3	130M	-	6回		
		分解点検						
	原子炉格納施設[圧力低減設備その他の安全設備] その他AM弁 一式	分解点検	G3	130M	-	13回		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
77 1次系換気空調設備検査	格納容器再循環ユニット3A	開放点検	G3	78M	○	9回	77 1次系換気空調設備検査		
	格納容器再循環ユニット3B	開放点検	G3	78M	○	9回	77 1次系換気空調設備検査		
	7ニュートン循環排気系	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	38 7ニュートン循環排気系機能検査		
	7ニュートン排気ファン3A	分解点検	G3	260M	—	5回		(振動診断:1M)	
	7ニュートン排気ファン3A電動機	分解点検	G3	156M	—	11回		(振動診断:1M)	
	7ニュートン排気ファン3B	分解点検	G3	260M	—	7回		(振動診断:1M)	
	7ニュートン排気ファン3B電動機	分解点検	G3	156M	—	13回		(振動診断:1M)	
	39 7ニュートン循環排気系70ルグ性能検査	7ニュートン排気70ルグユニット3A	機能・性能試験(よう素除去効率)	G3	1C	○	14回	39 7ニュートン循環排気系70ルグ性能検査	
			機能・性能試験(漏えい率)		1C	○	14回	39 7ニュートン循環排気系70ルグ性能検査	
			機能・性能試験		30C	—	3回	77 1次系換気空調設備検査	
			機能・性能試験(よう素除去効率)	G3	1C	○	14回	39 7ニュートン循環排気系70ルグ性能検査	
	77 1次系換気空調設備検査	7ニュートン排気70ルグユニット3B	機能・性能試験(漏えい率)		1C	○	14回	39 7ニュートン循環排気系70ルグ性能検査	
			機能・性能試験		30C	—	3回	77 1次系換気空調設備検査	
			分解点検(弁本体)	G3	78M	○	—	156 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査	
分解点検(駆動部)				78M	○	13回			
77 1次系換気空調設備検査	7ニュートン排気弁3A	分解点検(弁本体)	G3	78M	○	—	156 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		78M	○	13回			
		分解点検(弁本体)	G3	78M	○	—	156 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		78M	○	13回			
77 1次系換気空調設備検査	7ニュートン全量排気弁3A	分解点検(弁本体)	G3	78M	—	—	156 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査	10回にて初回点検を計画	
		分解点検(駆動部)		78M	—	13回			
		分解点検(弁本体)	G3	78M	—	—	156 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		78M	—	14回			
77 1次系換気空調設備検査	7ニュートン少量排気弁3B	分解点検(弁本体)	G3	78M	—	—	156 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		78M	—	14回			
		分解点検(弁本体)	G3	78M	○	—	156 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査		
		分解点検(駆動部)		78M	○	13回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実 施計画	前回実施 時期(定検 回数)	検査名	備考 〔()内は適用する 設備診断技術〕	
原子炉施設 [その他設備]	7-エアラス少量排気弁3B	分解点検(弁本体)	G3	78M	○	—	156 可燃性ガス濃度制御系主要弁分 解検査		
	7-エアラス戻り弁3A	分解点検(駆動部)	G3	78M	○	13回	156 可燃性ガス濃度制御系主要弁分 解検査		
		分解点検(弁本体)		78M	○	—			
		分解点検(駆動部)		78M	○	13回			
		分解点検(弁本体)		78M	○	—			
	7-エアラス戻り弁3B	分解点検(弁本体)	G3	78M	○	13回	156 可燃性ガス濃度制御系主要弁分 解検査		
		分解点検(駆動部)		78M	○	—			
	安全補機室空気浄化系	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	77 1次系換気空調設備検査		
	安全補機室排気ファン3A	分解点検	G3	260M	—	6回		(振動診断:6M)	
	安全補機室排気ファン3A電動機	分解点検	G3	156M	—	13回		(振動診断:6M)	
	安全補機室排気ファン3B	分解点検	G3	260M	—	7回		(振動診断:6M)	
	安全補機室排気ファン3B電動機	分解点検	G3	156M	—	12回		(振動診断:6M)	
	安全補機室排気ファン3号	機能・性能試験	G3	20C	—	3回	77 1次系換気空調設備検査		
	タンク(タンクハブ/ホーク含む) 一式	開放点検		260M	—	3回			
機能・性能試験		G3	13M~ 144M	○	14回	77 1次系換気空調設備検査		一部77アノト運転中	
原子炉施設 [その他設備]	原子炉格納施設[圧力低減設備その他の 安全設備] その他機器 一式	開放点検 他	G3	390M	—	—	89 1次系容器検査	[対象設備] ・PH調整利貯蔵タンク 30回にて初回点検を計画	
		非破壊試験	G1,G3	10YP	○	14回	1 クラス1機器供用期間中検査 144 重大事故等クラス2機器供用期間中 検査	クラス1機器供用期間中検査10年 計画(別紙-1)	
	(重大事故等クラス2機器供用期間中検査対 象を含む)	漏えい試験		1C	○	14回			
		非破壊試験	G3	10YP	○	14回	5 クラス2機器供用期間中検査 144 重大事故等クラス2機器供用期間中 検査	クラス2機器供用期間中検査10年 計画(別紙-2)	
	(重大事故等クラス2機器供用期間中検査対 象を含む)	漏えい試験		10YP	○	14回			
		非破壊試験	G3	10YP	○	14回	104 クラス3機器供用期間中検査	クラス3機器供用期間中検査10年 計画(別紙-3)	
	クラス3機器(供用期間中検査対象) 一式	漏えい試験		10YP	○	14回			
		非破壊試験	G3	10YP	○	14回			一部77アノト運転中

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備) 〔非常用発電装置〕	ガス1機器Ni基合金使用部位一式 (重大事故等ガス2機器供用期間中検査対象を含む)	非破壊試験	G3	5YP~10YP	○	13回	98 供用期間中特別検査のうちガス1機器Ni基合金使用部位特別検査 144 重大事故等ガス2機器供用期間中検査	ガス1機器Ni基合金使用部位特別検査10年計画(別紙-4)
	ガス2管(原子炉格納容器内)一式 (重大事故等ガス2機器供用期間中検査対象を含む)	非破壊試験	G3	10YP	○	14回	98 供用期間中特別検査のうちガス2管(原子炉格納容器内)特別検査 144 重大事故等ガス2機器供用期間中検査	ガス2管(原子炉格納容器内)特別検査10年計画(別紙-5)
	ガス3容器(供用期間中検査対象)機器搬入口の圧力保持用ボルト締付け部(ボルト、ナット、ワッシャー、フランジ)一式 (重大事故等ガス2機器供用期間中検査対象を含む)	非破壊試験	G3	10YP	-	13回	79 原子炉格納容器供用期間中検査	原子炉格納容器供用期間中検査10年計画(別紙-6)
	レスレイント一式	外観点検	G3	10YP	○	12回	113 レスレイント検査	
	ガス2機器及びガス3機器(供用期間中検査対象除外)、ガス4管の耐圧部並びに排気筒一式	外観点検	G3	10YP	○	14回	103 構造健全性検査	格納容器排気筒、補助建屋排気筒は5定検で100%検査 一部フランク運転中
	原子炉施設(その他設備) その他の弁一式	分解点検 他	G3,G4	52M~260M	○	14回	84 1次系弁検査 85 1次系安全弁検査 86 1次系逆止弁検査	
	原子炉施設(その他設備) その他AM弁一式	分解点検	G3	156M	-	13回		フランク運転中
	原子炉施設(その他設備) その他機器一式	機能・性能試験	G3	12M~13M	○	2019年		
	耐震ガスBに属する支持構造物一式	外観点検	G1~G3	10YP	○	14回	102 耐震健全性検査	ガス1,2,3機器供用期間中検査対象機器を除く
	ディーゼル発電機 2台	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	53-1 非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機の作動検査) 53-2 非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機定格容量検査)	
	安全注入信号および格納容器スプレイ信号発信時に非常用ディーゼル発電機に電源を求めめる機器	機能・性能試験	G2~G4	1C	○	14回	53-1 非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機の作動検査)	
	非常用ディーゼル発電機3A	分解点検	G3	52M	-	14回		(振動診断:6M) 有効性評価No.35の反映
	非常用ディーゼル発電機3B	分解点検	G3	52M	○	13回		(振動診断:6M) 有効性評価No.35の反映
非常用ディーゼル発電機3A	外観点検	G3	13M	○	14回	133 非常用予備発電機付属設備検査	(潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1C, 振動診断:6M, ディーゼル機関診断:6M) 有効性評価No.35,36の反映	
	非常調速装置試験		13M	○	14回	133 非常用予備発電機付属設備検査		
	計測装置試験		13M	○	14回	133 非常用予備発電機付属設備検査		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備) 〔その他の電源装置〕	アイゼル機関A号機シンドラ(ピストン、連接棒、シンドラカハ、クランク軸、吸気弁、排気弁、燃料噴射弁)	分解点検	G3	13M~104M	○	14回	54 非常用アイゼル発電機分解検査	
	非常用アイゼル機関3B	外観点検	G3	13M	○	14回	133 非常用予備発電機付属設備検査	(潤滑油診断:1C, 赤外線診断:1C, 振動診断:6M, アイゼル機関診断:6M) 有効性評価No.35,36の反映
		非常調速装置試験		13M	○	14回	133 非常用予備発電機付属設備検査	
		計測装置試験		13M	○	14回	133 非常用予備発電機付属設備検査	
	アイゼル機関B号機シンドラ(ピストン、連接棒、シンドラカハ、クランク軸、吸気弁、排気弁、燃料噴射弁)	分解点検	G3	13M~104M	○	14回	54 非常用アイゼル発電機分解検査	
		開放点検	G3	156M	-	14回	124 2次系容器検査	
		開放点検	G3	156M	-	14回	124 2次系容器検査	
	重油クランクA	開放点検	G3	156M	-	14回	124 2次系容器検査	
		開放点検	G3	156M	-	14回	124 2次系容器検査	
		開放点検	G3	156M	-	14回	124 2次系容器検査	
アイゼル発電機附属設備一式	分解点検 他	G3,G4	13M~260M	○	14回	133 非常用予備発電機付属設備検査	(潤滑油診断:1C)空気圧縮機,調速機) (振動診断:1M)潤滑油アラミングポンプ, 温水循環ポンプ,D/G潤滑油アラミングポンプ(電動機) (振動診断:1M)燃料弁冷却水ポンプ,D/G燃料弁冷却水ポンプ(電動機) (振動診断:1M)D/G燃料油移送ポンプ(電動機)	
	分解点検 他	G3,G4	26M~390M	○	14回	133 非常用予備発電機付属設備検査 85 1次系安全弁検査		
	分解点検 他	G2~G4	13M~104M	○	14回	133 非常用予備発電機付属設備検査	有効性評価 No.2,5,7,37の反映	
その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備) 〔その他の電源装置〕	蓄電池(非常用) 2組(60個/組)	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	53-3 直流電源系機能検査 159 直流電源系作動検査	
		蓄電池点検		13M	○	14回		
		機能・性能試験 他	G3	13M	○	14回	111 インバータ機能検査	
その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備) 〔その他の電源装置〕	計装用電源装置 4台	機能・性能試験 他	G3	13M	○	14回		
	その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備) 〔その他の電源装置〕 その他機器一式	電気試験 他	G3	13M~78M	○	14回		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備) [その他機器]	しゃ断器 一式	遮断器点検 他	G3	39M～96M	○	14回		
その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備) [その他機器]	その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備) [その他機器] その他機器 一式	特性試験 他	G3,G4	13M～104M	○	14回		
その他発電用原子炉の附属施設(常用電源設備) [発電機]	発電機設備 一式	分解点検 他	G1,G3,G4	13M～130M	○	14回		
その他発電用原子炉の附属施設(常用電源設備) [変圧器]	変圧器設備 一式	開放点検 他	G3	13M～195M	○	14回		一部プラント運転中 有効性評価 No.1の反映
その他発電用原子炉の附属施設(常用電源設備) [しゃ断器]	しゃ断器 一式	遮断器点検 他	G3	26M～108M	○	14回		一部プラント運転中
その他発電用原子炉の附属施設(常用電源設備) [その他機器]	その他発電用原子炉の附属施設(常用電源設備) その他機器 一式	内部・外部点検 他	G3,G4	12M～78M	○	14回		一部プラント運転中
その他発電用原子炉の附属施設(補助ボイラー) [補助ボイラー]	補助ボイラー設備 一式	開放点検 他	G4	144M～216M※1	○	2019年	130 補助ボイラー開放検査※1 131 補助ボイラー性能検査※2 132 補助ボイラー設備検査※2	プラント運転中 (振動診断:6M)[補助ボイラー給水ポンプ] ※1 前回の点検後の運転時間が4000時間、又は起動回数が120回に達すると見込まれる時期までに定期事業者検査を実施する。 ※2 補助ボイラー性能検査及び設備検査は、補助ボイラー開放検査に合わせて実施する。 有効性評価 No.13の反映
その他発電用原子炉の附属施設(補助ボイラー) [補助ボイラーに属する燃料燃焼設備]	燃料噴燃ボイラー3A	分解点検	G4	12Y	-	2016年		プラント運転中 (振動診断:6M)
		機能・性能試験		12Y	-	2016年	132 補助ボイラー設備検査	
	燃料噴燃ボイラー3A電動機	分解点検	G4	CBM	-	2013年		(振動診断:6M)
		機能・性能試験		B	-	2013年	132 補助ボイラー設備検査	電動機分解点検時に実施

機器又はシステム名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
その他発電用原子炉の 附属施設(火災防護設 備) 〔消火設備〕	燃料噴燃ポンプ3B	分解点検 機能・性能試験	G4	12Y	—	2016年	132 補助ボイラ-設備検査	プラント運転中 (振動診断:6M)
	燃料噴燃ポンプ3B電動機	分解点検	G4	CBM	—	2013年		(振動診断:6M)
	燃料噴燃ポンプ3C	機能・性能試験	G4	B	—	2013年	132 補助ボイラ-設備検査	電動機分解点検時に実施
	燃料噴燃ポンプ3C	分解点検	G4	12Y	—	2016年		プラント運転中 (振動診断:6M)
	燃料噴燃ポンプ3C	機能・性能試験	G4	12Y	—	2016年	132 補助ボイラ-設備検査	
	燃料噴燃ポンプ3C電動機	分解点検	G4	CBM	—	2013年		(振動診断:6M)
	燃料噴燃ポンプ3C	機能・性能試験	G4	B	—	2013年	132 補助ボイラ-設備検査	電動機分解点検時に実施
	消火ポンプ3A(電動)	機能・性能試験	G4	1Y	○	2018年		プラント運転中または定検停止中 (振動診断:1M)
	消火ポンプ3A電動機	分解点検	G4	10Y	—	2016年		プラント運転中または定検停止中
	消火ポンプ3B(ディーゼルエンジン)	機能・性能試験	G3	1Y	○	2018年		プラント運転中または定検停止中 (振動診断:1M、潤滑油診断:1Y)
	消火ポンプ3B(ディーゼルエンジン)	部分点検	G3	1Y	○	2018年		プラント運転中または定検停止中
	消火ポンプ3B(ディーゼル駆動)	機能・性能試験	G3	1Y	○	2018年		プラント運転中または定検停止中 (振動診断:1M)
	消火ポンプ3B(ディーゼル駆動)	分解点検	G3	10Y	—	2011年		プラント運転中または定検停止中
	消火系統機器(AM機能範囲)一式	取替	G3	CBM ※1	—	—		※1 巡視点検(1M)結果により取 替実施 一部プラント運転中
その他発電用原子炉の 附属施設(火災防護設 備) 〔その他設備〕	全域ホン消火設備 一式	機能・性能試験	G3	12M~ 13M	○	2019年		一部プラント運転中
	防火タンク 一式	作動確認	G3,G4	130M~ 144M	—	2018年		プラント運転中
	煙等流入防止装置 一式	分解点検	G3	130M	—	—	84 1次系弁検査	23回にて初回点検を計画
	可搬型排煙装置(中央制御室)	作動確認	G3	1C	○	14回		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
その他発電用原子炉の附属施設(浸水防護施設) [内郡浸水防護設備]	可搬型排煙装置(中央制御室)電動機	作動確認	G3	1C	○	14回		
	可搬型の排煙装置	分解点検(本体)	G3	130M	-	-		22回にて初回点検を計画
	ほう酸ポンプ室耐火障壁	作動確認	G4	1C	○	14回		
	貫通部シール	外観点検	G4	1C	○	14回		
		外観点検	G4	10C	-	-		17回にて初回点検を計画
	その他発電用原子炉の附属施設(火災防護設備)[その他設備]その他機器一式	特性試験 他	G4	12M~130M	○	2019年		一部アラート運転中
	海水ポンプエリア水密ハッチ一式	開放点検	G3	26M	-	14回		
	海水ポンプエリア水密扉一式	外観点検	G3	1Y	○	2018年		アラート運転中または定検停止中
	原子炉補助建屋水密扉一式	外観点検	G3	1Y	○	2018年		アラート運転中または定検停止中
	原子炉建屋水密扉一式	外観点検	G3	1Y	○	2018年		アラート運転中または定検停止中
その他発電用原子炉の附属施設(浸水防護施設) [その他設備]	海水ピットポンプ室防護壁3号	外観点検	G3	1C	○	14回		
	浸水防護堰一式	外観点検	G3	1C	○	14回		
	カメラエレベーター一式	外観点検	G4	5C	-	-		18回にて初回点検を計画
	床トランクリン逆止弁一式	分解点検	G3	130M	-	-	84 1次系弁検査	23回にて初回点検を計画
	海面監視カメラ(監視含む)一式	特性試験	G4	13M	○	14回		
	耐震型海水ピット水位計(監視含む)一式	特性試験	G4	13M	○	14回		72 計測制御系監視機能検査
	蒸気漏えいの自動検知・遠隔隔離システム一式	機能・性能試験 他	G4	13M~130M	○	14回		84 1次系弁検査
	貫通部止水処置	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中
	海水ピット堰3A	開放点検	G3	13M	○	14回		167 海水ピット堰検査
	海水ピット堰3B	開放点検	G3	13M	○	14回		167 海水ピット堰検査

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
その他発電用原子炉の附属施設(緊急時対策所)	緊急時対策所(EL.32m)	外観点検	高	1Y	○	2018年	アラウト運転中または定検停止中 アラウト運転中または定検停止中 16回にて初回点検を計画		
		非破壊試験		5Y	-	2016年			
		漏えい試験		6YP	-	-			
審査防護対策設備	補助給水タンク(エ)防護壁3号	外観点検	G3	1C	○	14回			
		外観点検	G3	1C	○	14回			
		外観点検	G3	1C	○	14回			
		外観点検	G3	1C	○	14回			
		外観点検	G3	1C	○	14回			
		外観点検	G3	1C	○	14回			
		外観点検	G3	1C	○	14回			
土木建築設備	原子炉格納施設	外観点検	高,低	1C	○	14回	一部アラウト運転中 一部アラウト運転中		
		非破壊試験		5Y	-	2018年			
		外観点検	高,低	1Y	○	2018年			
		非破壊試験		5Y	-	2018年			
		外観点検	高,低	1Y	○	2018年			
		非破壊試験		5Y	-	2018年			
		外観点検 他	高,低	1Y~5Y	○	2018年			
		総合性能試験	G3	1C	○	14回			55 総合負荷性能検査
		機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年			
		機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年			
アラウト総合	原子炉及びその附属設備(非常用予備発電装置を除く)	外観点検	G4	1Y	○	2019年	アラウト運転中または定検停止中 アラウト運転中または定検停止中 アラウト運転中または定検停止中 アラウト運転中または定検停止中		
		非破壊試験		5Y	-	2018年			
		外観点検	高,低	1Y	○	2018年			
		非破壊試験		5Y	-	2018年			
全般機器	化学消防自動車	外観点検 他	高,低	1Y~5Y	○	2018年	アラウト運転中または定検停止中 アラウト運転中または定検停止中 アラウト運転中または定検停止中 アラウト運転中または定検停止中		
		総合性能試験	G3	1C	○	14回			
		機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年			
		機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年			
アラウト総合	水槽付消防自動車	外観点検	G4	1Y	○	2019年	アラウト運転中または定検停止中 アラウト運転中または定検停止中 アラウト運転中または定検停止中		
		非破壊試験		5Y	-	2018年			
		外観点検	G4	1Y	○	2019年			
アラウト総合	海水取水用水中ポンプ	外観点検	G4	1Y	○	2019年	アラウト運転中または定検停止中 アラウト運転中または定検停止中		
		非破壊試験		5Y	-	2018年			
アラウト総合	諸機器	機能・性能試験 他	G4	1Y	○	2019年	アラウト運転中または定検停止中 アラウト運転中または定検停止中		
		総合性能試験	G4	1Y	○	2019年			

2.点検計画 重大事故等対処設備

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保金の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料貯蔵設備〕	使用済燃料ピット広域水位(AM)計測装置 一式	特性試験 他	G3	13M	○	14回	72 計測制御系監視機能検査	
	使用済燃料ピット監視カメラ(可搬型の使用済燃料ピット監視カメラ冷却設備を含む。) 一式	特性試験 他	G3	13M～130M	○	14回	161 可搬型重大事故等対処設備機能検査	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕	大型ポンプ車	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	161 可搬型重大事故等対処設備機能検査	アラート運転中または定検停止中
	大型ポンプ車(泡混合機能付)	分解点検		10Y	—	—		アラート運転中または定検停止中 2025年にて初回点検を計画
	中型ポンプ車	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	161 可搬型重大事故等対処設備機能検査 162 可搬型注水等設備機能検査	アラート運転中または定検停止中 2026年にて初回点検を計画
	加圧ポンプ車	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	161 可搬型重大事故等対処設備機能検査 162 可搬型注水等設備機能検査	アラート運転中または定検停止中 2025年にて初回点検を計画
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕 水源確保用ホース 一式	3台	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	161 可搬型重大事故等対処設備機能検査 162 可搬型注水等設備機能検査	アラート運転中または定検停止中 2025年にて初回点検を計画
	2台	分解点検		10Y	—	—		アラート運転中または定検停止中 2025年にて初回点検を計画
	大型放水砲	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中
小型放水砲	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中	
	3台	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中

機器又は系統名	実施機(機器名)	点検及び試験の項目	保金の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [その他設備]	小型船舶 一式	機能・性能試験	G3	1Y	○	2018年		アラート運転中または定検停止中	
	取水ポンプ/シフトフェンス 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中	
	海水ポンプ/シフトフェンス 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中	
	放水ポンプ/シフトフェンス 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中	
	放水ポンプ/シフトフェンス 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中	
	雨水排水口海洋シフトフェンス 一式	外観点検	G3	1Y	○	2018年		アラート運転中または定検停止中	
	放射性物質吸着剤 一式	外観点検	G3	1Y	○	2018年		アラート運転中または定検停止中	
	原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] 弁 一式	原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] 弁 一式	分解点検	G3	130M~ 156M	-	-		23回にて初回点検を計画
	原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却水設備]	原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] テナンズピース 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中
		高圧注入ポンプ3B及び電動機冷却水屋外 放出用5mフレキシブルホース 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中
マニホールド(原子炉補機冷却水サージタンク用) 一式		外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中	
原子炉補機冷却水サージタンク窒素供給用 14mフレキシブルホース 一式		外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中	
	窒素タンク(原子炉補機冷却水サージタンク用) 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中	
	可搬型代替冷却水ポンプ接続用5mフレキシブルホース 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	格納容器雰囲気ガスサンプル冷却器冷却水屋外放出用21m ³ /レキノンホルネース 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中
	可搬型代替冷却ポンプ 一式	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	161 可搬型重大事故等対処設備機能検査	
	可搬型代替冷却ポンプ電動機 一式	外観点検		1C	○	14回		
	可搬型代替冷却ポンプ電動機 一式	機能・性能試験	G3	1C	○	14回		
	原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却水設備] 弁 一式	分解点検 他	G3	130M~156M	—	—	85 1次系安全弁検査	21回にて初回点検を計画
	原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却水設備] ダイヤクセス 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中
	原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却海水設備] 弁 一式	分解点検	G3	156M	—	—		25回にて初回点検を計画
	原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [蒸気タービンに附属する管等]	分解点検	G3	156M	—	—		25回にて初回点検を計画
	計測制御系統施設 [計測装置]	特性試験 他 1個 5個 2個 2個	G3	13M	○	14回	35 プラント状態監視設備機能検査 72 計測制御系監視機能検査	
	計測制御系統施設 [計測装置] 弁 一式	分解点検	G3	156M	—	—		25回にて初回点検を計画
	計測制御系統施設 [計測装置] その他機器 一式	外観点検	G3	13M	○	14回		プラント運転中または定検停止中

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保金の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
計測制御系統施設 [工学的安全施設等の 作動信号]	ATWS緩和設備 一式	特性試験	G3	13M	○	14回	149 重大事故時安全停止回路機能検査		
計測制御系統施設 [制御用空気設備]	計測制御系統施設 [制御用空気設備] 弁 一式	分解点検 他	G3	130M	-	-	85 1次系安全弁検査	23回にて初回点検を計画	
	窒素ポンプ(空気作動弁用) 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中	
	マニホールド(空気作動弁用) 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中	
	空気作動弁用フレキシブルホース 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中	
	計測制御系統施設 [その他設備]	代替格納容器雰囲気ガスファンング圧縮装置 一式	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	161 可搬型重大事故等対応設備機能検査	
		代替格納容器雰囲気ガスファンング圧縮装置電動機 一式	外観点検		1C	○	14回		
		中央制御室用可搬型照明	機能・性能試験	G3	1C	○	14回		
		8台	外観点検	G4	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中
可搬型計測器 一式	計器校正	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中		
酸素濃度計(中央制御室用)	単体調整試験	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中		
二酸化炭素濃度計(中央制御室用)	単体調整試験	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中		
緊急時用携帯型通話設備 (緊急時用携帯型通話装置) 一式	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中		
無線通信設備(無線通信装置(可搬型)) 一式	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中		
衛星電話設備(衛星電話(可搬型)) 一式	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中		

機器又は系統名	実施機(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
放射線管理施設 〔放射線管理用計装装置〕	衛星電話設備(衛星電話(固定型)) 一式	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年		フロント運転中または定検停止中
	総合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備 一式	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年		フロント運転中または定検停止中
	計測制御系統施設 〔その他設備〕 弁 一式	分解点検	G3	156M	—	—		25回にて初回点検を計画
	緊急時対策所エリアモニタ 一式	特性試験	G3	1Y	○	2018年		フロント運転中または定検停止中
	可搬型使用済燃料ピットエリアモニタ 一式	特性試験	G3	12M~13M	○	14回	76 放射線監視装置機能検査	フロント運転中または定検停止中
	可搬型代替モニタ 一式	特性試験	G3	1Y	○	2018年		フロント運転中または定検停止中
	可搬型モニタ 一式	特性試験	G3	1Y	○	2018年		フロント運転中または定検停止中
	可搬型放射線計測器 一式	特性試験	G3	1Y	○	2018年		フロント運転中または定検停止中
	可搬型ガスサンプラ 一式	機能・性能試験	G4	1Y	○	2018年		フロント運転中または定検停止中
	可搬型気象観測設備 一式	特性試験	G4	1Y	○	2018年		フロント運転中または定検停止中
放射線管理施設 〔換気設備〕	緊急時対策所空気浄化系	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	164 可搬型換気空調設備検査	フロント運転中または定検停止中
	緊急時対策所空気浄化ファンA	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	164 可搬型換気空調設備検査	フロント運転中または定検停止中
		分解点検		15Y	—	—		フロント運転中または定検停止中 2028年にて初回点検を計画
	緊急時対策所空気浄化ファンA電動機	分解点検	G3	15Y	—	—		フロント運転中または定検停止中 2030年にて初回点検を計画

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
	緊急時対策所空気浄化ファンB	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	164 可搬型換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中	
		分解点検		15Y	—	—	—	ファン運転中または定検停止中 2028年にて初回点検を計画	
	緊急時対策所空気浄化ファンB電動機	分解点検	G3	15Y	—	—	—	ファン運転中または定検停止中 2030年にて初回点検を計画	
		機能・性能試験		G3	1Y	○	2019年	164 可搬型換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中
	緊急時対策所空気浄化ファンC	機能・性能試験	G3	15Y	—	—	—	ファン運転中または定検停止中 2028年にて初回点検を計画	
		分解点検		15Y	—	—	—	ファン運転中または定検停止中 2030年にて初回点検を計画	
	緊急時対策所空気浄化ファンC電動機	分解点検	G3	15Y	—	—	—	ファン運転中または定検停止中 2028年にて初回点検を計画	
		機能・性能試験		G3	1Y	○	2019年	164 可搬型換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中
	緊急時対策所空気浄化ファンユニットA	機能・性能試験(よう素除去効率)	G3	1Y	○	2019年	2019年	164 可搬型換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中
		機能・性能試験(漏えい率)		1Y	○	2019年	2019年	164 可搬型換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中
			機能・性能試験	G3	30Y	—	—	164 可搬型換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 2043年にて初回点検を計画
			開放点検		30Y	—	—	—	ファン運転中または定検停止中 2043年にて初回点検を計画
緊急時対策所空気浄化ファンユニットB		機能・性能試験(よう素除去効率)	G3	1Y	○	2019年	164 可搬型換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中	
		機能・性能試験(漏えい率)		1Y	○	2019年	2019年	164 可搬型換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中
		機能・性能試験	G3	30Y	—	—	164 可搬型換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 2043年にて初回点検を計画	
		開放点検		30Y	—	—	—	ファン運転中または定検停止中 2043年にて初回点検を計画	

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕	
原子炉格納施設 (圧力低減設備その他の安全設備)	緊急時対策所空気浄化フィルタユニットC 緊急時対策所空気浄化フィルタユニット電気加熱ユニット一式 タンク(防火タンク)一式 クアト一式 緊急時対策所加圧装置機器一式 代替格納容器スプレッドポンプ3号 代替格納容器スプレッドポンプ3号電動機 静的触媒式水素再結合装置3A 静的触媒式水素再結合装置3B 静的触媒式水素再結合装置3C 静的触媒式水素再結合装置3D	機能・性能試験(よう素除去効率)	G3	1Y	○	2019年	164 可搬型換気空調設備検査	フロント運転中または定検停止中	
		機能・性能試験(漏えい率)		1Y	○	2019年	164 可搬型換気空調設備検査	フロント運転中または定検停止中	
		機能・性能試験		30Y	—	—	—	164 可搬型換気空調設備検査	フロント運転中または定検停止中 2043年にて初回点検を計画
		開放点検		30Y	—	—	—		フロント運転中または定検停止中 2043年にて初回点検を計画
		内部・外部点検	G3	1Y	○	2019年			フロント運転中または定検停止中
		作動確認	G3	12Y	—	—	—		フロント運転中または定検停止中 2025年にて初回点検を計画
		外観点検	G3	1Y	○	2019年			フロント運転中または定検停止中
		分解点検 他	G3	12M~117M	○	2019年		85 1次系安全弁検査	フロント運転中または定検停止中 有効性評価 No.30,34の反映
		機能・性能試験	G3	1C	○	14回		48 原子炉格納容器安全系機能検査 147 その他原子炉注水系機能検査	(振動診断: 1M, 潤滑油診断: 2C)
		分解点検		130M	—	—	—	49 原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査 145 その他原子炉注水系ポンプ分解検査	23回にて初回点検を計画
		分解点検	G3	130M	—	—	—		(振動診断: 1M) 19回にて初回点検を計画
		機能・性能試験	G3	3C	○	—	—	51 原子炉格納容器水素再結合装置機能検査	
		機能・性能試験	G3	3C	○	—	—	51 原子炉格納容器水素再結合装置機能検査	
		機能・性能試験	G3	3C	○	—	—	51 原子炉格納容器水素再結合装置機能検査	
機能・性能試験	G3	3C	○	—	—	51 原子炉格納容器水素再結合装置機能検査			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
原子炉格納施設 [その他設備]	静的触媒式水素再結合装置3E	機能・性能試験	G3	3C	○	—	51 原子炉格納容器水素再結合装置機能検査	
	静的触媒式水素再結合装置作動温度計測装置一式	特性試験	G3	13M	○	14回	72 計測制御系監視機能検査	
	イクナイク	13台 機能・性能試験	G3	1C	○	14回	51 原子炉格納容器水素再結合装置機能検査	
	イクナイク作動温度計測装置一式	特性試験	G3	13M	○	14回	72 計測制御系監視機能検査	
	格納容器再循環系ダクト開放機構一式	作動確認	G3	10C	—	14回		
原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備] 弁一式	原子炉格納施設	分解点検 他	G3	13M~156M	○	14回		
	泡混合器一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		ブライム運転中または定検停止中
	水成膜泡消火薬剤(泡コンテナ、希釈率1%)一式	外観点検	G4	1Y	○	2019年		ブライム運転中または定検停止中
原子炉施設 [その他設備]	重大事故等ガス2機器(供用期間中検査対象)一式	非破壊試験	G3	10YP	○	14回	144 重大事故等ガス2機器供用期間中検査	重大事故等ガス2機器供用期間中検査10年計画(別紙-7)
	重大事故等ガス3機器(供用期間中検査対象)一式	漏えい試験	G3	1C,10YP	○	14回		
その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備)[非常用発電装置]	重大事故等ガス3機器(供用期間中検査対象)一式	漏えい試験	G3	10Y	○	2018年	168 重大事故等ガス3機器供用期間中検査	重大事故等ガス3機器供用期間中検査10年計画(別紙-8)
	空冷式非常用発電装置3号	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	158 その他非常用発電装置の機能検査 160 その他非常用発電装置の付属設備検査	
		分解点検			52M	—	—	157 その他非常用発電装置の分解検査
		潤滑油入替		26M	—	14回		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保金の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕		
	空冷式非常用発電装置4号	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	158 その他非常用発電装置の機能検査 160 その他非常用発電装置の付属設備検査			
		分解点検							—	157 その他非常用発電装置の分解検査
		潤滑油入替							○	26M
	No.1 300kVA電源車	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	163 可搬型代替電源設備検査	アラート運転中または定検停止中		
	No.2 300kVA電源車	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	163 可搬型代替電源設備検査	アラート運転中または定検停止中		
	No.3 300kVA電源車	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	163 可搬型代替電源設備検査	アラート運転中または定検停止中		
	No.1 75kVA電源車	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	163 可搬型代替電源設備検査	アラート運転中または定検停止中		
	No.2 75kVA電源車	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	163 可搬型代替電源設備検査	アラート運転中または定検停止中		
	No.3 75kVA電源車	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	163 可搬型代替電源設備検査	アラート運転中または定検停止中		
	300kVA電源車用変圧器3A	内部・外部点検	G3	1Y	○	2019年	アラート運転中または定検停止中			
	300kVA電源車用変圧器3B	内部・外部点検	G3	1Y	○	2019年	アラート運転中または定検停止中			
	300kVA電源車用変圧器3C	内部・外部点検	G3	1Y	○	2019年	アラート運転中または定検停止中			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	300kVA電源車中継端子盤A-1	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	300kVA電源車中継端子盤A-2	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	300kVA電源車中継端子盤B-1	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	300kVA電源車中継端子盤B-2	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	300kVA電源車用電源接続ユニット1	コントロールセンタ点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中
	300kVA電源車用電源接続ユニット2	コントロールセンタ点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中
	300kVA電源車用電源接続ユニット3	コントロールセンタ点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中
	300kVA電源車用電源接続ユニット4	コントロールセンタ点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中
	緊急時対策所用発電機	6台 機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年	163 可搬型代替電源設備検査	アラート運転中または定検停止中
	軽油カク3号	開放点検	G3	156M	—	—	124 2次系容器検査	25回にて初回点検を計画
	ミニローリー(ミニローリー車載送油用 19.5mまたは2.20mホースを含む)	5台 機能点検	G3	0.25Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中
	その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備)[非常用発電装置]燃料補給用ホース等 一式	外観点検	G3	1Y	○	2019年		アラート運転中または定検停止中
	その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備)[非常用発電装置]弁 一式	分解点検	G3	156M	—	—		25回にて初回点検を計画

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検査回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備) [その他の電源設備]	代替動力変圧器3号	内部・外部点検	G3	4C	—	14回		
	代替電気設備受電盤3号	遮断器点検	G3	52M	—	14回		
	代替計装用変圧器盤3号	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	代替計装用分電盤3号	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	蓄圧タンク3B出口弁代替操作盤	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	蓄圧タンク3A,3C出口弁代替操作盤	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	緊急時対策所用発電機中継端子盤A	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	緊急時対策用コントロールセンタ	コントロールセンタ点検	G3	4C	—	—		16回にて初回点検を計画
	緊急時対策所100V分電盤(1)	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	緊急時対策所100V分電盤(2)	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	緊急時対策所100V分電盤(3)	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	緊急時対策所100V分電盤(4)	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	緊急時対策所100V分電盤(5)	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	緊急時対策所100V分電盤(6)	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
緊急時対策所空調用分電盤	内部・外部点検	G3	1C	○	14回			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
可搬型整流器3A	可搬型整流器3A	外観点検	G3	1Y	○	2019年		フロント運転または定検停止中
	可搬型整流器3B	外観点検	G3	1Y	○	2019年		フロント運転または定検停止中
	可搬型整流器3C	外観点検	G3	1Y	○	2019年		フロント運転または定検停止中
可搬型直流電源装置中継端子盤3号	可搬型直流電源装置中継端子盤3号	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	可搬型直流電源装置切換盤3号	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
蓄電池交換盤3A	蓄電池交換盤3A	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
	蓄電池交換盤3B	内部・外部点検	G3	1C	○	14回		
蓄電池(重大事故等対処用)	蓄電池(重大事故等対処用)	機能・性能試験	G3	1C	○	14回	53-3 直流電源系機能検査 159 直流電源系作動検査	
	蓄電池点検	蓄電池点検		13M	○	14回		
その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備)[その他の電源装置] その他機器一式	その他発電用原子炉の附属施設(非常用電源設備)[その他の電源装置] その他機器一式	機能・性能試験 他	G3, G4	12M~ 13M	○	2019年	163 可搬型代用電源設備検査	フロント運転または定検停止中
	その他発電用原子炉の附属施設(浸水防護施設) [内部浸水防護設備]	外観点検	G3	1C	○	14回		
その他発電用原子炉の附属施設(緊急時対策所)	格納容器スライ冷却器室漏えい防止堰 3A, 3B	外観点検	G3	1C	○	14回		
	酸濃度計(緊急時対策所用) (予備含む)	単体調整試験	G3	1Y	○	2019年		フロント運転または定検停止中
その他発電用原子炉の附属施設(緊急時対策所)	二酸化炭素濃度計(緊急時対策所用) (予備含む)	単体調整試験	G3	1Y	○	2019年		フロント運転または定検停止中
	二酸化炭素濃度計(緊急時対策所用) (予備含む)	単体調整試験	G3	1Y	○	2019年		フロント運転または定検停止中

機器又は系統名 全般機器	実施数(機器名) ホイローダー 一式	点検及び試験の項目 機能・性能試験	保金の重要度 C3	保全方式 又は頻度 1Y	今回の実施計画 ○	前回実施 時期(定検 回数) 2018年	検査名	備考 〔()内は適用する 設備診断技術〕 アラート運転中または定検停止中
-----------------	-----------------------	----------------------	--------------	--------------------	--------------	-------------------------------	-----	--

3. 点検計画(1,2,3号機共用設備)

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
原子炉冷却系統施設 [蒸気タービン その他設備]	原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [その他設備] その他の弁 一式	分解点検	G3	37Y	—	2015年		プラント運転中
原子炉冷却系統施設 [蒸気タービン その他設備]	原子炉冷却系統施設 蒸気タービン [その他設備] その他機器 一式	目視点検	G4	5Y	○	2015年		プラント運転中
放射性廃棄物の廃棄施設 [気体、液体又は固体廃棄物貯蔵設備]	固体廃棄物貯蔵庫 (1,2,3号機共用)	外観点検 他	低	1Y~ 5Y	○	2018年		プラント運転中または定検停止中
放射性廃棄物の廃棄施設 [気体、液体又は固体廃棄物処理設備]	蒸気発生器保管庫 (1,2,3号機共用)	1種 外観点検 他	低	1Y~ 5Y	○	2018年		プラント運転中または定検停止中
放射性廃棄物の廃棄施設 [気体、液体又は固体廃棄物処理設備]	雑固体焼却設備	機能・性能試験	G4	5Y	○	2017年	66 固体廃棄物処理系焼却炉機能検査	プラント運転中または定検停止中
放射性廃棄物の廃棄施設 [気体、液体又は固体廃棄物処理設備]	放射性廃棄物の廃棄施設 [気体、液体又は固体廃棄物処理設備] その他機器 一式	分解点検 他	G4	4Y~ 16Y	—	2019年		プラント運転中または定検停止中
放射性廃棄物の廃棄施設 [気体、液体又は固体廃棄物処理設備]	放射性廃棄物の廃棄施設 [気体、液体又は固体廃棄物処理設備] その他機器 一式	分解点検 他	G3~G5, 低	1Y~ 12Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中 一部CBMあり 一部BDMあり 一部点検実施 有効性評価 No.19の反映
放射線管理施設 [放射線管理用計測装置]	1.エアモニタ 2.グレースモニタ	特性試験	G3	13M	○	14回	76 放射線監視装置機能検査	プラント運転中または定検停止中
	モニタリングステーション	1台 特性試験	G4	2Y	○	2019年	62 野外モニタ機能検査	プラント運転中または定検停止中
	モニタリングボス	4台 特性試験	G4	2Y	○	2019年	62 野外モニタ機能検査	プラント運転中または定検停止中
	移動式モニタリング設備	2台 特性試験	G4	2Y	○	2019年	62 野外モニタ機能検査	プラント運転中または定検停止中
放射線管理施設 [放射線管理用計測装置]	放射線管理施設 [放射線管理用計測装置] その他機器 一式	単体調整試験 他	G3	1Y~ 5Y	○	2019年		プラント運転中または定検停止中

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
放射線管理施設 [換気設備]	前処理室排気ファン	機能・性能試験	G4	15Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11,40の反映
		分解点検		CBM	2002年			
	前処理室排気ファン電動機	機能・性能試験	G4	8Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		8Y	—	2015年		
	焼却炉建家給気ファンA	機能・性能試験	G4	15Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		CBM	2002年			
	焼却炉建家給気ファンA電動機	機能・性能試験	G4	8Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		8Y	—	2015年		
	焼却炉建家給気ファンB	機能・性能試験	G4	15Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		CBM	2002年			
	焼却炉建家給気ファンB電動機	機能・性能試験	G4	8Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		8Y	—	2015年		
	焼却炉建家排気ファンA	機能・性能試験	G4	15Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		CBM	2002年			
	焼却炉建家排気ファンA電動機	機能・性能試験	G4	B	—	2007年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合わせて実施 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		CBM	2007年			

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
	焼却炉建家排気ファンB	機能・性能試験	G4	15Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		CBM	—	2002年		
	焼却炉建家排気ファンB電動機	機能・性能試験	G4	B	—	2010年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合せて実施 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		CBM	—	2010年		
	焼却炉建家排気ファンC	機能・性能試験	G4	15Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		CBM	—	2002年		
	焼却炉建家排気ファンC電動機	機能・性能試験	G4	B	—	2010年	77 1次系換気空調設備検査	分解点検に合せて実施 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		CBM	—	2010年		
	高圧圧縮機排気ファンA	機能・性能試験	G4	15Y	—	—	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 2024年にて初回点検を計画
		分解点検		CBM	—	2010年		
	高圧圧縮機排気ファンA電動機	機能・性能試験	G4	6Y	—	2018年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検		6Y	—	2018年		

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔 ()内は適用する設備診断技術〕
	高圧圧縮機排気ファンB	機能・性能試験	G4	15Y	-	-	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 2024年にて初回点検を計画
		分解点検						
	高圧圧縮機排気ファンB電動機	機能・性能試験	G4	6Y	-	2018年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検						
	高圧圧縮機排気ファンA	機能・性能試験	G4	15Y	-	-	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 2024年にて初回点検を計画
		分解点検						
	高圧圧縮機排気ファンA電動機	機能・性能試験	G4	6Y	-	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検						
	高圧圧縮機排気ファンB	機能・性能試験	G4	15Y	-	-	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 2024年にて初回点検を計画
		分解点検						
	高圧圧縮機排気ファンB電動機	機能・性能試験	G4	6Y	-	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファン運転中または定検停止中 (振動診断:1M) 有効性評価 No.11の反映
		分解点検						

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実 施計画	前回実施 時期(定検 回数)	検査名	備考 〔()内は適用する 設備診断技術〕
機器又は系統名	前処理室排気ファンユニット	機能・性能試験	G4	15Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファント運転中または定検停止中
	焼却炉建家排気ファンユニットA	機能・性能試験	G4	15Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファント運転中または定検停止中
	焼却炉建家排気ファンユニットB	機能・性能試験	G4	15Y	—	2015年	77 1次系換気空調設備検査	ファント運転中または定検停止中
	高圧圧縮機排気ファンユニット	機能・性能試験	G4	15Y	—	—	77 1次系換気空調設備検査	ファント運転中または定検停止中 2024年にて初回点検を計画
その他発電用原子炉 の附属施設 〔電気設備〕	タンク(タンク・ホールド、防火タンク、手動タンク 含む) 一式	機能・性能点検 他	G4	4Y～ 15Y	—	2019年	77 1次系換気空調設備検査	ファント運転中または定検停止中
	変圧器設備 一式	開放点検 他	G3	36M～ 182M	—	14回		ファント運転中または定検停止中
	しゃ断器 一式	しゃ断器点検 他	G3	6Y	—	2019年		ファント運転中または定検停止中
	その他発電用原子炉の附属施設〔電気設備〕 その他機器 一式	内部・外部点検 他	G3	6Y	—	2019年		ファント運転中または定検停止中

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
その他発電用原子炉の附属施設(火災防護設備) [消火設備]	ディーゼル駆動消火ポンプ/ディーゼルエンジン	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年		フロント運転中または定検停止中 (振動診断:1M,潤滑油診断:1Y)
		分解点検		10Y	—	2013年		フロント運転中または定検停止中
		部分点検		1Y	○	2019年		フロント運転中または定検停止中
	ディーゼル駆動消火ポンプ	機能・性能試験	G3	1Y	○	2019年		フロント運転中または定検停止中 (振動診断:1M)
		分解点検		6Y	—	2018年		フロント運転中または定検停止中
	電動消火ポンプ	機能・性能試験	G4	1Y	○	2019年		フロント運転中または定検停止中
		分解点検		6Y	—	2016年		フロント運転中または定検停止中
	電動消火ポンプ/電動機	機能・性能試験	G4	1Y	○	2019年		フロント運転中または定検停止中
	消火系統機器(AM機能範囲)一式	取替	G3	CBM ※1	—	2010年		※1 巡視点検(1M)結果により取替実施 一部フロント運転中

4.行政指導文書の点検指示による点検

機器又は系統名	実施数(機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期(定検回数)	検査名	備考 〔()内は適用する設備診断技術〕
原子炉本体 [炉心]	再使用予定の燃料集合体	※一式 外観点検(最下部支持格子内の隙間確認)	G3	IC	○	14回		平成22・02・03原院第3号(NISA-161a-10-1) ※漏えい事象に係る知見を踏まえ選定

クラス1機器供用期間中検査10年計画

1. 原子炉容器 (1/2)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008※1		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考							
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期					
								8回	9回	10回	11回		12回	13回※3	14回※3	15回※4			
B2.111	B-B	上部胴と下部胴との周溶接継手 下部胴とトランジションリングとの周溶接継手 トランジションリングと下部鏡板との周溶接継手	体積	5%	1シーム	UT (内面)	5%												(重大事故等クラス2機器)
B3.105	B-C	上部胴と上部胴フランジとの溶接継手	体積	100%	1シーム	UT (内面)	100%												(重大事故等クラス2機器)
B3.106	B-C	上部鏡板と上部蓋フランジとの溶接継手	体積	100%	1シーム	UT	100%	<15%	<10%	<15%									第14回定期にて、継手溶接継手が無同一体構造の上部胴に取替を要し、(重大事故等クラス2機器)
B3.10	B-D	冷却材入口管台と胴との溶接継手 冷却材出口管台と胴との溶接継手	体積	100%	3箇所	UT (内面)	100%												(重大事故等クラス2機器)
B3.20	B-D	冷却材入口管台内面の丸みの部分 冷却材出口管台内面の丸みの部分	体積	100%	3箇所	UT (内面)	100%												(重大事故等クラス2機器)
B5.10	B-F	冷却材入口管台とセーフエントとの溶接継手	体積及び表面 (※2)	100% (※2)	3箇所	PT (外面)	100%	C		B									500系N1基金金使用部位であるが、第14回定期において検出限界のきき目を想定したうえで、応力腐食割れ防止の有効性が実証された対策(ECT+UT)を施したため、検査間隔は維持規格に比べ10年とする。なお、UTは内面と外面のどちらでもよい。(重大事故等クラス2機器)
		冷却材出口管台とセーフエントとの溶接継手	体積及び表面 (※2)	100% (※2)	3箇所	UT (外面)	100%	B	A, B, C	A, B, C									500系N1基金金使用部位であるが、第14回定期において検出限界のきき目を想定したうえで、応力腐食割れ防止の有効性が実証された対策(ECT+UT)を施したため、検査間隔は維持規格に比べ10年とする。なお、UTは内面と外面のどちらでもよい。(重大事故等クラス2機器)

(注) 項目番号B1.101, B1.102, B1.103, B-A/B2.112, B2.121, B2.122, B-B/B5.20, B5.30, B-Fについては該当なし。

※1 12回以前はJSME S NA1-2002を適用。

※2 15回はNRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(原規技発第1408063号(平成26年8月6日 原子力規制委員会決定) 最終改正：原規技発第1906051号(令和元年6月5日 原子力規制委員会決定))に従う。

※3 13回以前は、NISA文書「発電用原子炉設備における破壊を引き起こす欠陥その他の欠陥の解釈について(内規)」(平成21年12月25日付け平成21・11・18原院第1号)に従う。

※4 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

(注) < >は旧設備の検査実績を示す。

1. 原子炉容器 (2/2)

適用規格：維持規格 JSME S NAI-2008※1		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考							
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期						
								8回	9回	10回	11回		12回	13回	14回	15回			
B6.10		上蓋用ナット	VT-1	100%	58個	VT-1	100%	-	16個	8個	8個	-	8個	9個	9個	9個	15回 ※3	(重大事故等クラス2機器)	
B6.30	B-G-1	スタッドボルト	体積	100%	58本	UT	100%		16本	8本	8本		8本	9本	9本	9本	9本	(重大事故等クラス2機器)	
B6.40		胴フランジネジ穴のネジ部	体積	100%	58箇所	UT	100%		14箇所	15箇所	15箇所		14箇所	15箇所	15箇所	15箇所	15箇所	(重大事故等クラス2機器)	
B6.50		上蓋用ワッシャ	VT-1	100%	58個	VT-1	100%		16個	8個	8個		8個	9個	9個	9個	9個	(重大事故等クラス2機器)	
B7.10	B-G-2	T/Cハウジングの下部クランプ用ボルト、ナット	VT-1	25%	3組	VT-1	25% (1組)								※4	※4	※4	(重大事故等クラス2機器)	
B14.10	B-0	制御棒駆動ハウジング溶接継手	体積又は表面	最外周の25%	65箇所	PT	最外周の25% (6箇所)		<1箇所> <# 58>				<1箇所> <# 64>	<2箇所> <# 60, 62>				<1箇所> <# 46>	第14回定検 原子炉容器上蓋取替工事にて撤去 (重大事故等クラス2機器)
		制御棒駆動ハウジング上部の溶接継手	体積又は表面	最外周の25%	52箇所	PT	最外周の25% (4箇所)												最外周・16箇所 (重大事故等クラス2機器)
		制御棒駆動ハウジング下部の溶接継手	体積又は表面	最外周の25%	55箇所	PT	最外周の25% (5箇所)												
FL.41	F-A	支持構造物	VT-3	25%	6箇所	VT-3	25% (2箇所)			A出口									(重大事故等クラス2機器)
GL.10	G-P-1	原子炉容器の内部	VT-3	7.5%	1基	VT-3 (水中TV)	100% (可能範囲)							33 1/3%				33 1/3%	(重大事故等クラス2機器)
		原子炉容器の内部取付け物	VT-3	7.5%	1基	VT-3 (水中TV)	100% (可能範囲)											100%	(重大事故等クラス2機器)
GL.40 GL.50	G-P-1 G-P-2	上部炉心支持構造物	VT-3	7.5%	1基	VT-3 (水中TV)	100% (可能範囲)												(重大事故等クラス2機器)
		下部炉心支持構造物	VT-3	7.5%	1基	VT-3 (水中TV)	100% (可能範囲)											100%	(重大事故等クラス2機器)

(注) 項目番号B6.20 B-G-1/B8.10 B-HIについては該当なし。

※1 12回以前はJSME S NAI-2002を適用。

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

※4 第14回定検 原子炉容器上蓋取替工事にて追加されたため、維持規格IA-2320(6)の規定により、次検査間隔から検査を実施

(注) < >は旧設備の検査実績を示す。

2. 加圧器 (1/2)

適用規格：維持規格 JSME S NAI-2008※1		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考												
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期										
								8回	9回	10回	11回		12回	13回※2	14回※2	15回※3								
B2.11		上部鏡板と上部胴との周溶接継手	体積	5%	1シーム	UT	5%												(重大事故等クラス2機器)					
		下部胴と下部鏡板との周溶接継手	体積	5%	1シーム	UT		5%												(重大事故等クラス2機器)				
B2.12	B-B	上部胴の長手溶接継手	体積	10%	2シーム	UT	10%				1シーム 10%								(重大事故等クラス2機器)					
		下部胴の長手溶接継手	体積	10%	2シーム	UT	10%				1シーム 10%								(重大事故等クラス2機器)					
B2.13		上部胴と下部胴との周溶接継手	体積	5%	1シーム	UT	5%								5%				(重大事故等クラス2機器)					
B3.30		管台と容器との溶接継手	サージライン用管台	体積	管台数の25%	1箇所	UT	管台数の25% (2箇所)												(重大事故等クラス2機器)				
			スプレイライン用管台			1箇所																(重大事故等クラス2機器)		
			逃がし弁用管台			1箇所																		(重大事故等クラス2機器)
			安全弁用管台			3箇所																		(重大事故等クラス2機器)
B3.40		管台内面の丸みの部分	サージライン用管台	体積	管台数の25%	1箇所	UT	管台数の25% (2箇所)												(重大事故等クラス2機器)				
			スプレイライン用管台			1箇所																	(重大事故等クラス2機器)	
			逃がし弁用管台			1箇所																		(重大事故等クラス2機器)
			安全弁用管台			3箇所																		

※1 12回以前はJSME S NAI-2002を適用。
 ※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用
 ※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

2. 加圧器 (2/2)

項目番号		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考						
カテゴリー		通用規格: 維持規格 JSME S NA1-2008※1																
検査対象箇所		検査方法		検査範囲		設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期			
									8回	9回	10回	11回	12回	13回 ※3	14回 ※3	15回 ※4		
B5.40	B-F	管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面 (※2)	管台数の25% (※2)	1箇所	UT PT	管台数の25% (2箇所)					1箇所			1箇所			
		サージライン用管台			1箇所													
		スプレイライン用管台			1箇所													
		逃がし弁用管台			1箇所													
B7.20	B-G-2	マンホールの取付けボルト	VT-1	25%	16本	VT-1	25% (4本)				1本					2本	(重大事故等クラス2機器)	
B8.20	B-H	支持スカート溶接継手	表面	7.5%	1シーム	PT	7.5%								7.5%			(重大事故等クラス2機器)
F1.41	F-A	支持構造物	VT-3	25%	1箇所	VT-3	25% (1箇所)									1箇所		(重大事故等クラス2機器)

(注) 項目番号B5.50, B5.60 B-F/B6.60, B6.70, B6.80 B-G-1については該当なし。

※1 12回以前はJSME S NA1-2002を適用。

※2 14回はNRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(原規技発第1408063号(平成26年8月6日 原子力規制委員会決定))に従う。

※3 13回以前は、NISA文書「発電用原子力設備における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈について(内規)」(平成21年12月25日付け平成21・11・18原院第1号)に従う。

※4 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※4 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

3. 蒸気発生器

適用規格：維持規格 JSME S NAI-2008※1		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考						
項目番号	カテゴリー	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期				
								8回	9回	10回	11回		12回	13回※4	14回※4	15回※5		
B2.40	B-B	管板と水室鏡板との溶接継手	体積	代表1基の25%	17-4/基×3基	UT	代表1基の25%	A 5%	A 7.5%									(重大事故等クラス2機器)
B3.60	B-D	冷却材出入口管台内の丸みの部分	体積	代表1基の25%	2箇所/基×3基	UT	代表1基の25% (1箇所)											(重大事故等クラス2機器)
B5.70	B-F	冷却材出入口管台とセーフエントとの溶接継手	体積及び表面 (※2)	代表1基の25% (※2, 3)	1箇所/基×3基	PT	代表1基の25%	A										600系N1合金使用部位であるが、第11回定検において検出眼のき裂を想定したうえで応力腐食割れ防止の有効性を検証された対策 (ECT+ISF) を施したため、第12回定検以降、検査計画を以下のとおりとする。 A号機入口管を代表箇所とする。 各検査方法における検査間隔は、維持規格に従い10年とする。 (重大事故等クラス2機器)
			ECT (内表面) (※2)			[C]												
B7.30	B-G-2	冷却材出入口側マンホールの取付けボルト	体積及び表面 (※2)	代表1基の25%	16本×2/基×3基	PT	代表1基の25%											(重大事故等クラス2機器)
			ECT (内表面) (※2)			[C]		[A]										
B8.30	B-H	支持部材の容器への取付け溶接継手	表面	代表1基の7.5%	4箇所/基×3基	PT	代表1基の7.5% (1箇所)			A入口 2本								(重大事故等クラス2機器)
F1.41	F-A	支持構造物	VT-3	代表1基の25%	4箇所/基×3基	VT-3	代表1基の25% (1箇所)											(重大事故等クラス2機器)

(注) 項目番号B3.60 B-D/B5.80, B5.90 B-F/B6.90, B6.100, B6.110 B-G-1/B16.30 B-Qについては該当なし。

《 》は蒸気発生器出入口管台溶接部内表面検査 (「蒸気発生器出入口管台溶接部の内表面の点検実施について」(平成19年11月16日付け平成19-11-13原院第7号)および「定期事業者検査における超音波探傷試験の代替措置計画策定について(指示)」(平成20年2月5日付け平成20-02-05原院第5号)に基づき実施) における検査実績を示す。

項目番号B16.20 B-Q 「伝熱管」については、統合型保守管理システム (E-AM) にて管理する。

※1 12回以前はJSME S NAI-2002を適用。

※2 13回以前は、NISA文書「発電用原子力設備における破損を引き起こすき裂その他の欠陥の解釈について(内規)」(平成21年12月25日付け平成21-11-18原院第1号)に従う。

※3 第11回定検までの検査範囲は、体積及び表面：代表1基の100%。

※4 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※5 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

[]は定時点検方式の検査箇所としては選定しない。

4. 配管 (1/5)

項目番号		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考									
カテゴリー		適用規格: 維持規格 JSME S NAI-2008※1																			
検査対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期								
B7.50		VT-1	25%	6箇所	VT-1	25% (2箇所)	-	8回	9回	10回	11回	-	12回	13回 ※2	14回 ※2	15回 ※3					
B9.11		B-J	25%	10箇所	UT	25% (3箇所)			1箇所				1箇所								
B7.50 B9.11 B-J 配管の周溶接継手（呼び径1000A以上）		圧力保持用ボルト、ナット	一次冷却材ポンプ 封水注入ライン	VT-1	25%	6箇所	VT-1	25% (2箇所)	-	8回	9回	10回	11回	-	12回	13回 ※2	14回 ※2	15回 ※3			
		一次冷却材管	体積	25%	36箇所	UT	25% (9箇所)		1箇所	2箇所	2箇所	2箇所	-	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器サージライン	体積	25%	7箇所	UT	25% (2箇所)							1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器安全弁ライン	体積	25%	27箇所	UT	25% (7箇所)		<1箇所>		1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	2箇所	1箇所	2箇所	(重大事故等クラス2機器)
		加圧器逃がしライン	体積	25%	7箇所	UT	25% (2箇所)				1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	(重大事故等クラス2機器)
		加圧器スプレイライン	体積	25%	61箇所	UT	25% (16箇所) ※4		<1箇所>	<2箇所>	<3箇所>	<2箇所>	<2箇所>	<2箇所>	<2箇所>	<2箇所>	<2箇所>	<2箇所>	3箇所	3箇所	
		余熱除去ポンプ入ロライン	体積	25%	10箇所	UT	25% (3箇所)			1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	(重大事故等クラス2機器)
		蓄圧注入ライン	体積	25%	44箇所	UT	25% (11箇所)		1箇所	3箇所	2箇所	2箇所	2箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	(重大事故等クラス2機器)
		高温側低圧注入ライン	体積	25%	31箇所	UT	25% (8箇所)		1箇所	2箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	(重大事故等クラス2機器)
		低温側低圧注入ライン	体積	25%	39箇所	UT	25% (10箇所)			2箇所	2箇所	2箇所	1箇所	2箇所	2箇所	1箇所	1箇所	2箇所	1箇所	1箇所	(重大事故等クラス2機器)
高温側高圧注入ライン	体積	25%	16箇所	UT	25% (4箇所)			1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	(重大事故等クラス2機器)		

(注) 項目番号B5.130, B5.140, B5.150 B-F/B6.150, B6.160, B6.170 B-G-1/B9.12 B-Jについては該当なし。

※1 12回以前はJSME S NAI-2002を適用。

(注) < >は旧設備の検査実績を示す。

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

※4 第14回定検 1次系配管・弁修繕工事および充てんラインB系統撤去工事にて試験部位が増加したため、維持規格IA-2320(6)cの規定により、追加箇所については次検査間隔から検査を実施する。

4. 配管 (2/5)

項目番号		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)											備考				
カテゴリー		適用規格: 維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8 ※1															
検査対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期				第2検査時期				第3検査時期		
							8回	9回	10回	11回	12回	13回 ※2	14回 ※2	15回 ※3			
B9.21	配管の周溶接継手(呼び径100A未満)	一次冷却材管	表面	25%	2箇所	PT	25% (1箇所) ※4									(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器逃がしライン	表面	25%	12箇所	PT	25% (3箇所)			1箇所		1箇所				(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器補助スプレイレイン	表面	25%	18箇所	PT	25% (6箇所) ※4		<1箇所>		1箇所				1箇所		
		ドレンライン	表面	25%	30箇所	PT	25% (8箇所) ※4		<1箇所>	[1箇所]	1箇所		<1箇所>		1箇所	2箇所	
		充てんライン	表面	25%	8箇所	PT	25% (2箇所)		<1箇所>				<1箇所>				第14回定検 1次系配管・非修繕工事および充てんラインB系統撤去工事にて、充てんラインB系統撤去 (重大事故等クラス2機器)
		一次冷却材ポンプ封水注入ライン	表面	25%	14箇所	PT	25% (4箇所)			1箇所	1箇所		1箇所				
		高温側高圧注入ライン	表面	25%	12箇所	PT	25% (3箇所)		1箇所			1箇所			1箇所		(重大事故等クラス2機器)
		低温側高圧注入ライン	表面	25%	54箇所	PT	25% (14箇所)		2箇所	1箇所	2箇所	1箇所	2箇所	2箇所	3箇所	1箇所	(重大事故等クラス2機器)
		母管と管台との溶接継手(呼び径100A以上)	体積	25%	14箇所	UT	25% (4箇所)				1箇所		1箇所		1箇所		(重大事故等クラス2機器)
		母管と管台との溶接継手(呼び径100A未満)	表面	25%	8箇所	PT	25% (2箇所)										(重大事故等クラス2機器)
B9.32	溶ソケット継手	高温側低圧注入ライン	表面	25%	2箇所	PT	25% (1箇所)									(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器補助スプレイレイン	表面	25%	4箇所	PT	25% (1箇所)									第14回定検 1次系配管・非修繕工事および充てんラインB系統撤去工事にて、一部を抜き合わせ溶接継手に変更	
B9.40	ドレンライン	溶ソケット継手	表面	25%	4箇所	PT	25% (1箇所)									第14回定検 1次系配管・非修繕工事および充てんラインB系統撤去工事にて、一部を抜き合わせ溶接継手に変更	
		ドレンライン	表面	25%	4箇所	PT	25% (1箇所)			<1箇所>							

(注) 項目番号B9.22 B-Jについては該当なし。

※1 12回以前はJSME S N A 1-2002を適用。

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

[]は定点カンパニング方式の検査箇所としては選定しない。

※4 第14回定検 1次系配管・非修繕工事および充てんラインB系統撤去工事にて試験部位が増加したため、維持規格IA-2320(6)bの規定により、追加箇所については次検査間隔から検査を実施する。

(注) < >は旧設備の検査実績を示す。

4. 配管 (3/5)

適用規格： 維持規格 JSME S NAI-2008※1		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)												備考							
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期				第3検査時期						
								8回	9回	10回	11回	12回	13回		14回	15回					
B9.40	B-J	ソケット	表面	25%	51箇所	PT	25% (13箇所)	1箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	15回 ※3	(重大事故等クラス2機器)			
		溶接	表面	25%	16箇所	PT	25% (4箇所)	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	2箇所		(重大事故等クラス2機器)		
		継手	表面	25%	18箇所	PT	25% (5箇所)	1箇所	1箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所			(重大事故等クラス2機器)	
Fl.10	F-A	加圧器サージライン	VT-3	25%	9箇所	MS 7 SH 2	25% (3箇所)	<1箇所>	<1箇所>	<1箇所>	<1箇所>	<1箇所>	<1箇所>	<1箇所>	<1箇所>	<1箇所>	<1箇所>	(重大事故等クラス2機器)			
			VT-3	25%	10箇所	MS 8 SH 2	25% (3箇所)	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所		(重大事故等クラス2機器)		
			VT-3	25%	77箇所	MS 27 RH 43 SH 7	25% (20箇所)	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所			4箇所	
			VT-3	25%	17箇所	AN 1 HS 2	25% (5箇所)	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所			1箇所	2箇所
			VT-3	25%	17箇所	MS 9 RH 3 SH 2	25% (5箇所)	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所			1箇所	2箇所

(注) 項目番号B9.110, B9.120, B9.130 B-J/B10.20 B-Kについては該当なし。

※1 12回以前はJSME S NAI-2002を適用。

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

(注) < >は旧設備の検査実績を示す。

4. 配管 (4/5)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008※1		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考																															
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期																														
								8回	9回	10回	11回		12回	13回※2	14回※2	15回※3																											
F1.10	P-A	ドレンライン	VT-3	25%	23箇所 MS 6 RH 16 SH 1	VT-3	25% (6箇所)	1箇所	<1箇所>	2箇所	-	-	1箇所	1箇所	1箇所	第14回定検 1次蒸気配管・非修繕工事および充てんラインの高経撤去工事にて、蒸てんラインの高経撤去 (重大事故等クラス2機器)																											
																	支 持 構 造 物	充てんライン	VT-3	6箇所 MS 2 RH 4	VT-3	25% (2箇所)	<1箇所>	1箇所	-	-	-	-	-	-	-												
																																一次冷却材ポンプ 封水注入ライン	VT-3	28箇所 MS 3 RH 25	VT-3	25% (7箇所)	1箇所	2箇所	-	-	-	-	-
蓄圧注入ライン	VT-3	35箇所 MS 14 RH 18 SH 3	VT-3	25% (9箇所)	1箇所	2箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																											

※1 12回以前はJSME S NA1-2002を適用。
 ※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用
 ※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用
 (注) < >は旧設備の検査実績を示す。

4. 配管 (5/5)

項目 番号	カテゴリ	適用規格：維持規格 JSME S NAI-2008※1 伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期				第2検査時期				第3検査時期				備考									
									8回	9回	10回	11回	12回	13回 ※2	14回 ※2	15回 ※3	8回	9回	10回	11回		12回	13回 ※2	14回 ※2	15回 ※3					
Fl. 10	F-A	維持構造物	高温側低圧注入ライン	VT-3	25%	AN 1 HS 1 MS 7 RH 16 SH 3 28箇所	VT-3	25% (7箇所)				1箇所																		
						AN 1 HS 3 MS 13 RH 21 SH 2 40箇所							1箇所								1箇所									
						AN 2 MS 3 RH 24 AN 3 MS 12 RH 34 SH 3 29箇所								1箇所				2箇所				1箇所						1箇所		(重大事故等クラス2機器)
						低温側高圧注入ライン	VT-3	25%		VT-3	25% (10箇所)																			(重大事故等クラス2機器)
						高温側高圧注入ライン	VT-3	25%		VT-3	25% (8箇所)																			(重大事故等クラス2機器)
						低温側高圧注入ライン	VT-3	25%		VT-3	25% (13箇所)																			(重大事故等クラス2機器)

(注) < >は旧設備の検査実績を示す。
 ※1 12回以前はJSME S NAI-2002を適用。
 ※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用
 ※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

5. 一次冷却材ポンプ

項目番号		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考					
カテゴリー		検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期			
								8回	9回	10回	11回	12回	13回 ※2	14回 ※2	15回 ※3		
B6.180		主フランジボルト	体積	代表1台の25%	24本/台 × 3台	UT	代表1台の25% (6本)	A 2本			A 2本						(重大事故等クラス2機器)
B6.190	B-G-1	主フランジ表面 (開放時)	VT-1	代表1台の25%	3台	VT-1	代表1台の100%										(重大事故等クラス2機器)
B6.200		主フランジナット及びワッシャ	VT-1	代表1台の25%	24組/台 × 3台	VT-1	代表1台の25% (6組)										(重大事故等クラス2機器)
B12.20	B-L-2	ケーシングの内表面	VT-3	代表1台の100%	3台	VT-3	代表1台の100%										(重大事故等クラス2機器)
F1.41	F-A	支持構造物	VT-3	代表1台の25%	3箇所/台 × 3台	VT-3	代表1台の25% (1箇所)								B 1箇所		(重大事故等クラス2機器)

(注) 項目番号B7.60 B-G-2/B10.30 B-K/B12.10 B-L-1については該当なし。

※1 12回以前はJISME S NAI-2002を適用。

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008※1		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考							
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期					
								8回	9回	10回	11回		12回	13回※2	14回※2	15回※3			
B7.70	B-G-2	加圧器安全弁ライン (3V-RC-055, 056, 057)	VT-1	代表1台の25%	12個/台×3台	VT-1	代表1台の100%											型式：6-RV658B (重大事故等クラス2機器)	
		加圧器逃がしライン(1) (3V-RC-054A, 054B)	VT-1	代表1台の25%	10個/台×2台	VT-1	代表1台の100%	1台										型式：2-GH658H (重大事故等クラス2機器)	
		加圧器逃がしライン(2) (3PCV-452A, 452B)	VT-1	代表1台の25%	6個/台×2台	VT-1	代表1台の100%		1台									型式：3-1A658R (重大事故等クラス2機器)	
		加圧器スプレイレイン (3PCV-451A, 451B)	VT-1	代表1台の25%	8個/台×2台	VT-1	代表1台の100%	<1台>										型式：4-1A658R3	
		加圧器補助スプレイレイン (3V-CS-156)	VT-1	代表1台の25%	6個/台×1台	VT-1	代表1台の100%		1台									型式：2-1A658R	
		ドレンライン (3V-RC-020A, 020B, 020C)	VT-1	代表1台の25%	8個/台×3台	VT-1	代表1台の100%		1台									型式：2-T58B	
		抽出ライン(1) (3V-RC-019)	VT-1	代表1台の25%	10個/台×1台	VT-1	代表1台の100%		<1台>									型式：3-658	
		抽出ライン(2) (3LCV-451, 452)	VT-1	代表1台の25%	6個/台×2台	VT-1	代表1台の100%											型式：3-1A658B	
		赤てんライン (3V-CS-161, 162, 164, 165)	VT-1	代表1台の25%	10個/台×4台	VT-1	代表1台の100%					<1台>						型式：3-C58 (重大事故等クラス2機器)	
		糸巻除去ボンプ入力ライン (3PCV-420, 430)	VT-1	代表1台の25%	18個/台×2台	VT-1	代表1台の100%		1台									型式：12-GH658MH (重大事故等クラス2機器)	
		蓄圧注入ライン (3V-SI-134A, 134B, 134C, 135A, 135B, 135C)	VT-1	代表1台の25%	16個/台×6台	VT-1	代表1台の100%									1台			型式：12-C58Z (重大事故等クラス2機器)
		高温側低圧注入ライン (3V-RH-053A, 053B, 3V-SI-082A, 082B)	VT-1	代表1台の25%	14個/台×4台	VT-1	代表1台の100%									1台			型式：6-C58 (重大事故等クラス2機器)
		低温側低圧注入ライン (3V-RH-044A, 044B, 044C, 047A, 047B, 047C)	VT-1	代表1台の25%	14個/台×6台	VT-1	代表1台の100%										1台		型式：6-C58 (重大事故等クラス2機器)
		高温側蓄圧注入ライン (3V-SI-082C)	VT-1	代表1台の25%	14個/台×1台	VT-1	代表1台の100%										1台		型式：6-C58 (重大事故等クラス2機器)

(注) 項目番号B6.210, B6.220, B6.230 B-G-1 については該当なし。

※1 12回以前はJSME S NA1-2002を適用。

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プログラムト停止に伴う検査間隔延長を適用

※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

(注) < >は旧設備の検査実績を示す。

6. 弁 (2/3)

適用規格： 維持規格 JSME S NA1-2008※1		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)												備考						
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期							第2検査時期			第3検査時期		
								8回	9回	10回	11回	12回	13回※2		14回※2	15回※3				
B12.50	B-M-2	弁 本体 内 表面	加圧器安全弁ライン (3V-RC-055, 056, 057) 余熱除去ポンプ入口ライン (3PCY-420, 430) 蓄圧注入ライン (3V-SI-134A, 134B, 134C, 136A, 136B, 136C) 高温側低圧注入ライン (3V-RH-053A, 053B, 3V-SI-082A, 082B) 低温側低圧注入ライン (3V-RI-044A, 044B, 044C, 047A, 047B, 047C) 高温側高圧注入ライン (3V-SI-082C)	VT-3	同一グループ で1台	3台	VT-3	同一グループ で1台	-	8回	9回	10回	11回	12回	13回※2	14回※2	15回※3	型式：6-NV65SB (重大事故等クラス2機器)		
				VT-3	同一グループ で1台	2台	VT-3	同一グループ で1台					1台						型式：12-CM65SHH (重大事故等クラス2機器)	
				VT-3	同一グループ で1台	6台	VT-3	同一グループ で1台						1台						型式：12-C58Z (重大事故等クラス2機器)
				VT-3	同一グループ で1台	4台	VT-3	同一グループ で1台									1台			型式：6-C58 (重大事故等クラス2機器)
				VT-3	同一グループ で1台	6台	VT-3	同一グループ で1台							1台					型式：6-C58 (重大事故等クラス2機器)
				VT-3	同一グループ で1台	1台	VT-3	同一グループ で1台								1台				

(注) 項目番号B10.40 B-K/B12.30, B12.40 B-M-1については該当なし。

※1 12回以前はJSME S NA1-2002を適用。

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

適用規格：維持規格 JSME S NAI-2008※1		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考								
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期							
								8回	9回	10回	11回		12回	13回※2	14回※2	15回※3				
FL. 41	F-A	支 持 構 造 物	加圧器安全弁ライン (3V-RC-055, 056, 057)	VT-3	代表1台 の25%	2箇所/台 ×3台	VT-3	代表1台 の25% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
			加圧器逃がしライン (1) (3V-RC-054A, 054B)	VT-3	代表1台 の25%	2箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の25% (1箇所)	-	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			加圧器逃がしライン (2) (3PCV-452A, 452B)	VT-3	代表1台 の25%	2箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の25% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
			加圧器スプレイレイン (3PCV-451A, 451B)	VT-3	代表1台 の25%	2箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の25% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	<1箇所>	-	-	
			加圧器補助スプレイレイン (3V-CS-156)	VT-3	代表1台 の25%	2箇所/台 ×1台	VT-3	代表1台 の25% (1箇所)	-	-	-	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	
			抽出ライン (3LCV-451, 452)	VT-3	代表1台 の25%	2箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の25% (1箇所)	-	-	<1箇所>	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 12回以前はJSME S NAI-2002を適用。

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

7. クラスI機器漏えい検査

適用規格： 維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考						
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期				
								8回	9回	10回	11回		12回	13回 ※1	14回 ※1	15回 ※2		
B15.10	B-P	原子炉容器 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%	1式	VT-2	漏えい 試験時 100%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(重大事故等クラス2機器)
B15.20	B-P	加圧器 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%	1式	VT-2	漏えい 試験時 100%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(重大事故等クラス2機器)
B15.30	B-P	蒸気発生器 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%	1式	VT-2	漏えい 試験時 100%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(重大事故等クラス2機器)
B15.50	B-P	配管 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%	1式	VT-2	漏えい 試験時 100%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(重大事故等クラス2機器)
B15.60	B-P	一次冷却材ポンプ 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%	1式	VT-2	漏えい 試験時 100%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(重大事故等クラス2機器)
B15.70	B-P	弁 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%	1式	VT-2	漏えい 試験時 100%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(重大事故等クラス2機器)

※1 維持規格 IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※2 維持規格 IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

クラス1機器供用期間中検査10年計画(原子炉冷却材圧カバワンダリ範囲の見直しに伴う検査計画)

1. 配管

適用規格: 維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考						
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期					
B9.11	B-J	配管の周溶接継手(呼び径100A以上)	体積	25%	19箇所	UT	25% ※1	8回	9回	10回	11回	12回	13回 ※2	14回 ※2	15回 ※3	(重大事故等クラス2機器)		
B9.21	B-J	配管の周溶接継手(呼び径100A未満)	表面	25%	6箇所	PT	25% ※1						6箇所			(重大事故等クラス2機器)		
B9.32	B-J	母管と管台との溶接継手(呼び径100A未満)	表面	25%	4箇所	PT	25% ※1						4箇所			(重大事故等クラス2機器)		
B10.20	B-K	配管の支持部材取付け溶接継手	表面	7.5%	4箇所	PT	7.5% ※1						4箇所			(重大事故等クラス2機器)		
F1.10	F-A	支持構造物	VT-3	25%	27	VT-3	25% ※1											
								MS	12									
								RH	12									

- ※1 13回に全数検査実施
- ※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用
- ※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

2. 弁

適用規格: 維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考				
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期			
B7.70	B-G-2	圧力保持用ボルト・ナット	VT-1	代表1台の25%	18個/台 × 2台	VT-1	代表1台の100% ※1	-					13回 ※2	14回 ※2	15回 ※3	型式: 12-GH68SHI (重大事故等クラス2機器)
B12.50	B-H-2	弁本体表面	VT-3	同一グループで1台	2台	VT-3	同一グループで1台 ※1						2台			型式: 12-GH68SHI (重大事故等クラス2機器)
F1.41	F-A	支持構造物	VT-3	代表1台の25%	1箇所/台 × 2台	VT-3	代表1台の25% ※1						2箇所			(重大事故等クラス2機器)

- ※1 13回に全数検査実施
- ※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用
- ※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

クラス2機器供用期間中検査10年計画

1. 余熱除去冷却器

適用規格：維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考			
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期		
								-	13回 特4※1	-	14回	-	15回	16回	17回
C1.10	C-A	胴とフランジとの周溶接継手	体積	1つの 容器の 7.5%	1つ-A/基 ×2基	UT	1つの 容器の 7.5%	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
C1.20		胴と鏡板との周溶接継手	体積	1つの 容器の 7.5%	1つ-A/基 ×2基	UT	1つの 容器の 7.5%	A 7.5%	-	-	-	-	A 7.5%		
C2.21	C-B	管側出入口管台と管側胴との溶接継手	体積及び表面	管台数の 7.5%	2箇所/基 ×2基	UT PT	管台数 の7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	A入口	(重大事故等クラス2機器)

(注) 項目番号C1.30 C-A/C2.11, C2.22, C2.31, C2.32 C-B/C3.10 C-C/C4.10 C-D/F1.43 F-Aについては該当なし。

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

2. 配管 (1/5)

適用規格		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考										
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期								
								13回 特4※1	-	-	14回		-	15回	16回	17回						
C3.20	C-C	配管の 支 持 部 材	余熱除去ポンプ 入口ライン	表面	7.5%	4箇所	PT	7.5% (1箇所)	-	-	-	15回 1箇所	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)				
			余熱除去冷却器 出口ライン	表面	7.5%	17箇所	PT	7.5% (2箇所)	-	-	1箇所	-	-	-	-	-	-	1箇所	(重大事故等クラス2機器)			
			高温側低圧注入ライン	表面	7.5%	2箇所	PT	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	(重大事故等クラス2機器)		
			低温側低圧注入ライン	表面	7.5%	3箇所	PT	7.5% (1箇所)	-	-	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
			高温側高圧注入ライン	表面	7.5%	4箇所	PT	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
			低温側高圧注入ライン	表面	7.5%	4箇所	PT	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
			高圧注入ポンプ 出口ライン	表面	7.5%	19箇所	PT	7.5% (2箇所)	-	-	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	(重大事故等クラス2機器)	
			格納容器再循環サブ 出口ライン	表面	7.5%	4箇所	PT	7.5% (1箇所)	-	-	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	(重大事故等クラス2機器)
			余熱除去ポンプ 入口ライン (1)	体積及び 表面	7.5%	4箇所	UT PT	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	(重大事故等クラス2機器)
			余熱除去ポンプ 入口ライン (2)	表面	7.5%	49箇所	PT	7.5% (4箇所)	-	-	1箇所	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	(重大事故等クラス2機器)
C5.11	C-F	溶接 厚 肉 接 継 手	余熱除去冷却器 出口ライン	体積及び 表面	7.5%	57箇所	UT PT	7.5% (5箇所)	-	-	2箇所	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	(重大事故等クラス2機器)		
			高温側低圧注入ライン	体積及び 表面	7.5%	26箇所	UT PT	7.5% (2箇所)	-	-	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	(重大事故等クラス2機器)	
			低温側低圧注入ライン	体積及び 表面	7.5%	21箇所	UT PT	7.5% (2箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	(重大事故等クラス2機器)	
			高圧注入ポンプ 出口ライン	体積及び 表面	7.5%	31箇所	UT PT	7.5% (3箇所)	-	-	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	(重大事故等クラス2機器)
			燃料取替用水タンク 出口ライン	表面	7.5%	12箇所	PT	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	-	-	-	-	1箇所
			格納容器再循環サブ 出口ライン	体積及び 表面	7.5%	2箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	(重大事故等クラス2機器)	

(注) 項目番号C4.20 C-Dについては該当なし。
※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

2. 配管 (2/5)

適用規格：維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考								
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期						
								13回 特4※1	-	-	14回		-	-	15回	16回	17回			
C5.12		配管の長手 溶接継手 (呼び径 100A超、 肉厚 9.5mm超)	表面	7.5%	14箇所	PT	7.5% (2箇所)	1箇所	-	-	-	1箇所	-	-	-	1箇所	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		燃料取替用水 タンク出口ライン	表面	7.5%	10箇所	PT	7.5% (1箇所)	1箇所												(重大事故等クラス2機器)
C5.21	C-F	格納容器再循環 サンプ出口ライン	体積及び 表面	7.5%	4箇所	-	-													全箇所、格納容器再循環部のため検査不可 (重大事故等クラス2機器)
		高温側高圧注入 ライン	表面	7.5%	58箇所	PT	7.5% (5箇所)	1箇所								2箇所				(重大事故等クラス2機器)
C5.21		配管の周溶 接継手 (呼び径 50A以上 100A以下、 肉厚 5mm超)	表面	7.5%	43箇所	PT	7.5% (4箇所)				1箇所					1箇所				(重大事故等クラス2機器)
		高圧注入ポンプ 出口ライン	表面	7.5%	112箇所	PT	7.5% (9箇所)	2箇所								3箇所				(重大事故等クラス2機器)
C5.30		高圧注入ポンプ出 口封水注入ライン	表面	7.5%	19箇所	PT	7.5% (2箇所)				1箇所					1箇所				(重大事故等クラス2機器)
		高温側高圧注入ライン	表面	7.5%	32箇所	PT	7.5% (3箇所)	1箇所								1箇所				(重大事故等クラス2機器)
C5.30		低温側高圧注入ライン	表面	7.5%	26箇所	PT	7.5% (2箇所)								1箇所					(重大事故等クラス2機器)
		高圧注入ポンプ出口 封水注入ライン	表面	7.5%	20箇所	PT	7.5% (2箇所)									1箇所				(重大事故等クラス2機器)

(注) 項目番号C5.22, C5.41, C5.42 C-Fについては該当なし。

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

2. 配管 (3/5)

適用規格: 維持規格 JSME S N A I - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)																			
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	第1検査時期		第2検査時期		第3検査時期		備考									
						-	13回 特4※1	-	14回	-	16回		17回								
F1.21	F-A	支 持 構 造 物	余熱除去ポンプ 入口ライン	VT-3	7.5%	36箇 所	HS 4	MS 5	RH 25	SH 2	13回	-	15回	-	16回	17回	(重大事故等クラス2機器)				
							MS 5	RH 25	SH 2	1箇所	-	-	-	-	-	1箇所					
							HS 3	MS 1	RH 10	SH 2	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-
							MS 1	RH 10	SH 2	1箇所	-	-	-	-	-	-		-	-	-	1箇所
							MS 1	RH 5	SH 2	6箇 所	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-
			余熱除去冷却器 入口ライン	VT-3	7.5%	6箇 所	MS 1	RH 5	SH 2	-	-	1箇所	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)					
			余熱除去冷却器 バイパスライン	VT-3	7.5%	6箇 所	MS 4	RH 2	AN 3	-	-	-	1箇所	-	-	(重大事故等クラス2機器)					
			余熱除去冷却器 出口ライン	VT-3	7.5%	85箇 所	HS 8	MS 16	RH 58	1箇所	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)					
										1箇所	-	-	-	-	-						
										1箇所	-	-	-	-	2箇所						

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

2. 配管 (4/5)

適用規格: 維持規格 JSME S N A I - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)													
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期		第3検査時期		備考	
								-	13回 特4※1	-	14回	-	16回		17回
F1.21	F-A	支 持 構 造 物	VT-3	7.5%	AN 1	VT-3	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
					HS 2			-	-	-	-	-			
					MS 3			-	-	-	-	-			
					RH 6			1箇所	-	-	-	-			
					SH 1			-	-	-	-	-			
					AN 1			-	-	-	-	-			
					HS 3			-	-	-	-	-			
					MS 1			-	-	-	-	-			
					RH 7			1箇所	-	-	-	-			
					RH 81			1箇所	2箇所	-	-	-			
					AN 1			-	-	-	-	-			
					RH 55			1箇所	-	-	-	-			
					AN 9			-	-	-	-	-			
MS 109	1箇所	1箇所	-	-	-										
RH 99	2箇所	3箇所	-	-	-										
RH 26	26箇所	7.5%	VT-3	7.5% (2箇所)	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	-	-	-

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

2. 配管 (5/5)

適用規格: 維持規格 JSME S N A I - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)														
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期		第3検査時期		備考		
								-	13回 特4※1	-	14回	-	16回		17回	
F1.21	F-A	燃料取替用水タンク 出口ライン 支 持 構 造 物	VT-3	7.5% (1箇所)	HS 1	VT-3	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
					RH 2										1箇所	15回
					AN 2											
		格納容器再循環サンプ 出口ライン	VT-3	7.5%	HS 8 RH 16	VT-3	7.5% (2箇所)									
		格納容器再循環サンプ 出口パイパスライン	VT-3	7.5%	2 箇所	VT-3	7.5% (1箇所)					1箇所	1箇所		(当該備数の内、24箇所についてのみ重大事故等クラス2機器)	

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

3. 充てんポンプ

伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)												備考					
適用規格: 維持規格 JSME SNA1-2008																	
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期				
C3.30	C-C	支持部材取付け溶接継手	表面	7.5%	16箇所/台 ×3台	PT	7.5% (4箇所)	-	13回 特4※1	-	14回	-	15回	16回	17回	(重大事故等クラス2機器)	
C4.30	C-D	ケーシングボルト	体積	代表1台 の7.5%	16本/台 ×3台	UT	代表1台 の7.5% (2本)		A 1箇所 B 1箇所				A 1箇所		C 1箇所		
C6.10	C-G	ポンプケーシング部の溶接継手	表面	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×3台	PT	代表1台 の7.5% (1箇所)							A 1箇所			(重大事故等クラス2機器)
F1.43	F-A	支持構造物 ポンプ台板脚	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×3台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)		A 1箇所								(重大事故等クラス2機器)

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

4. 余熱除去ポンプ

伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)												備考				
適用規格: 維持規格 JSME SNA1-2008																
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期			
C6.10	C-G	ポンプケーシング部の溶接継手	表面	代表1台 の7.5%	2箇所/台 ×2台	PT	代表1台 の7.5% (1箇所)	-	13回 特4※1	-	14回	-	15回	16回	17回	(重大事故等クラス2機器)
F1.43	F-A	支持構造物 ポンプ台板脚	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)				A 1箇所			A 1箇所		

(注) 項目番号C3.30 C-C/C4.30 C-Dについては該当なし。

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

適用規格：維持規格 J S M E S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考											
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期									
								-	13回 特4※1	-	-		14回	-	15回	-	16回	17回					
F.1.43	F-A	支 持 構 造 物	高圧注入ポンプ出口 封水注入ラインA (3V-SI-026A)	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/台 ×1台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)										1箇所					
			高圧注入ポンプ出口 封水注入ラインB (3V-SI-026B)	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/台 ×1台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)											1箇所				
			余熱除去冷却器 出口ライン(1) (3HCV-603, 613)	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)												1箇所		(重大事故等クラス2機器)	
			余熱除去冷却器 出口ライン(2) (3V-RH-051A, 051B)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)			1箇所											(重大事故等クラス2機器)	
			余熱除去冷却器 出口ライン(3) (3V-RH-040A, 040B)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)			1箇所											(重大事故等クラス2機器)	
			余熱除去冷却器 バイパスライン (3FCV-604, 614)	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)					1箇所									(重大事故等クラス2機器)	
			高温側低圧注入 ライン (3V-RH-052A, 052B)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)												1箇所		(重大事故等クラス2機器)	
			高圧注入ポンプ 出口ラインA (3V-SI-066A, 067A)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)													1箇所		(重大事故等クラス2機器)
			高圧注入ポンプ 出口ラインB (3V-SI-066B, 067B)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)													1箇所		(重大事故等クラス2機器)
			格納容器再循環サンプ 出口ライン (3V-SI-093A, 093B)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														1箇所	(重大事故等クラス2機器)
			格納容器再循環サンプ 出口バイパスライン (3V-SI-092)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×1台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)															(重大事故等クラス2機器)

(注) 項目番号C3.40 C-C/C4.40 C-D/C6.20 C-Gについては該当なし。

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

6. クラス2機器漏えい検査 (1/5)

適用規格：維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)							備考							
項目番号	カテゴリ	システム名	検査対象箇所	検査方法	検査圧力	第1検査時期		第2検査時期		第3検査時期						
						-	13回 特4※1	-	14回	-	15回	16回	17回			
C7.30 C7.70		一次冷却系統	加圧器逃がしタンク 補給水ライン	VT-2	運転圧力以上又は機能試験時の圧力以上	-	-	-	-	○						
C7.10 C7.30 C7.70			抽出ライン(1)	VT-2					○							
C7.10 C7.30 C7.70			抽出ライン(2)	VT-2					○							
C7.10 C7.30 C7.70			体積制御タンク入口ライン	VT-2												
C7.10 C7.30 C7.70			体積制御タンク及び 出入口ライン	VT-2										(重大事故等クラス2機器)		
C7.30 C7.50 C7.70			充てんポンプ3A出口ライン	VT-2							○			(重大事故等クラス2機器)		
C7.30 C7.50 C7.70			充てんポンプ3B出口ライン	VT-2									○	(重大事故等クラス2機器)		
C7.30 C7.50 C7.70	C-H	化学体積制御系統	充てんポンプ3C出口ライン	VT-2									○	(重大事故等クラス2機器)		
C7.10 C7.30 C7.70			充てん及び封水注入ライン	VT-2									○	(重大事故等クラス2機器)		
C7.10 C7.30 C7.70			ほう酸混合器及び出入口 ライン	VT-2									○			
C7.30 C7.70			ほう酸ポンプ3A入口ライン	VT-2										○	(重大事故等クラス2機器)	
C7.30 C7.70			ほう酸ポンプ3B入口ライン	VT-2											○	(重大事故等クラス2機器)
C7.30 C7.50 C7.70			ほう酸ポンプ3A出口ライン	VT-2											○	(重大事故等クラス2機器)
C7.30 C7.50 C7.70			ほう酸ポンプ3B出口ライン	VT-2											○	(重大事故等クラス2機器)
C7.30 C7.70			一次冷却材ポンプ 封水展りライン	VT-2											○	(重大事故等クラス2機器)

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用し、運転再開時に検査を実施した。

6. クラス2機器漏えい検査 (2/5)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)						備考												
項目番号	カテゴリ	システム名	検査対象箇所	検査方法	検査圧力	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期								
						-	13回特4※1	-	-	14回	-	15回	-	16回	-	17回				
C7.30 C7.70		安全注入系統	高圧注入ポンプ3A、3B 入口ライン(1)	VT-2	運転圧力以上又は機能試験時の圧力以上												(重大事故等クラス2機器)			
C7.30 C7.70			高圧注入ポンプ3A、3B 入口ライン(2)	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.30 C7.50 C7.70			高圧注入ポンプ3A 出口ライン(1)	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.30 C7.70			高圧注入ポンプ3A 出口ライン(2)	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.30 C7.50 C7.70			高圧注入ポンプ3B 出口ライン(1)	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.30 C7.70			高圧注入ポンプ3B 出口ライン(2)	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.10 C7.30 C7.70	C-H		蓄圧タンク及びび出入ロライン	VT-2													(重大事故等クラス2機器)			
C7.30 C7.70			蓄圧タンク水張りライン	VT-2														(重大事故等クラス2機器)		
C7.30 C7.70			蓄圧タンク窒素充てんライン	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.30 C7.70			燃料取替用水タンク 出口ライン	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.30 C7.70			余熱除去ポンプ3A入ロライン	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.30 C7.70			余熱除去ポンプ3B入ロライン	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70	余熱除去系統		余熱除去ポンプ3A出口ライン	VT-2														(重大事故等クラス2機器)		
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70			余熱除去ポンプ3B出口ライン	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.30 C7.70			格納容器スプレイポンプ 3A、3B入ロライン	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.30 C7.70			格納容器スプレイポンプ 3A出口ライン (1)	VT-2															(重大事故等クラス2機器)	
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70			格納容器スプレイ系統		格納容器スプレイポンプ 3A出口ライン (2)	VT-2														(重大事故等クラス2機器)
C7.30 C7.70					格納容器スプレイポンプ 3A出口ライン (2)	VT-2														

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用し、運転再開時に検査を実施した。

6. クラス2機器漏えい検査 (3/5)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)						備考											
項目番号	カテゴリ	システム名	検査対象箇所	検査方法	検査力	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期							
						-	13回特4※1	-	-	14回	-	15回	-	16回	-	17回			
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70		格納容器スプレーシステム	格納容器スプレーポンプ3B出口ライン(1)	VT-2	運転圧力以上又は機能試験時の圧力以上												(重大事故等クラス2機器)		
C7.30 C7.70			格納容器スプレーポンプ3B出口ライン(2)	VT-2															(重大事故等クラス2機器)
C7.10 C7.30 C7.70		格納容器スプレーシステム	よう素除去薬品タンク及び出入口ライン	VT-2															
C7.30 C7.70			よう素除去薬品タンク出口Aライン	VT-2															
C7.30 C7.70			よう素除去薬品タンク出口Bライン	VT-2															
C7.10 C7.30 C7.70			pH調整剤貯蔵タンク及び出入口ライン	VT-2															
C7.30 C7.70		試料採取システム	加圧器気相部、液相部及び一次冷却材Aループ高温側サンプリングライン	VT-2															
C7.30 C7.70			一次冷却材Bループ高温側サンプリングライン	VT-2															
C7.30 C7.70			蓄圧タンク3A, 3B, 3Cサンプリングライン	VT-2															
C7.30 C7.70		主蒸気システム	蒸気発生器3A蒸気出口ライン	VT-2															(重大事故等クラス2機器)
C7.30 C7.70			蒸気発生器3B蒸気出口ライン	VT-2														(重大事故等クラス2機器)	
C7.30 C7.70			蒸気発生器3C蒸気出口ライン	VT-2														(重大事故等クラス2機器)	
C7.10 C7.30 C7.70		主給水システム	蒸気発生器3A給水入口ライン	VT-2														(重大事故等クラス2機器)	
C7.10 C7.30 C7.70			蒸気発生器3B給水入口ライン	VT-2														(重大事故等クラス2機器)	
C7.10 C7.30 C7.70			蒸気発生器3C給水入口ライン	VT-2														(重大事故等クラス2機器)	

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用し、運転再開時に検査を実施した。

6. クラス2機器漏えい検査 (4/5)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)						備考						
項目番号	カテゴリ	系統名	検査対象箇所	検査方法	検査圧力	第1検査時期			第2検査時期		第3検査時期			
						-	13回特4※1	-	14回	-	15回	16回	17回	
C7.30 C7.70		蒸気発生器 プロードダウンライン	蒸気発生器3A プロードダウンライン	VT-2	運転圧力以上又は機能試験時の圧力以上									
C7.30 C7.70			蒸気発生器3B プロードダウンライン	VT-2										
C7.30 C7.70			蒸気発生器3C プロードダウンライン	VT-2										
C7.30 C7.70		蒸気発生器 プロードダウンシステム	蒸気発生器3A プロードダウンサンプリングライン	VT-2										
C7.30 C7.70			蒸気発生器3B プロードダウンサンプリングライン	VT-2										
C7.30 C7.70			蒸気発生器3C プロードダウンサンプリングライン	VT-2										
C7.30 C7.70	C-H		格納容器再循環ユニット 3A, 3B冷却水供給ライン	VT-2										
C7.30 C7.70			格納容器再循環ユニット 3C, 3D冷却水供給ライン	VT-2										
C7.30 C7.70			格納容器再循環ユニット3A 冷却水戻りライン	VT-2										(重大事故等クラス2機器)
C7.30 C7.70	原子炉補機 冷却水系統		格納容器再循環ユニット3B 冷却水戻りライン	VT-2										
C7.30 C7.70			格納容器再循環ユニット3C 冷却水戻りライン	VT-2										(重大事故等クラス2機器)
C7.30 C7.70			格納容器再循環ユニット3D 冷却水戻りライン	VT-2										(重大事故等クラス2機器)
C7.30 C7.70			制御棒カマ駆動装置冷却水 及び余剰抽出冷却器冷却水 供給、戻りライン	VT-2										
C7.30 C7.70			一次冷却材ポンプ 冷却水供給、戻りライン	VT-2										

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

6. クラス2機器漏えい検査 (5/5)

適用規格：維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)							備考						
項目番号	カテゴリ	システム名	検査対象箇所	検査方法	検査圧力	第1検査時期		第2検査時期		第3検査時期					
						-	13回特4※1	-		14回	-	15回	-	16回	-
C7.30 C7.70		空調用冷水設備系統	制御稼働指示装置凝縮冷却モータ冷却水供給、戻りライン	VT-2	運転圧力以上又は機能試験時の圧力以上										
C7.30 C7.70		液体廃棄物処理系統	格納容器冷却材ドレンポンプ出口ライン	VT-2											
C7.30 C7.70			格納容器サンプポンプ出口ライン	VT-2											
C7.30 C7.70		燃料取替用水系統	原子炉キャビティ浄化入口ライン	VT-2											
C7.30 C7.70			原子炉キャビティ浄化出口ライン	VT-2											
C7.30 C7.70		原子炉補給水系統	原子炉補給水ライン	VT-2											
C7.30 C7.70		水消火設備系統	消火用水ライン	VT-2											
C7.30 C7.70		制御用空気系統	制御用空気3A供給ライン	VT-2											(重大事故等クラス2機器)
C7.30 C7.70			制御用空気3B供給ライン	VT-2											(重大事故等クラス2機器)
C7.30 C7.70		所内用空気系統	所内用空気ライン	VT-2											
C7.70		換気空調設備系統	安全補機室排気ファン 3A・3B出入口弁	VT-2											
C7.70			安全補機室排気ファン ユニットドレン弁	VT-2											

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

クラス3機器供用期間中検査10年計画

1. 容器

伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考									
機器名	項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期				第2検査時期		第3検査時期				
									-	13回特4※1	-	-	14回	-	15回	16回	17回		
余熱除去冷却器 (胴側)	D1.10	D-A	胴と当板脚の 溶接継手	VT-1	1つの 容器の 7.5%	2箇所/基 ×2基	VT-1	1つの 容器の (1箇所)	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1.44	F-A	支持脚	VT-3	1つの 容器の 7.5%	2箇所/基 ×2基	VT-3	1つの 容器の (1箇所)	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
原子炉補機 冷却水冷却器 (胴側)	D1.10	D-A	胴と当板の 溶接継手	VT-1	1つの 容器の 7.5%	3箇所/基 ×4基	VT-1	1つの 容器の (1箇所)	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1.44	F-A	支持脚	VT-3	1つの 容器の 7.5%	3箇所/基 ×4基	VT-3	1つの 容器の (1箇所)	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
格納容器及び 冷却器 (胴側)	D1.10	D-A	胴と当板脚の 溶接継手	VT-1	1つの 容器の 7.5%	2箇所/基 ×2基	VT-1	1つの 容器の (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1.44	F-A	支持脚	VT-3	1つの 容器の 7.5%	2箇所/基 ×2基	VT-3	1つの 容器の (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
海水ストレートナ	D1.10	D-A	鏡板とスカー トとの溶接継手	VT-1	1つの 容器の 7.5%	1箇所/基 ×4基	VT-1	1つの 容器の (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1.44	F-A	支持構造物 (スカー ト)	VT-3	1つの 容器の 7.5%	1箇所/基 ×4基	VT-3	1つの 容器の (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
潜水冷却器 (ター ボ 発 電 機)	D1.10	D-A	胴と当板との 溶接継手	VT-1	1つの 容器の 7.5%	2箇所/基 ×2基	VT-1	1つの 容器の (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所
	F1.44	F-A	取付脚	VT-3	1つの 容器の 7.5%	2箇所/基 ×2基	VT-3	1つの 容器の (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所
潤滑油冷却器 (ター ボ 発 電 機)	D1.10	D-A	胴と当板との 溶接継手	VT-1	1つの 容器の 7.5%	2箇所/基 ×2基	VT-1	1つの 容器の (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所
	F1.44	F-A	取付脚	VT-3	1つの 容器の 7.5%	2箇所/基 ×2基	VT-3	1つの 容器の (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

2. 配管 (1/2)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)																
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期			備考	
								-	13回 特4※1	-	-	14回	-	15回	-	16回		17回
D1.20	D-A	原子炉補機冷却水ポンプ A, B入口ライン	VT-1	7.5%	15箇所	VT-1	7.5% (2箇所)	-	-	-	-	15回	-	16回	17回	1箇所		
		原子炉補機冷却水ポンプ C, D入口ライン	VT-1	7.5%	9箇所	VT-1	7.5% (1箇所)					1箇所		1箇所				
		原子炉補機冷却水ポンプ A, B出口ライン	VT-1	7.5%	15箇所	VT-1	7.5% (2箇所)					1箇所						
		原子炉補機冷却水ポンプ C, D出口ライン	VT-1	7.5%	13箇所	VT-1	7.5% (1箇所)				1箇所							
		海水ポンプA, B出口ライン	VT-1	7.5%	28箇所	VT-1	7.5% (3箇所)						1箇所		1箇所			
		海水ポンプC, D出口ライン	VT-1	7.5%	31箇所	VT-1	7.5% (3箇所)										1箇所	
		ディーゼル発電機A 冷却水ライン (海水)	VT-1	7.5%	7箇所	VT-1	7.5% (1箇所)											1箇所
		ディーゼル発電機B 冷却水ライン (海水)	VT-1	7.5%	7箇所	VT-1	7.5% (1箇所)											1箇所
				配管の支持部材取付け溶接継手														

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

2. 配管 (2/2)

適用規格：維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)																			
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期			備考				
								-	13回 特4※1	-	-	14回	-	15回	-	16回		17回			
F1.31	F-A	原子炉補機冷却水ポンプ A, B入口ライン	VT-3	7.5% (8箇所)	RH 96	VT-3	7.5% (8箇所)	-	2箇所	-	-	-	2箇所	-	2箇所	-	1箇所				
					AN 5																
					101 箇所																
		原子炉補機冷却水ポンプ C, D入口ライン	VT-3	7.5% (6箇所)	RH 73	VT-3	7.5% (6箇所)	-	1箇所	-	-	-	-	1箇所	-	1箇所	-	1箇所			
					AN 3																
					76 箇所																
		原子炉補機冷却水ポンプ A, B出口ライン	VT-3	7.5% (8箇所)	RH 101	VT-3	7.5% (8箇所)	-	2箇所	-	-	-	-	2箇所	-	2箇所	-	1箇所	2箇所		
					AN 5																
					106 箇所																
		原子炉補機冷却水ポンプ C, D出口ライン	VT-3	7.5% (7箇所)	RH 76	VT-3	7.5% (7箇所)	-	-	-	-	-	-	2箇所	-	-	-	-	1箇所	2箇所	
AN 6																					
82 箇所																					
海水ポンプA, B出口ライン	VT-3	7.5% (10箇所)	RH 107	VT-3	7.5% (10箇所)	-	3箇所	-	-	-	-	2箇所	-	2箇所	-	-	-	1箇所	2箇所		
			AN 21																		
			128 箇所																		
海水ポンプC, D出口ライン	VT-3	7.5% (9箇所)	RH 90	VT-3	7.5% (9箇所)	-	2箇所	-	-	-	-	-	-	1箇所	-	-	-	2箇所	1箇所	2箇所	
			AN 19																		
			109 箇所																		
ディーゼル発電機A 冷却水ライン (海水)	VT-3	7.5% (3箇所)	RH 25	VT-3	7.5% (3箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	-	-	-	1箇所	-	1箇所	
			AN 7																		
			32 箇所																		
ディーゼル発電機B 冷却水ライン (海水)	VT-3	7.5% (3箇所)	RH 25	VT-3	7.5% (3箇所)	-	1箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	-	1箇所	
			AN 7																		
			32 箇所																		

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

3. クラス3機器漏えい検査

適用規格：維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)						備考						
項目番号	カテゴリ	システム名	検査対象箇所	検査方法	検査圧力	第1検査時期			第2検査時期		第3検査時期			
						-	13回特4※1	-	-	14回	-	15回	16回	17回
D2.30		原子炉補機冷却水系統	原子炉補機冷却水ポンプA, B出入口ライン	VT-2	運転圧力以上又は機能試験時の圧力以上							(重大事故等クラス2機器)		
D2.30			原子炉補機冷却水ポンプC, D出入口ライン	VT-2									(重大事故等クラス2機器)	
D2.10 D2.30			原子炉補機冷却水サージタンク及び出入口ライン	VT-2										(重大事故等クラス2機器)
D2.10 D2.30			原子炉補機冷却水ポンプA, B出入口ライン	VT-2										(重大事故等クラス2機器)
D2.10 D2.30		原子炉補機冷却水ポンプC, D出入口ライン	VT-2										(重大事故等クラス2機器)	
D2.10 D2.30	原子炉補機冷却海水系統	海水ポンプA, B出入口ライン	VT-2										(重大事故等クラス2機器)	
D2.10 D2.30		海水ポンプC, D出入口ライン	VT-2										(重大事故等クラス2機器)	
D2.30	D-B	使用済燃料ピット水浄化冷却系統	使用済燃料ピットポンプ入口ライン	VT-2										
D2.10 D2.30			使用済燃料ピットポンプA出口ライン	VT-2										
D2.10 D2.30			使用済燃料ピットポンプB出口ライン	VT-2										
D2.10 D2.30			使用済燃料ピット冷却器C出入口ライン	VT-2										
D2.10 D2.30	制御用空気圧縮機系統	制御用空気圧縮機A出口ライン	VT-2										(重大事故等クラス2機器)	
D2.10 D2.30		制御用空気圧縮機B出口ライン	VT-2									(重大事故等クラス2機器)		
D2.10 D2.30	ディーゼル発電機始動空気系統	ディーゼル発電機3A始動空気ライン	VT-2									(重大事故等クラス2機器)		
D2.10 D2.30		ディーゼル発電機3B始動空気ライン	VT-2									(重大事故等クラス2機器)		

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

クラス I 機器 Ni 基金使用部位特別検査 1.0 年計画

1. 原子炉容器

適用文書： NRA 文書 (※1)		伊方発電所第 3 号機検査計画 (1.0 年)															備考	
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第 1 検査時期			第 2 検査時期			第 3 検査時期				
								8 回	9 回	10 回	11 回	12 回	13 回 ※2	14 回 ※2	15 回 ※3			
-		冷却材入口管台とセーフエンドとの溶接継手	BMV	100%	3箇所	BMV	100%	A	B	C	-	-	-	-	-	-	-	第 14 回定検において、第 14 回定検において検査限界のきつさを想定し、検査において応力応答割れ防止の有効性が保証された対策 (ECT-TP) を実施したため、第 15 回定検以降、検査対象外とする。(重大事故等クラス 2 機器)
-		冷却材出口管台とセーフエンドとの溶接継手	BMV	100%	3箇所	BMV	100%	A	C	-	-	-	-	-	-	-	-	第 14 回定検において、第 14 回定検において検査限界のきつさを想定し、検査において応力応答割れ防止の有効性が保証された対策 (ECT-TP) を実施したため、第 15 回定検以降、検査対象外とする。(重大事故等クラス 2 機器)
-		原子炉容器の上蓋表面 (原子炉容器の上蓋管台廻り 360°を含む)	BMV	100%/定検	1式	BMV	100%/定検	<100%	<100%	<100%	<100%	<100%	<100%	<100%	<100%	<100%	<100%	第 14 回定検 原子炉容器上蓋取替工事において、690系 Ni 基金合金化されたため、検査対象外とする。(重大事故等クラス 2 機器)
-		原子炉容器の底部表面 (原子炉容器の底部管台廻り 360°を含む)	BMV	100%/5年	1式	BMV	100%/5年	-	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	3-7 定検 LSI にて BMV 実施のため至近 1 定検以内での BMV 検査免除 (重大事故等クラス 2 機器)

※1 NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破損を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(原規技発第 1408063 号(平成 26 年 8 月 6 日 原子力規制委員会決定)最終改正: 原規技発第 1906051 号(令和元年 6 月 5 日 原子力規制委員会決定))に従う。

なお、13 回以前は、NISA 文書「発電用原子炉設備における破損を引き起こすき裂その他の欠陥の解釈について(内規)」(平成 21 年 12 月 25 日付け平成 21-11-18 原院第 1 号)に従う。

※2 維持規格 IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※3 維持規格 IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

< >は旧設備の検査実績を示す。

2. 加圧器

伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考					
項目番号	カテゴリ	通用文書： NRA文書(※1)				検査時期											
		検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期	第2検査時期				第3検査時期				
								8回	9回	10回	11回	12回	13回 ※2	14回 ※2	15回 ※3		
		BF UX 径 1 フ エ ン ト A の 以 上 の 管 線 継 手 と セ ー	サージライン用管台	BMV	100%/5年	1箇所	BMV	100%/5年									
			スプレイレイン用管台	BMV	100%/5年	1箇所	BMV	100%/5年									
			逃がし弁用管台	BMV	100%/5年	1箇所	BMV	100%/5年									
			安全弁用管台	BMV	100%/5年	3箇所	BMV	100%/5年									

2-9仕様 加圧器管台周り修繕工事において
300系鋼管合金化をもちいたため、検査対象外
(重大事故等アセスメント機器)

※1 <>は旧設備の検査実績を示す。
NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(原規技発第1408063号(平成26年8月6日 原子力規制委員会決定)最終改正：原規技発第1906051号(令和元年6月5日 原子力規制委員会決定))に従う。

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

3. 蒸気発生器

適用文書： NRA文書(※1)		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考					
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期				
								8回	9回	10回	11回		12回	13回 ※2	14回	15回 ※3	
-	-	呼び径175mm以上の蒸気発生器と冷却材出入口管台とセーフエントとの溶接継手	BMV	100%	2箇所/基 ×3基	BMV	-	-	8回	9回 A入口 A出口	10回	11回	12回	13回 ※2	14回	15回 ※3	900系AL基合金使用部位であるが、第1回定期検査において検出限界のき裂を特定したうえで応力腐食割れ防止の有効性が裏証された対策(ECT+USP)を施したため、第2回定期検査以降、検査対象外とする。 (重大事故等クラス2機器)

※1 NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(原規技発第1408063号(平成26年9月6日 原子力規制委員会決定) 最終改正：原規技発第1906051号(令和元年6月5日 原子力規制委員会決定))に従う。

なお、13回以前は、NISA文書「発電用原子力設備における破壊を引き起こすき裂その他の欠陥の解釈について(内規)」(平成21年12月25日付け平成21・11・18原院第1号)に従う。

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プログラム停止に伴う検査間隔延長を適用

※3 維持規格IA-2310(2)の規定により、検査間隔延長を適用

クラス2管 (原子炉格納容器内) 特別検査10年計画

1. 配管

項目番号	カテゴリ	適用文書： NRA文書 (※1)				伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)							備考				
		検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期	第2検査時期	第3検査時期	第4検査時期						
-		充てんライン溶接継手	体積	25%	31箇所	UT	25% (8箇所)	12回	13回 ※2	14回 ※2	-	15回	16回	17回	18回	(重大事故等クラス2機器)	
								<3箇所>	1箇所 <1箇所>	<1箇所>	2箇所	1箇所	2箇所	2箇所	2箇所		
								<1箇所>	3箇所	1箇所	3箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所		
		抽出ライン溶接継手	体積	25%	24箇所	UT	25% (6箇所)	<1箇所>									(充てんライン運轉管のみ 重大事故等クラス2機器)
		再生熱交換器連絡管溶接継手	体積	25%	36箇所	UT	25% (9箇所)		3箇所								

※1 NRA文書「美用発電用原子炉及びその附属施設における破断を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(原規技発第1408063号(平成26年8月6日 原子力規制委員会決定)最終改正：原規技発第1906051号(令和元年6月5日 原子力規制委員会決定))に従う。

なお、13回以前は、NISA文書「発電用原子力設備における破断における欠陥の解釈について(内規)」(平成21年12月25日付け平成21・11・18原院第1号)に従う。

※2 維持規格IA-2310(4)の長期プラント停止に伴う検査間隔延長を適用

原子炉格納容器供用期間中検査10年計画

原子炉格納容器

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)							備考					
項目番号	カテゴリー	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期	第3検査時期			
E8.10	E-G	圧力保持用ボルト締め付け部	VT-4	25%	1箇所 (72組)	VT-4	25% (18組)	-	-	-	15回	16回	17回	25% (18組)
								13回 特4※1	14回	-	-	-		

(注) 項目番号 E1.12 E-A/E3.11, E3.12, E3.13 E-Bについては該当なし。

項目番号 E9.10, E9.20, E9.30, E9.40 E-P/F1.42 F-Aについては、全体漏えい率試験又は局部漏えい率試験にて別途実施。

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画（クラス1機器供用期間中検査範囲）

1. 原子炉容器 (1/2)

適用規格： 維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	
B2.111	B-B	上部胴と下部胴との周溶接継手 下部胴とトランジションリングとの周溶接継手	体積	5%
B3.105	B-C	トランジションリングと下部鏡板との周溶接継手 上部胴と上部胴フランジとの溶接継手	体積	5%
B3.10	B-D	冷却材入口管台と胴との溶接継手 冷却材出口管台と胴との溶接継手	体積	100%
B3.20	B-D	冷却材入口管台内面の丸みの部分 冷却材出口管台内面の丸みの部分	体積	100%
B5.10	B-F	冷却材入口管台とセーフエントとの溶接継手 冷却材出口管台とセーフエントとの溶接継手	体積及び表面	100%

クラス1 機器供用期間中検査で管理

1. 原子炉容器 (2/2)

適用規格：維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
B6.10	B-G-1	上蓋用ナット	VT-1	100%
B6.30	B-G-1	スタッドボルト	体積	100%
B6.40	B-G-1	胴フランジネジ穴のネジ部	体積	100%
B6.50	B-G-1	上蓋用ワッシャ	VT-1	100%
B7.10	B-G-2	T/Cハウジングの下部クランプ用ボルト、ナット	VT-1	25%
B14.10	B-0	制御棒駆動ハウジング上部の溶接継手	体積又は表面	最外周の25%
		制御棒駆動ハウジング下部の溶接継手	体積又は表面	最外周の25%
FL.41	F-A	支持構造物	VT-3	25%
GL.10	G-P-1	原子炉容器の内部	VT-3	7.5%
GL.40		原子炉容器の内部取付け物	VT-3	7.5%
GL.40	G-P-1 G-P-2	上部炉心支持構造物	VT-3	7.5%
GL.50		下部炉心支持構造物	VT-3	7.5%

クラス1 機器供用期間中検査で管理

2. 加圧器 (1/2)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
B2.11	B-B	上部鏡板と上部胴との周溶接継手	体積	5%
		下部胴と下部鏡板との周溶接継手	体積	5%
B2.12		上部胴の長手溶接継手	体積	10%
		下部胴の長手溶接継手	体積	10%
B2.13		上部胴と下部胴との周溶接継手	体積	5%
B3.30	B-D	サージライン用管台	体積	管台数の25%
		管台と溶接継手とのスプレイライン用管台		
		逃がし弁用管台		
		安全弁用管台		
B3.40		サージライン用管台	体積	管台数の25%
		管台の内面部分の丸み		
		スプレイライン用管台		
		逃がし弁用管台		
		安全弁用管台		

クラス1 機器供用期間中検査で管理

2. 加圧器 (2/2)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
B5.40	B-F	管台とセーの溶接継手と	体積及び表面	管台数の25%
		サージライン用管台		
		スプレイライン用管台		
		逃がし弁用管台		
B7.20	B-G-2	マンホールの取付けボルト	VT-1	25%
B8.20	B-H	支持スカート溶接継手	表面	7.5%
F1.41	F-A	支持構造物	VT-3	25%

クラス1機器供用期間中検査で管理

3. 蒸気発生器

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	
B2.40	管板と水室鏡板との周溶接継手	体積	代表1基の25%	
B3.60	冷却材出入口管台内面の丸みの部分	体積	代表1基の25%	
B5.70	冷却材入口管台とセーフエントとの溶接継手	体積及び表面	代表1基の25%	クラス1機器供用期間中検査で管理
		ECT (内表面)		
		体積及び表面		
B7.30	冷却材出入口側マンホールの取付けボルト	ECT (内表面)	代表1基の25%	
		VT-1	代表1基の7.5%	
B8.30	支持部材の容器への取付け溶接継手	表面	代表1基の25%	
FL.41	支持構造物	VT-3	代表1基の25%	

4. 配管 (1/5)

適用規格： 維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)		備考	
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	
B9.11	B-J	一次冷却材管	体積	25%	クラス1機器供用期間中検査で管理
		加圧器サージライン	体積	25%	
		加圧器安全弁ライン	体積	25%	
		加圧器逃がしライン	体積	25%	
		余熱除去ポンプ入ロライン	体積	25%	
		蓄圧注入ライン	体積	25%	
		高温側低圧注入ライン	体積	25%	
		低温側低圧注入ライン	体積	25%	
		高温側高圧注入ライン	体積	25%	
		配管の周添接継手(呼び径100A以上)			

4. 配管 (2/5)

適用規格: 維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
B9.21	B-J	配管の周溶 100%検査 A継手 未達	表面	25%
		一次冷却材管	表面	25%
		加圧器逃がしライン	表面	25%
B9.21	B-J	充てんライン	表面	25%
		高温側高圧注入ライン	表面	25%
B9.21	B-J	低温側高圧注入ライン	表面	25%
		母管と管台との溶接継手 (呼び径 100A以上)	体積	25%
B9.31	B-J	一次冷却材管	表面	25%
		母管と管台との溶接継手 (呼び径 100A未満)	体積	25%
B9.32	B-J	一次冷却材管	表面	25%
		高温側低圧注入ライン	表面	25%

クラス1機器供用期間中検査で管理

4. 配管 (3/5)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
B9.40	B-J	ソケット	表面	25%
		溶接継手		
F1.10	F-A	加圧器サージライン	VT-3	25%
		加圧器逃がしライン	VT-3	25%
		支持構造物		
クラス1機器供用期間中検査で管理				

4. 配管 (4/5)

適用規格：維持規格 JSME S N A I - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
FL.10	F-A	充てんライン	VT-3	25%
		余熱除去ポンプ入口ライン	VT-3	25%
		蓄圧注入ライン	VT-3	25%
支 持 構 造 物				
クラス1機器供用期間中検査で管理				

4. 配管 (5/5)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考	
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	
FL.10	F-A	高温側低圧注入ライン	VT-3	25%	
		支 持 構 造 物			
		低温側低圧注入ライン	VT-3	25%	
		高温側高圧注入ライン	VT-3	25%	
		低温側高圧注入ライン	VT-3	25%	

クラス1機器供用期間中検査で管理

5. 一次冷却材ポンプ

適用規格：維持規格 JSME S N A I - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
B6. 180		主フランジボルト	体積	代表1台の25%
B6. 190	B-G-1	主フランジ表面 (開放時)	VT-1	代表1台の25%
B6. 200		主フランジナット及びワッシャ	VT-1	代表1台の25%
B12. 20	B-L-2	ケーシングの内表面	VT-3	代表1台の100%
F1. 41	F-A	支持構造物	VT-3	代表1台の25%

クラス1機器供用期間中検査で管理

6. 弁 (1 / 3)

適用規格: 維持規格 JSME S N A I - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
B7.70	B-G-2	加圧器安全弁ライン (3V-RC-055, 056, 057)	VT-1	代表1台の25%
		加圧器逃がしライン(1) (3V-RC-054A, 054B)	VT-1	代表1台の25%
		加圧器逃がしライン(2) (3PCV-452A, 452B)	VT-1	代表1台の25%
		充てんライン (3V-CS-161, 162, 164, 165)	VT-1	代表1台の25%
		余熱除去ポンプ投入ライン (3PCV-420, 430)	VT-1	代表1台の25%
		蓄圧注入ライン (3V-SI-134A, 134B, 134C, 136A, 136B, 136C)	VT-1	代表1台の25%
		高温側低圧注入ライン (3V-RH-053A, 053B, 3V-SI-082A, 082B)	VT-1	代表1台の25%
		低温側低圧注入ライン (3V-RH-044A, 044B, 044C, 047A, 047B, 047C)	VT-1	代表1台の25%
		高温側高圧注入ライン (3V-SI-082C)	VT-1	代表1台の25%
		圧力保持用ボルトナット		
クラス1機器供用期間中検査で管理				

6. 弁 (2/3)

適用規格: 維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
B12.50	B-M-2	弁	VT-3	同一グループで1台
		本体	VT-3	同一グループで1台
		内	VT-3	同一グループで1台
		表	VT-3	同一グループで1台
		面	VT-3	同一グループで1台
			VT-3	同一グループで1台

クラス1機器供用期間中検査で管理

適用規格：維持規格 JSME S NA.1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
F1.41	F-A	加圧器安全弁ライン (3V-RC-055, 056, 057)	VT-3	代表1台 の25%
		加圧器逃がしライン (1) (3V-RC-054A, 054B)	VT-3	代表1台 の25%
		加圧器逃がしライン (2) (3PCV-452A, 452B)	VT-3	代表1台 の25%
		支 持 構 造 物		
クラス1 機器供用期間中検査で管理				

7. クラス1機器漏えい検査

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008				伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲		
B15.10	B-P	原子炉容器 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%		
B15.20	B-P	加圧器 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%		
B15.30	B-P	蒸気発生器 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%		
B15.50	B-P	配管 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%		
B15.60	B-P	一次冷却材ポンプ 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%		
B15.70	B-P	弁 圧力保持範囲	VT-2	漏えい 試験時 100%		

クラス1機器供用期間中検査で管理

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画
(クラス1機器供用期間中検査(原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲の見直しに伴う検査) 範囲)

1. 配管

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
B9.11	B-J	配管の周溶接継手(呼び径100A以上) 余熱除去ポンプ入ロライン	体積	25%
B9.21	B-J	配管の周溶接継手(呼び径100A未満)	表面	25%
B9.32	B-J	母管と管台との溶接継手(呼び径100A未満)	表面	25%
B10.20	B-K	配管の支持部材取付け溶接継手	表面	7.5%
F1.10	F-A	支持構造物	VT-3	25%

クラス1機器供用期間中検査で管理

2. 弁

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
B7.70	B-G-2	圧力保持用ボルト・ナット 余熱除去ポンプ入ロライン (3V-RH-002A, 002B)	VT-1	代表1台の25%
B12.50	B-M-2	弁本体内部表面 余熱除去ポンプ入ロライン (3V-RH-002A, 002B)	VT-3	同一グループで1台
F1.41	F-A	支持構造物 余熱除去ポンプ入ロライン (3V-RH-002A, 002B)	VT-3	代表1台の25%

クラス1機器供用期間中検査で管理

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画（クラス1機器Ni基金使用部位特別検査範囲）

1. 原子炉容器

適用文書： NRA文書		伊方発電所第3号機検査計画（10カ年）		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
-	-	呼称 セピ 1程 フリ 0 エ 0 ンド FA の以 上 接 の 継 手 と 冷却材入口管台とセーフエ ントとの溶接継手	BMV	100%
-	-	冷却材出口管台とセーフエ ントとの溶接継手	BMV	100%
-	-	原子炉容器の上蓋表面 （原子炉容器の上蓋管台廻り 360°を含む）	BMV	100%/定検
-	-	原子炉容器の底部表面 （原子炉容器の底部管台廻り 360°を含む）	BMV	100%/5年

クラス1機器Ni基金使用部位特別検査で管理

2. 加圧器

項目番号		適用文書： NRA文書			伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
カゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲				
1	呼び名 100A以上の ケーブル 接続 手	サージライン用管台	BMV	100%/5年	クラス1機器Ni基金使用部位特別検査で管理		
	スプレイライン用管台	BMV	100%/5年				
	逃がし弁用管台	BMV	100%/5年				
	安全弁用管台	BMV	100%/5年				

3. 蒸気発生器

項目番号		適用文書： NRA文書			伊方発電所第3号機検査計画（10ヵ年）		備考
カゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲				
—	呼 せ び 1 フ 1 0 0 エ ン ド の 以 上 接 継 手 と	冷却材出入口管台とセーフ エントとの溶接継手	BMV	—	クラス1機器Ni基金使用部位特別検査で管理		

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画（クラス2管（原子炉格納容器内）特別検査範囲）

1. 配管

適用文書： NRA文書		伊方発電所第3号機検査計画（10カ年）		備考
項目番号	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	
-	充てんライン溶接継手	体積	25%	クラス2管（原子炉格納容器内）特別検査で管理
	再生熱交換器連絡管溶接継手	体積	25%	

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

1. 原子炉補機冷却水ポンプ

伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)																					
項目番号	適用規格	維持規格	J S M E S	N A I - 2 0 0 8	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期			備考	
											13回	特4※1	-	-	14回	-	-	15回	16回		17回
F1.43	F-A	支持構造物	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%	VT-3	代表1台の7.5% (1箇所)	1箇所/台 × 4台	VT-3	代表1台の7.5% (1箇所)				A 1箇所							

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

2. 格納容器スプレイポンプ

伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)																					
項目番号	適用規格	維持規格	J S M E S	N A I - 2 0 0 8	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期			備考	
											13回	特4※1	-	-	14回	-	-	15回	16回		17回
F1.43	F-A	支持構造物	ポンプ支持脚	VT-3	代表1台の7.5%	VT-3	代表1台の7.5% (1箇所)	1箇所/台 × 2台	VT-3	代表1台の7.5% (1箇所)				A 1箇所							

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

3. 充てんポンプ

伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)																					
項目番号	適用規格	維持規格	J S M E S	N A I - 2 0 0 8	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期			備考	
											13回	特4※1	-	-	14回	-	-	15回	16回		17回
C3.30	C-C	支持部材取付け溶接継手	表面	7.5%																	
C4.30	C-D	ケーシングボルト	体積	代表1台の7.5%																	
C6.10	C-G	ポンプケーシング部の溶接継手	表面	代表1台の7.5%																	
F1.43	F-A	支持構造物	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%																

クラス2機器供用期間中検査で管理

4. 余熱除去ポンプ

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008			伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)			備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲		
C6.10	C-G	ポンプケーシング部の溶接継手	表面	代表1台の7.5%		
F1.43	F-A	支持構造物 ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%		

クラス2機器供用期間中検査で管理

5. 格納容器スプレイ冷却器

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008			伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)									備考				
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期		
								13回	14回	15回	16回	17回	13回	14回	15回	16回
C1.10	C-A	胴とフランジとの周溶接継手	体積	1つの容器の7.5%	1つ-A/基 ×2基	UT	1つの容器の7.5%	-	-	-	14回	-	15回	-	16回	17回
C1.20		胴と鏡板との周溶接継手	体積	1つの容器の7.5%	1つ-A/基 ×2基	UT	1つの容器の7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

6. 原子炉補機冷却水冷却器

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008			伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)									備考				
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期		
								13回	14回	15回	16回	17回	13回	14回	15回	16回
C1.10	C-A	胴とフランジとの周溶接継手	体積	1つの容器の7.5%	2つ-A/基 ×4基	UT	1つの容器の7.5%	-	-	-	14回	-	15回	-	16回	17回
C3.10		胴の周溶接継手	体積	1つの容器の7.5%	2つ-A/基 ×4基	UT	1つの容器の7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-
F1.43	F-A	支持構造物 支持脚	VT-3	1つの容器の7.5%	3箇所/基 ×4基	PT	1つの容器の7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	1箇所	-	-	-

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

7. 余熱除去冷却器

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
C1.10	C-A	胴とフランジとの周溶接継手	体積	1つの容器の7.5%
C1.20		胴と鏡板との周溶接継手	体積	1つの容器の7.5%
C2.21	C-B	管側出入口管台と管側胴との溶接継手	体積及び表面	管台数の7.5%

クラス2機器供用期間中検査で管理

8. 配管 (1/6)

適用規格: 維持規格 JSME S N A I - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)							備考												
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	検査数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期							
								13回	-	-	14回	-	-	15回	-	-	16回	-	17回		
C3.20	C-C	配管の 支 持 部 材	余熱除去ポンプ 入ロライン	表面	7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			余熱除去冷却器 出ロライン	表面	7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			高温側低圧注入ライン	表面	7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			低温側低圧注入ライン	表面	7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			高温側高圧注入ライン	表面	7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			低温側高圧注入ライン	表面	7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			高圧注入ポンプ 出ロライン	表面	7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			格納容器再循環サンプ 出ロライン	表面	7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			スプレイング注入 ライン	表面	7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
								2箇所	PT	7.5% (1箇所)				1箇所							

クラス2機器供用期間中検査で管理

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

8. 配管 (2/6)

適用規格: 維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)							備考										
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期					
								-	13回	-	14回	-	15回	-	16回	17回			
C5.11	C-F	余熱除去ポンプ入口ライン (1)	体積及び表面	7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理														
		余熱除去ポンプ入口ライン (2)	表面	7.5%															
		余熱除去冷却器出口ライン	体積及び表面	7.5%															
		高温側低圧注入ライン	体積及び表面	7.5%															
		低温側低圧注入ライン	体積及び表面	7.5%															
		高圧注入ポンプ出口ライン	体積及び表面	7.5%															
		燃料取替用水タンク出口ライン	表面	7.5%															
		格納容器再循環サンプ出口ライン	体積及び表面	7.5%															
主蒸気逃がしライン	体積及び表面	7.5%	6箇所	UT	PT	7.5% (1箇所)	1箇所												
C5.12	C-F	余熱除去ポンプ入口ライン	表面	7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理														
		燃料取替用水タンク出口ライン	表面	7.5%															
C5.21	C-F	格納容器再循環サンプ出口ライン	体積及び表面	7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理														
		高温側高圧注入ライン	表面	7.5%															
		低温側高圧注入ライン	表面	7.5%															
C5.30	C-F	高圧注入ポンプ出口ライン	表面	7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理														
		低温側高圧注入ライン	表面	7.5%															

※1. 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

8. 配管 (3/6)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
Fl. 21	F-A	余熱除去ポンプ 入口ライン	VT-3	7.5%
		余熱除去ポンプ 出口ライン	VT-3	7.5%
		余熱除去冷却器 入口ライン	VT-3	7.5%
		余熱除去冷却器 バイパスライン	VT-3	7.5%
		余熱除去冷却器 出口ライン	VT-3	7.5%
支 持 構 造 物				
クラス2機器供用期間中検査で管理				

8. 配管 (4/6)

適用規格：維持規格 JSME S NA11-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲
F1.21	F-A	高温側低圧注入ライン	VT-3	7.5%
		低温側低圧注入ライン	VT-3	7.5%
		高温側高圧注入ライン	VT-3	7.5%
		低温側高圧注入ライン	VT-3	7.5%
		高圧注入ポンプ 出口ライン	VT-3	7.5%
支 持 構 造 物				
クラス2機器供用期間中検査で管理				

8. 配管 (5/6)

適用規格: 維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考									
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期								
								-	13回 特4※1	-	14回	-	15回	16回	17回						
Fl.21	F-A	燃料取替用水タンク 出口ライン	VT-3	7.5%	29 箇所	VT-3	7.5% (3箇所)														
		格納容器再循環サンプ 出口ライン	VT-3	7.5%																	
		格納容器再循環サンプ 出口バイパスライン	VT-3	7.5%																	
		アニュラス空気再循環 ダクト	VT-3	7.5%	42 箇所	VT-3	7.5% (4箇所)														
		格納容器再循環ユニット 出入ロライン (CV内)	VT-3	7.5%																	
		原子炉補機冷却水戻り母管	VT-3	7.5%	6 箇所	VT-3	7.5% (1箇所)														
		原子炉補機冷却水冷却器 入口ライン	VT-3	7.5%																	
		格納容器再循環ユニット 出入ロライン (CV外)	VT-3	7.5%	51 箇所	VT-3	7.5% (4箇所)														

クラス2機器供用期間中検査で管理

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

8. 配管 (6/6)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)																		
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期		備考				
								-	13回 特4※1	-	-	14回	-	15回	-		16回	17回		
Fl.21	F-A	格納容器スプレイポンプ 入口ライン	VT-3	7.5%	HS 1	VT-3	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
					RH 9															
					SH 1															
					RH 10															
					SH 1															
支 持 構 造 物																				
Fl.21	F-A	格納容器スプレイポンプ 出口ライン	VT-3	7.5%	3	VT-3	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所		
					RH 3															
					RH 32															
					3															
					RH 3															
Fl.21	F-A	格納容器スプレイポンプ フルフローライン	VT-3	7.5%	4	VT-3	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1箇所	
					AN 1															
					RH 3															
					4															
					RH 3															
Fl.21	F-A	代替格納容器スプレイ ポンプ出口ライン	VT-3	7.5%	MS 2	VT-3	7.5% (2箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
					RH 17															
					19															
					4															
					RH 4															
Fl.21	F-A	スプレイリング注入ライン	VT-3	7.5%	6	VT-3	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
					RH 6															
					4															
					RH 4															
					RH 6															
Fl.21	F-A	主蒸気逃がしライン	VT-3	7.5%	6	VT-3	7.5% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
					RH 6															
					6															
					RH 6															
					RH 6															

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)																					
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期			備考				
								-	13回 特4※1	-	-	14回	-	15回	-	16回		17回			
FL.43	F-A	余熱除去冷却器 出口ライン(1) (3HCY-603, 613)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		余熱除去冷却器 出口ライン(2) (3V-RH-051A, 051B)	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		余熱除去冷却器 出口ライン(3) (3V-RH-040A, 040B)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		余熱除去冷却器 バイパスライン (3FCV-604, 614)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×4台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		高温側低圧注入 ライン (3V-RH-052A, 052B)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×3台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		高圧注入ポンプ 出口ラインA (3V-SI-066A, 067A)	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/台 ×3台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		高圧注入ポンプ 出口ラインB (3V-SI-066B, 067B)	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/台 ×3台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		高圧注入ポンプ 出口ライン (3V-SI-062A, 062B)	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/台 ×3台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		格納容器再循環サンプ 出口ライン (3V-SI-093A, 093B)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		格納容器再循環サンプ 出口バイパスライン (3V-SI-092)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		格納容器再循環ユニット 出入口ライン (C/V外) (3TCV-2420, 2421)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		格納容器スプレイポンプ 入口ライン (3V-CP-001A, 001B)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×2台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		格納容器スプレイ冷却器 出口ライン (3V-CP-021A, 021B)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×4台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
		アニュラス空気再循環ダクト (3V-VS-101A, 102A, 101B, 102B)	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/台 ×3台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)														
主蒸気逃がしライン (3PCV-465, 475, 485)	VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/台 ×3台	VT-3	代表1台 の7.5% (1箇所)																

クラス2機器供用期間中検査で管理

(注) 項目番号C3.40 C-C/C4.40 C-D/C6.20 C-Gについては該当なし。
※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

1.0. 重大事故等クラス2機器漏えい検査 (1/6)

適用規格：維持規格 J S M E S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)							備考				
項目番号	カテゴリ	系統名	検査対象箇所	検査方法	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期			
					-	13回 特4※1	-	-	14回	15回	16回	17回	
C7.30 C7.70			体積制御タンク及び 出入口ライン	VT-2						○			
C7.30 C7.50 C7.70			充てんポンプ3A出口ライン	VT-2						○			
C7.30 C7.50 C7.70			充てんポンプ3B出口ライン	VT-2								○	
C7.30 C7.50 C7.70			充てんポンプ3C出口ライン	VT-2						○			
C7.10 C7.30 C7.70			充てん及び封水注入ライン	VT-2						○			
C7.30 C7.70	C-H	化学体積制御系統	ほう酸ポンプ3A入口ライン	VT-2							○		
C7.30 C7.70			ほう酸ポンプ3B入口ライン	VT-2							○		
C7.30 C7.50 C7.70			ほう酸ポンプ3A出口ライン	VT-2							○		
C7.30 C7.50 C7.70			ほう酸ポンプ3B出口ライン	VT-2							○		
C7.30 C7.70			充てんポンプ3B自己冷却 供給ライン(1)	VT-2								○	
C7.30 C7.70			充てんポンプ3B自己冷却 戻りライン(1)	VT-2								○	

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

1.0. 重大事故等クラス2機器漏えい検査 (2/6)

適用規格：維持規格 J S M E S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)						備考					
項目番号	カテゴリ	系統名	検査対象箇所	検査方法	第1検査時期		第2検査時期		第3検査時期				
					-	13回 特4※1	-		-	14回	15回	16回	17回
C7.30 C7.70			高圧注入ポンプ3A、3B 入ロライン(1)	VT-2						○			
C7.30 C7.70			高圧注入ポンプ3A、3B 入ロライン(2)	VT-2						○			
C7.30 C7.50 C7.70			高圧注入ポンプ3A 出ロライン(1)	VT-2							○		
C7.30 C7.70			高圧注入ポンプ3A 出ロライン(2)	VT-2							○		
C7.30 C7.50 C7.70		安全注入系統	高圧注入ポンプ3B 出ロライン(1)	VT-2						○			
C7.30 C7.70			高圧注入ポンプ3B 出ロライン(2)	VT-2						○			
C7.10 C7.30 C7.70			蓄圧タンク及びび出入ロライン	VT-2							○		
C7.30 C7.70			燃料取替用水タンク 出ロライン	VT-2							○		
C7.30 C7.70	C-H		代替炉心注入ライン(1)	VT-2						○			
C7.30 C7.70			余熱除去ポンプ3A入ロライン	VT-2							○		
C7.30 C7.70			余熱除去ポンプ3B入ロライン	VT-2							○		
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70		余熱除去系統	余熱除去ポンプ3A出ロライン	VT-2							○		
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70			余熱除去ポンプ3B出ロライン	VT-2								○	
C7.30 C7.70			代替再循環ライン	VT-2								○	
C7.30 C7.70			格納容器スプレイポンプ 3A、3B入ロライン	VT-2									○
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70		格納容器スプレイ系統	格納容器スプレイポンプ 3A出ロライン(1)	VT-2								○	
C7.30 C7.70			格納容器スプレイポンプ 3A出ロライン(2)	VT-2									○

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

10. 重大事故等クラス2機器漏えい検査 (3/6)

適用規格：維持規格 J S M E S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)							備考							
項目番号	カテゴリ	系統名	検査対象箇所	検査方法	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期						
					13回	特4※1	14回	15回		16回	17回					
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70		格納容器スプレイ系統	格納容器スプレイポンプ 3B出口ライン (1)	VT-2	-	-	-	-	15回	16回	17回					
C7.30 C7.70			格納容器スプレイポンプ 3B出口ライン (2)	VT-2	-	-	-	-	15回	16回	17回					
C7.30 C7.70		代替炉心注入ライン(2)	VT-2	-	-	-	-	-	15回	16回	17回					
C7.30 C7.70		代替格納容器スプレイ ポンプ入口ライン	VT-2	-	-	-	-	-	15回	16回	17回					
C7.30 C7.70		代替格納容器スプレイ ポンプ出口ライン	VT-2	-	-	-	-	-	15回	16回	17回					
C7.30 C7.70	C-H	主蒸気系統	蒸気発生器3A蒸気出口ライン	VT-2	-	-	-	-	-	-	16回	17回	○			
C7.30 C7.70			蒸気発生器3B蒸気出口ライン	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	16回	17回	○	
C7.30 C7.70			蒸気発生器3C蒸気出口ライン	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16回	17回	○
C7.10 C7.30 C7.70		主給水系統	蒸気発生器3A給水入口ライン	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	16回	17回	○	
C7.10 C7.30 C7.70			蒸気発生器3B給水入口ライン	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16回	17回	○
C7.10 C7.30 C7.70			蒸気発生器3C給水入口ライン	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16回	17回	○

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

1.0. 重大事故等クラス2機器漏えい検査 (4/6)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)						備考				
項目番号	カテゴリ	系統名	検査対象箇所	検査方法	第1検査時期		第2検査時期		第3検査時期			
					-	13回 特4※1	-	14回	-	15回	16回	17回
C7.30 C7.70			タービン動補給水ポンプ 蒸気入ロライン	VT-2						○		
C7.30 C7.70			補助給水の補給用屋外接続パイ (原子炉建屋側)	VT-2							○	
C7.30 C7.70			補助給水の補給用屋外接続パイ (原子炉補助建屋側)	VT-2							○	
C7.30 C7.70			電動補給水ポンプ 3A入ロライン	VT-2						○		
C7.30 C7.70			電動補給水ポンプ 3B入ロライン	VT-2							○	
C7.30 C7.70			電動補給水ポンプ 3A出ロライン	VT-2						○		
C7.30 C7.70			電動補給水ポンプ 3B出ロライン	VT-2							○	
C7.30 C7.70			タービン動補給水ポンプ 入ロライン	VT-2						○		
C7.30 C7.70			タービン動補給水ポンプ 出ロライン	VT-2						○		
C7.30 C7.70	C-H		燃料取替用水補給配管(1)	VT-2							○	
C7.30 C7.70			燃料取替用水補給配管(2)	VT-2							○	
C7.30 C7.70			格納容器再循環ユニット 3A, 3B冷却水供給ライン	VT-2							○	
C7.30 C7.70			格納容器再循環ユニット3A 冷却水戻りライン	VT-2							○	
C7.30 C7.70			格納容器再循環ユニット3B 冷却水戻りライン	VT-2							○	
C7.30 C7.70			原子炉補機冷却水ポンプ A, B入ロライン	VT-2						○		
C7.30 C7.70			原子炉補機冷却水ポンプ C, D入ロライン	VT-2							○	
C7.10 C7.30 C7.70			原子炉補機冷却水サージ タンク及び出入ロライン	VT-2						○		
C7.10 C7.30 C7.70			原子炉補機冷却水ポンプ A, B出ロライン	VT-2						○		
C7.30 C7.70			原子炉補機冷却水ポンプ C, D出ロライン	VT-2							○	

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

10. 重大事故等クラス2機器漏えい検査 (5/6)

適用規格：維持規格 J S M E S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)						備考						
項目番号	カテゴリ	系統名	検査対象箇所	検査方法	第1検査時期		第2検査時期		第3検査時期					
					-	13回 特4※1	-		-	14回	15回	16回	17回	
C7.30 C7.70		原子炉補機冷却水システム	原子炉補機冷却水サージタンク窒素供給ライン	VT-2										
C7.30 C7.70			原子炉補機冷却海水供給ライン	VT-2									○	
C7.10 C7.30 C7.70		格納容器雰囲気ガスサンプル冷却器出入ロライン	格納容器雰囲気ガスサンプル冷却器出入ロライン	VT-2									○	
C7.30 C7.70			高圧注入ポンプ冷却用海水放出ライン(1)	VT-2										○
C7.30 C7.70		原子炉補機冷却水系統	格納容器再循環ユニット3A, 3B 出入ロライン	VT-2									○	
C7.30 C7.70			格納容器再循環ユニット3A海水放出ライン	VT-2										○
C7.30 C7.70		原子炉補機冷却水系統	格納容器再循環ユニット3B海水放出ライン	VT-2									○	
C7.30 C7.70			充てんポンプ3B自己冷却供給ライン(2)	VT-2										○
C7.30 C7.70		C-H	充てんポンプ3B自己冷却戻りライン(2)	VT-2									○	
C7.10 C7.30 C7.70			海水ポンプA, B出口ライン	VT-2										○
C7.10 C7.30 C7.70		原子炉補機冷却水系統	海水ポンプC, D出口ライン	VT-2										○
C7.30 C7.70			制御用空気3A供給ライン	VT-2										○
C7.30 C7.70		制御用空気系統	制御用空気3B供給ライン	VT-2										○
C7.30 C7.70			格納容器ガスサンプルライン空気作動弁窒素供給ライン(1)	VT-2										○
C7.30 C7.70		制御用空気系統	格納容器ガスサンプルライン空気作動弁窒素供給ライン(2)	VT-2										○
C7.30 C7.70			アニュラス排気系空気作動弁窒素供給ラインA	VT-2										○
C7.30 C7.70		制御用空気系統	アニュラス排気系空気作動弁窒素供給ラインB	VT-2										○

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

1.0. 重大事故等クラス2機器漏えい検査 (6/6)

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)													
項目番号	カテゴリ	システム名	検査対象箇所	検査方法	第1検査時期			第2検査時期			第3検査時期			備考	
					-	13回 特4※1	-	-	14回	-	15回	16回	17回		
C7.30 C7.70		制御用空気圧縮機系統	制御用空気圧縮機A出口ライン 制御用空気圧縮機B出口ライン	VT-2 VT-2											
C7.30		換気空調設備系統	アニュラス排気ファン3A 出入口ライン	VT-2											
C7.30			アニュラス排気ファン3B 出入口ライン	VT-2											
C7.30			ダクト(中央制御室~中央制御室)	※2											
C7.30 C7.70		湧水系統	高圧注入ポンプ冷却用 海水放出ライン(2)	VT-2											
C7.10 C7.30 C7.70	C-H	ディーゼル発電機 始動空気系統	ディーゼル発電機3A 始動空気ライン	VT-2											
C7.10 C7.30 C7.70			ディーゼル発電機3B 始動空気ライン	VT-2											
C7.30 C7.70		試料採取系統	格納容器雰囲気ガスサンプリング ライン(1)	VT-2											
C7.10 C7.30 C7.70			格納容器雰囲気ガスサンプリング ライン(2)	VT-2											
C7.30 C7.70			アニュラス水素濃度 (AM) 計測 ライン	VT-2											
C7.30 C7.70		緊急時対策所 (EL. 32m) 空 気浄化設備系統	緊急時対策所 (EL. 32m) 空 気浄化ライン	VT-2											
C7.30 C7.70		緊急時対策所 (EL. 32m) 事 故時加圧設備系統	緊急時対策所 (EL. 32m) 事 故時加圧ライン	VT-2											

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

※2 実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画（原子炉格納容器供用期間中検査範囲）

原子炉格納容器

適用規格：維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画（10ヵ年）										備考				
項目番号	力テゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期			
								-	13回 特4※1	-	-		14回	-	15回	-
E8.10	E-G	圧力保持用ボルト締め付け部	VT-4	25%	1箇所 (72組)	VT-4	25% (18組)								25% (18組)	

(注) 項目番号 E1.12 E-A/E3.11, E3.12, E3.13 E-Bについては該当なし。

項目番号 E9.10, E9.20, E9.30, E9.40 E-P/F1.42 F-Aについては、全体漏えい率試験又は局所漏えい率試験にて別途実施。

※1 施設定期検査の長期化に伴う追加検査

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

1. 重大事故等クラス3機器漏えい検査 (1/5)

項目番号	適用規格	伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考				
		カテゴリー	検査対象箇所	検査方法	検査圧力	設備数	第1検査時期		第2検査時期				第3検査時期			
							13回	14回	15回	16回	17回		18回			
D2.10	維持規格 JSME S NA1-2008	D-B	300kVA電源車燃料タンク	VT-2	運転圧力以上又は機能試験時の圧力以上	3	-	-	-	-	-	-	3台を2定検に分けて実施			
				75kVA電源車燃料タンク		3	-	-	-	-	-	3台を2定検に分けて実施				
				大型ポンプ車燃料タンク (大型ポンプ車)		1	-	-	-	-	-					
				大型ポンプ車燃料タンク (大型ポンプ車 (泡混合機能付))		1	-	-	-	-	○	-	-			
				加圧ポンプ車燃料タンク		3	-	-	-	-	○	○	-	-		
				中型ポンプ車燃料タンク		7	-	-	-	-	○	○	-	-		
				緊急時対策所加圧装置		447	-	-	-	-	-	○	-	-	-	
				緊急時対策所用発電機燃料タンク		6	-	-	-	-	-	-	-	○	○	6台を2定検に分けて実施
				マイクロリー		5	-	-	-	-	-	-	-	○	-	
				窒素ポンプ (アニユラス排気系空気作動弁用)		2	-	-	-	-	-	-	-	○	-	
窒素ポンプ (加圧器逃がし弁用)	3	-	-	-	-	-	-	-	○	-						
窒素ポンプ (格納容器ガスサブリングライン空気作動弁用)	3	-	-	-	-	-	-	-	○	-						
窒素ポンプ (原子炉補機冷却水サージタンク用)	3	-	-	-	-	-	-	○	-	-						

1. 重大事故等クラス3機器漏えい検査 (2/5)

適用規格: 維持規格 JSME S N A I - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)							備考			
項目番号	カテゴリー	検査対象箇所	検査方法	検査圧力	第1検査時期		第2検査時期					
					13回	14回	15回	16回	17回	18回		
		大型放水砲	VT-2	運転圧力以上又は機能試験時の圧力以上	2	-	-	16回	17回	18回	-	
		小型放水砲	VT-2		3			○				
		可搬型ダクト(緊急時対策所空気浄化ファン ～緊急時対策所空気浄化フィルタユニット)	VT-2		5						○	
		可搬型ダクト(緊急時対策所空気浄化フィルタユニット ～緊急時対策所 (EL. 32m) 建屋接続口)	VT-2		11						○	
		集合配管(ボンベラック)	VT-2		46		○					
D2. 30	D-B	集合配管(減圧ユニット)	VT-2		5		○					
		マニホールド(緊急時対策所加圧装置用)	VT-2		447		○					
		マニホールド(アニュラス排気系空気作動弁用)	VT-2		2				○			
		マニホールド(加圧器逃がし弁用)	VT-2		4				○			
		マニホールド(格納容器ガスサンプリングライン空気作動弁用)	VT-2		3				○			
		マニホールド(原子炉補機冷却水サージタンク用)	VT-2		2						○	
		加圧器逃がし弁装置供給用9m, 20mフレキシブルホース	VT-2		3						○	

1. 重大事故等クラス3機器漏えい検査 (3/5)

適用規格: 維持規格 JSME S NA1-2008		伊方発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)													
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査圧力	設備数	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期		備考		
						13回	14回	15回	16回	17回	18回				
D2.30	D-B	可搬型代替冷却水ポンプ接続用5mフレキシブルホース	VT-2	運転圧力以上又は機能試験時の圧力以上	3		○								
		格納容器ガスサンプリンングライン空気作動弁窒素供給用2m, 6mフレキシブルホース	VT-2		3				○						
		格納容器水素濃度計測装置接続用1.5m, 3mフレキシブルホース	VT-2		3					○					
		格納容器雰囲気ガスサンプル冷却器冷却水屋外放出用21mフレキシブルホース	VT-2		6		○								
		アニュラス水素濃度 (AM) 計測装置接続用1m, 2mフレキシブルホース	VT-2		3						○				
		アニュラス排気系空気作動弁窒素供給用3mフレキシブルホース	VT-2		2							○			
		原子炉補機冷却水サージタンク窒素供給用14mフレキシブルホース	VT-2		2					○					
		高压注入ポンプ3B及び電動機冷却水屋外放出用5mフレキシブルホース	VT-2		2						○				
		代替格納容器雰囲気ガスサンプリンング圧縮装置接続用2mフレキシブルホース	VT-2		2								○		
		軽油移送配管EL.10m接続口～ミニローリー送油用10mホース	VT-2		2									○	
		軽油タンク出口接続口～ミニローリー送油用10mホース	VT-2		10										○

1. 重大事故等クラス3機器漏えい検査 (4/5)

適用規格: 維持規格 JSME S N A I - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)							備考							
項目番号	カテゴリー	検査対象箇所	検査方法	検査圧力	第1検査時期		第2検査時期									
					13回	14回	15回	16回	17回	18回						
D2. 30	D-B	重油タンク出口接続口 ～重油移送配管EL. 84m接続口又はミニ ニローリー送油用10mホース	VT-2	運転圧力以上又は機能試験時の圧力以上	8		○									
		重油移送配管EL. 10m接続口又はミニ ニローリー～燃料油貯槽燃料油給油口送油用 10mホース	VT-2		6		○									
		重油移送配管EL. 44m接続口 ～ミニニローリー送油用10mホース	VT-2		34		○									
		ミニニローリー ～軽油移送配管EL. 32m接続口送油用 10mホース	VT-2		2		○									
		ミニニローリー車載送油用19. 5m, 20m ホース	VT-2		5							○				
		大型ポンプ車又は大型ポンプ車 (泡 混合機能付) 出口ライン送水用 5m, 10m, 50mホース	VT-2		5m : 2 10m : 11 50m : 37					○	○	○				
		大型ポンプ車又は大型ポンプ車 (泡 混合機能付) 入口ライン取水用 5m, 10m, 20mホース	VT-2		5m : 5 10m : 7 20m : 3						○	○	○			
		加圧ポンプ車出口ライン送水用 19m, 20mホース	VT-2		19m : 5 20m : 29							○	○	○		
		中型ポンプ車出口ライン送水用 10m, 20m, 50mホース	VT-2		10m : 17 20m : 21 50m : 63								○	○	○	
		ホース (緊急時対策所加圧装置用高 圧ホース)	VT-2		48										○	

1. 重大事故等クラス3機器漏えい検査 (5/5)

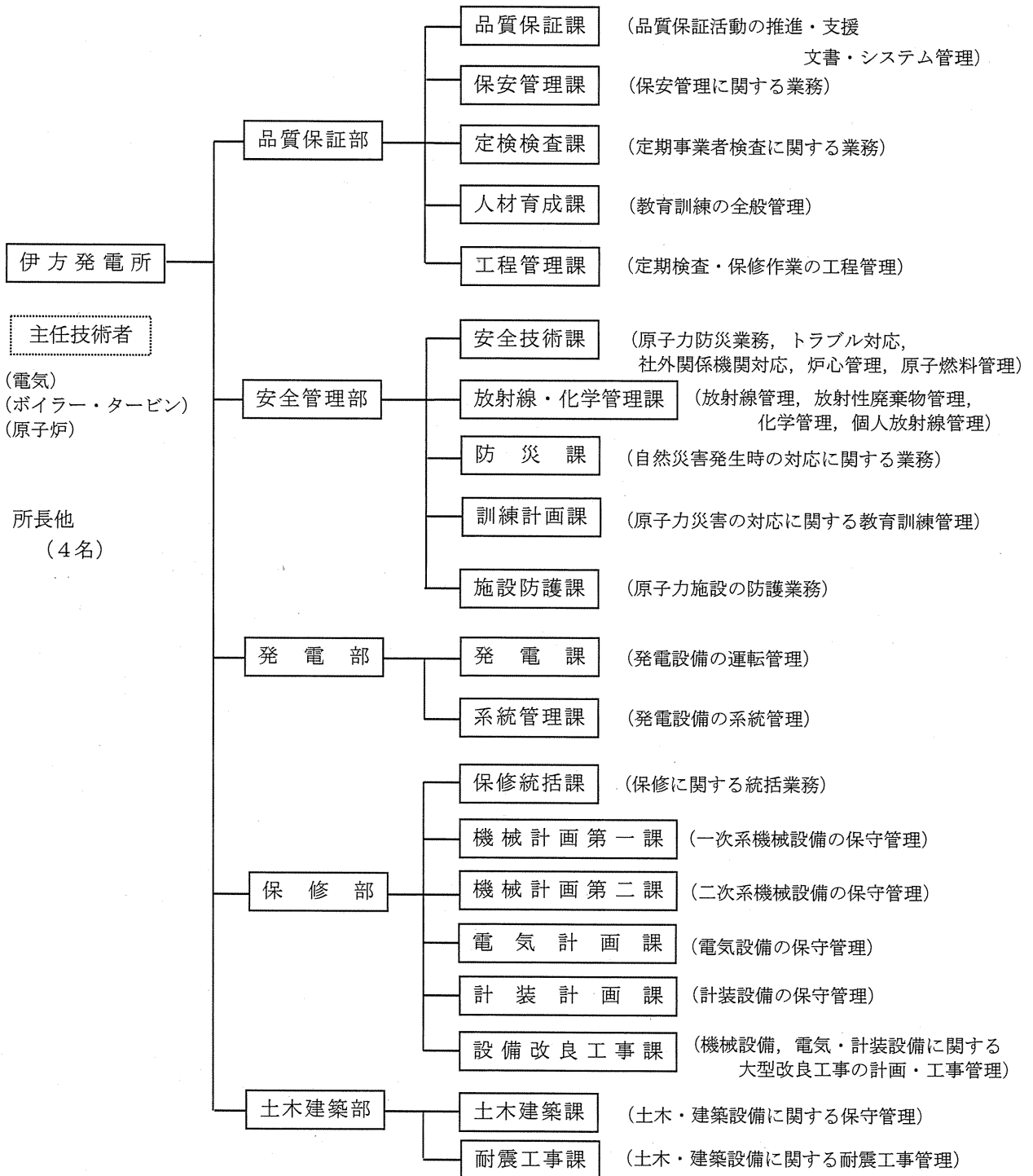
適用規格: 維持規格 JSME S N A 1 - 2 0 0 8		伊方発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考						
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査圧力	設備数	第1検査時期		第2検査時期			第3検査時期							
						13回	14回	15回	16回	17回	18回							
D2.30	D-B	ホース(緊急時対策所加圧装置用低圧ホース)	VT-2	運転圧力以上又は機能試験時の圧力以上	6	-	○	-	-	-	-	-	-					
		300kVA電源車冷却水ポンプ	VT-2		3						○	○	○	○	3台を2定検に分けて実施			
		75kVA電源車冷却水ポンプ	VT-2		3										○	○	3台を2定検に分けて実施	
		大型ポンプ車	VT-2		1										○			
		大型ポンプ車(泡混合機能付)	VT-2		1										○			
		加圧ポンプ車	VT-2		3										○	○		
		中型ポンプ車	VT-2		7										○	○		
		可搬型代替冷却水ポンプ	VT-2		2										○			
		緊急時対策所用発電機冷却水ポンプ	VT-2		6											○	○	6台を2定検に分けて実施

保全に関する実施体制

保全に関する実施体制

1. 事業者の保守管理体制

事業者の第15保全サイクルにおける保守管理体制を下図に示す。



添付書類五 定期事業者検査の判定方法

1. 定期事業者検査の判定方法

(1) 定期事業者検査の実施における考え方

定期事業者検査の実施にあたっては、実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第56条第1項において検査の方法が規定されており、これに従い、表-1に記載する検査の方法に基づき、対象設備に対して定期事業者検査を実施する。

また、実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第56条第2項では、定期事業者検査においては、一定の期間を設定し、その期間において技術基準に適合する状態を維持するかどうかを判定する方法で行うことが規定されている。

表-1のうち、①、②の検査は、設備の点検にあわせて、又は点検の完了後に実施するものであり、その実施頻度は、設備の点検頻度や原子炉を停止する頻度に基づいている。(添付書類四 別紙-1 点検計画参照)

定期事業者検査の対象となる設備については、技術基準への適合維持が要求されていることから、その実施頻度の設定においては、所定の機能を発揮できなくなる前、すなわち技術基準に適合する状態を維持すると考えられる段階に点検を行うように考慮しており、その実施頻度を定期事業者検査の一定の期間とみなすことができる。この実施頻度から設定した定期事業者検査の一定の期間の最短は、原子炉を停止して実施する必要がある点検の最短の間隔に調整運転期間等を考慮した13ヶ月※(施設定期検査終了からの期間)である。

※：使用の状況等から別途点検を行う時期を評価し、施設定期検査を受けるべき時期について原子力規制委員会の承認を受ける場合を除く。

なお、定期事業者検査の実施頻度の前提となるこれらの点検にあたっては、その対象設備が技術基準に適合する状態を維持するため、その点検頻度の設定にあたって前提とされた部品取替等の行為を保全活動の中で確実にを行う。

また、機器の劣化、特性変化を定量的に評価し判定する検査については、上記に係わらず、当該評価で判定に考慮する期間を一定の期間とする。これに該当する検査を(2)に示す。

(2) 一定の期間を考慮する定期事業者検査の判定について

定期事業者検査においては、(1)のとおり設定された頻度に基づき、設備が技術基準に適合していることを確認するが、機器の劣化、特性変化を定量的に評価し判定する以下の検査については、その判定に一定の期間を考慮する。

○原子炉を停止して実施する必要がある点検の最短の間隔に調整運転期間等を考慮した13ヶ月(施設定期検査終了からの期間)以上を一定の期間として判定に考慮する検査

- ・原子炉格納容器全体漏えい率検査
- ・原子炉格納容器局部漏えい率検査
- ・クラス1機器供用期間中検査(※)
- ・クラス2機器供用期間中検査(※)
- ・クラス3機器供用期間中検査(※)
- ・供用期間中特別検査のうちクラス2管(原子炉格納容器内)特別検査(※)
- ・原子炉格納容器供用期間中検査(※)
- ・重大事故等クラス2機器供用期間中検査(※)
- ・1次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査
- ・炉内計装用シンプルチューブ体積検査
- ・蒸気タービン開放検査
- ・2次系配管検査
- ・中央制御室の居住性確認検査

*：第15保全サイクルの実運転期間（13ヶ月）に調整運転期間等を踏まえ、判定に考慮した第二段階検査に移行可能な検査

○また、第16サイクルの炉心設計に係わる以下の検査については、実運転期間（13ヶ月）に調整運転期間等を踏まえ、これに基づき判定を行う。

- ・燃料集合体外観検査
- ・原子炉停止余裕検査
- ・炉物理検査

なお、上記以外の検査については、その対象設備が技術基準に適合している状態を維持するため、その点検間隔の設定にあたって前提とされた部品取替等の行為を保全活動の中で確実にを行う。

表－１ 検査の方法の考え方について

実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第56条	検査の方法	
① 開放、分解、非破壊検査その他の各部の損傷、変形、摩耗及び異常の発生状況を確認するために十分な方法	分解検査及び開放検査	機器等を分解、開放した状態でき裂、変形、摩耗等の有無を目視等により確認する。
	外観検査	機器等を分解又は開放しない状態で漏えい又はその形跡、き裂、変形等の有無を目視等により確認する。
	非破壊検査	社団法人日本機械学会「発電用原子力設備規格維持規格」(JSME S NA1-2008)に規定されている超音波探傷試験、渦流探傷試験、浸透探傷試験、目視試験等により、機器等の内外表面及び内部欠陥の有無等を確認する。
	漏えい(率)検査	系統及び機器等の点検完了後、所定の圧力において、漏えいの有無又は漏えい率*を確認する。
② 試運転その他の機能及び作動の状況を確認するために十分な方法	特性検査	電気設備及び計測制御設備について絶縁抵抗測定**、校正、設定値確認検査などを行い、機器等の特性を確認する。
	機能・性能検査	系統及び機器等の点検完了後、作動試験、試運転、インターロック試験等を行い、機器単体又は系統の機能・性能等を確認する。
	総合性能検査	各設備の点検完了後に、定格出力近傍で発電用原子炉施設の運転を行い、各発電用原子炉施設の運転状態が正常であること及び各種パラメータが妥当な値であることを確認する。
③ 各部の損傷、変形、摩耗等による異常の発生兆候を作動している状態で確認するために十分な方法	プラント運転中の機能・性能検査(状態監視を含む)	機器運転状態において、状態の監視(異常の発生兆候の確認)を行うとともに、機器の機能・性能を確認する。

※:漏えい率の確認には、「②試運転その他の機能及び作動の状況を確認するために十分な方法」を兼ねるものがある。

※※:絶縁抵抗測定には、「①開放、分解、非破壊検査その他の各部の損傷、変形、摩耗及び異常の発生状況を確認するために十分な方法」を兼ねるものがある。

上表の検査の方法にて実施する具体的な定期事業者検査は点検計画(添付書類四 別紙-1)のとおり。

なお、当該点検計画に含まれる簡略点検は定期事業者検査として実施しないが、部品の定期的な取替え、運転経験・劣化の進展予測、使用環境及び設置環境等を考慮して実施内容、頻度を定めている。

添付書類六 保全の有効性評価の結果に関する説明書

伊方発電所 第3号機

保全の有効性評価の結果に関する説明書

これまでの保全活動で得られた情報をもとに継続的な改善につなげるよう保全の有効性評価を実施した。

前保全サイクルにおける保全の有効性評価の結果については添付－1のとおり。

また、これら評価の結果等を踏まえ、保全内容の変更を行ったものは添付－2のとおり。

- 添付－1 保全の有効性評価結果について
- 添付－2 保全の有効性評価の結果等により保全へ反映した事項について
- 参 考 保全活動管理指標の実績について

保全の有効性評価結果について

保守内規, 不適合管理内規, 予防処置管理内規等に基づき, 有効性評価を実施。

分類1	定期的な評価のインプット		総合評価
	分類2	対象期間	
a. 保全活動管理指標の監視結果	①プラントレベル 保全活動管理指標が目標値を超えたもの	H29(2017).8.1~ R1(2019).9.30	すべてのプラントレベルの指標は目標値以内であり保全が有効に機能していると評価した。
	②系統レベル 保全活動管理指標が目標値を超えたもの	MPPF : H29(2017).8.1~ R1(2019).9.30 UA : H23(2011).1.1~ R1(2019).9.30	「外部電源系統」の「PS-3④電源供給機能【LC0】」においてUA時間が目標値を超過したが、これは保安規定第88条に規定されている予防保全を目的とした点検を計画的に実施したことによるものであるため、保全計画の見直しは不要と評価した。その他の系統レベルの指標は目標値以内であり保全が有効に機能していると評価した。
b. 保全データの推移及び経年劣化の長期的な傾向監視の実績	③点検手入れ前データ, 状態監視データ, 運転データ	H29(2017).10.3~ R1(2019).11.5	過去の点検手入れ前データ, 状態監視データ, 運転データについてデータの推移及び経年劣化の長期的な傾向について評価を行った結果, 添付-2のとおり保全計画へ反映した。
c. トラブルなどの運転経験	④当該号機のトラブル及び不適合	H29(2017).10.3~ R1(2019).11.5	不適合情報を用いて評価を行った結果, 添付-2のとおり保全計画に反映した。
d. 高経年化技術評価及び安全性向上評価結果	⑤当該号機の高経年化技術評価及び安全性向上評価	H29(2017).10.3~ R1(2019).11.5	当該号機の安全性向上評価(R1(2019).5)の結果, 保全計画へ反映すべき事項はなかった また, 当該号機では前サイクルに高経年化技術評価は実施していない。
e. 他プラントのトラブル及び経年劣化傾向に係るデータ	⑥社内他号機の不適合情報	H29(2017).10.3~ R1(2019).11.5	予防処置情報(当社他号機の不適合情報)について評価を行った結果, 保全計画へ反映すべき事項はなかった。
	⑦国内情報(NUC I A情報)	H29(2017).10.3~ R1(2019).11.5	予防処置情報(国内他プラントのトラブル情報, 保全品質情報)を用いて評価を行った結果, 添付-2のとおり保全計画へ反映した。
	⑧海外情報	H29(2017).10.3~ R1(2019).11.5	予防処置情報(NRC情報, INPO情報等)を用いて評価を行った結果, 保全計画へ反映すべき事項はなかった。
	⑨通達等の文書	H29(2017).10.3~ R1(2019).11.5	通達等の文書について評価を行った結果, 保全計画へ反映すべき事項はなかった。
f. リスク情報, 科学的知見	⑩リスク情報	H29(2017).10.3~ R1(2019).11.5	リスク情報について評価を行った結果, 保全計画へ反映すべき事項はなかった。
	⑪電力共同研究・技術開発	H29(2017).10.3~ R1(2019).11.5	電力共同研究の成果及び新たな技術開発について評価を行った結果, 保全計画に反映すべき事項はなかった。
g. その他	⑫傾向管理情報	H29(2017).10.3~ R1(2019).11.5	予防処置情報(運転監視, 燃料管理による情報)について評価を行った結果, 保全計画へ反映すべき事項はなかった。
	⑬その他自主的な取り組み	H29(2017).10.3~ R1(2019).11.5	自主的な取り組みとして, 添付-2のとおり保全計画へ反映した。

注: 前々保全サイクルのH29(2017).8.26~H29(2017).10.2において, ③~⑬に関して保全計画へ反映した事項はなかった。

前回からの主な変更点（保全の有効性評価の結果等により保全へ反映した事項）

1. 保全活動管理指標への反映

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			イン プ ット 情 報 の 項 目※	評 価		備 考 (関連する定期事業者検査等)
		項目	変更前	変更後		事象の概要	評価内容	
-	なし	-	-	-	-	-	-	-

※：インプット情報は添付-1の定期的な評価のインプット分類2と対応

2. 点検計画への反映

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容		評価			備考 (関連する定期事業者検査等)		
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容		4つの 評価項目 ※※	
		項目	変更前						変更後
1	500kV OFケープル	OFケープル点検 (精密)	78M	39M	⑦	平成28年10月に発生した他電力の地中送電(OF)ケープルからの出火事象に鑑み、点検計画を見直した。	第14回施設定期検査の点検結果によると、劣化は認められず点検結果は良好であり、過去の点検結果においても、劣化や特性の変化は認められていない。 平成28年10月に発生した他電力の地中送電(OF)ケープルからの出火事象に鑑み、同事象の再発防止を図るべくOFケープル点検(精密)の点検頻度を78Mから39Mに短縮することにより適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。	④	

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容		評価			4つの評価項目※	備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式又は点検内容の変更		インプット情報の項目※	事象の概要	評価内容		
		項目	変更前					
2	D/G機関3A入口シリンダ、冷却水圧力スイッチ(3PS-4304)、D/G機関3A入口潤滑油圧力スイッチ(3PS-4332)	単体調整試験	13M	52M	第14回施設定期検査にて採取した計器点検前データ及び過去の点検実績等を用いて点検計画を見直した。	③	第14回施設定期検査における計器点検前データによると、機能に影響を及ぼす劣化は認められなかった。また、計器点検前データが52M相当の期間連続にて許容誤差範囲内を推移することが確認できた。以上ことから、52Mの点検(変更前から39Mの延長)により適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。	133 非常用予備発電機付属設備検査

※：インプット情報は添付-1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容		評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容		4つの 評価項目 ※
		項目	変更前					
3	余熱除去ボンプ 3A, 3B 出口圧力伝送器 (3PT-60L, 611) 蓄圧タンク 3B 圧力伝送 器 (3PT-921) 高圧注入ボンプ 3A, 3B 出口圧力伝送器 (3PT-962, 963)	伝送器単体 調整試験	26M	52M	③	第14回施設定期検査にて採取した計 器点検前データ及び過去の点検実績等 を用いて点検計画を見直した。	第14回施設定期検査における計器点 検前データによると、機能に影響を及 ぼす劣化は認められなかった。 また、計器点検前データが52M相当の 期間連続にて許容誤差範囲内を推移す ることが確認できた。 以上ことから、52Mの点検(変更前 から26Mの延長)により適切な保守管理 を行うことが可能であると判断した。	①

※：インプット情報は添付－1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※	
		変更前	変更後					
4	RCP-3A, 3B封水注入装置 流量伝送器 (3FT-150, 160) 蓄圧タンク3A圧力伝送器 (3PT-910, 911)	52M	104M	③	第14回施設定期検査にて採取した計器点検前データ及び過去の点検実績等を用いて点検計画を見直した。	第14回施設定期検査における計器点検前データによると、機能に影響を及ぼす劣化は認められなかった。 また、計器点検前データが104M相当の期間連続にて許容誤差範囲内を推移することが確認できた。 以上ことから、104Mの点検(変更前)から52Mの延長により適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。	①	

※：インプット情報は添付1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		項目	変更前						変更後
5	制御用空気圧縮機3A (3PS-1820) 潤滑油圧力スイッチ 3A, 3B圧力(圧力低自 動起動用) (3PS-1830, 1860) D/G機関3A入口潤滑 油圧力スイッチ (3PS-4329, 4330, 4331)	単体調整試 験	26M	52M	③	第14回施設定期検査にて採取した計 器点検前データ及び過去の点検実績等 を用いて点検計画を見直した。	第14回施設定期検査における計器点 検前データによると、機能に影響を及 ぼす劣化は認められなかった。 また、計器点検前データが52M相当の 期間連続にて許容誤差範囲内を推移す ることが確認できた。 以上ことから、52Mの点検(変更前 から26Mの延長)により適切な保守管理 を行うことが可能であると判断した。	①	

※：インプット情報は添付－1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		項目	変更前						変更後
6	RCP-3B第3シールドカッター カッター 水位伝送 器 (3LT-169)	伝送器単体 調整試験	26M	13M	③	第14回施設定期検査にて採取した計 器点検前データ及び過去の点検実績等 を用いて点検計画を見直した。	第14回施設定期検査における計器点 検前データで許容誤差を逸脱している ことが確認された。 また、2定検続けて許容誤差を逸脱し ていることが確認された。 以上のことから、13Mの点検(変更前 から13Mの短縮)により適切な保守管理 を行うことが可能であると判断した。	①	72 計測制御系監視機能検査

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		項目	変更前						変更後
7	D/G機関3A, 3B入口潤滑油圧力指示計(3PI-4327, 4427) D/G機関3A, 3B入口シリンダ冷却水圧力スイッチ(3PS-4303, 4305, 4403, 4404, 4405) D/G機関3A, 3B入口潤滑油圧力スイッチ(3PS-4333, 4334, 4432, 4433, 4434)	単体調整試験	26M	52M	③	第14回施設定期検査にて採取した計器点検前データ及び過去の点検実績等を用いて点検計画を見直した。	第14回施設定期検査における計器点検前データによると、機能に影響を及ぼす劣化は認められなかった。 また、計器点検前データが52M相当の期間連続にて許容誤差範囲内を推移することが確認できた。 以上ことから、52Mの点検(変更前から26Mの延長)により適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。	①	133 非常用予備発電機付属設備検査

※ : インプット情報は添付-1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※ : 点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		項目	変更前						変更後
8	余熱除去ポンプ 3A, 3B電動機 電動補助給水ポンプ 3A, 3B電動機 格納容器レベルポンプ 3A, 3B電動機	潤滑油診断	1C	2C	③	第14回施設定期検査にて実施した潤滑油診断の結果から潤滑油診断の頻度を見直した。	第14回施設定期検査にて実施した潤滑油診断の結果、1C使用後の潤滑油の劣化傾向に問題は認められなかった。 また、劣化傾向から2C使用後の汚染状態を予測すると、管理値に十分な余裕があることから、診断頻度を延長しても問題ないと判断した。 以上のことから、潤滑油診断を当該機器の潤滑油の入れ替え頻度に合わせ、2C(変更前から1Cの延長)とすることにより適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。	②	

※：インプット情報は添付－1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		項目	変更前						変更後
9	蒸気発生器水張ポンプ3号電動機	潤滑油診断	1C	2C	③	第14回施設定期検査にて実施した潤滑油診断の結果から潤滑油診断の頻度を見直した。	第14回施設定期検査にて実施した潤滑油診断の結果、1C使用後の潤滑油の汚染状態に異常がなく、設備の劣化傾向に問題は認められなかった。また、劣化傾向から2C使用後の汚染状態を予測すると、管理値に十分な余裕があることから、診断頻度を延長しても問題ないと判断した。以上のことから、潤滑油診断を当該機器の潤滑油の入れ替え頻度に合わせ、2C(変更前から1Cの延長)とすることが可能であると判断した。	②	

※：インプット情報は添付-1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※	
		項目	変更前					
10	補助建屋サブ・タワポソ ブ 3A, 3B	振動診断	—	IC	⑬	自主的な取り組みとして、振動診断 を新たな保全項目として適用した。	⑭	
						類似機器(ワウシェンブ等)をベンチマーク とした結果、振動診断(頻度はIC)を適 用することが可能であると判断した。		

※ : インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※ : 点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更			インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容		4つの 評価項目 ※※
		項目	変更前	変更後					
11	焼却炉建家排気ファン A, B 焼却炉建家排気ファン A, B電動機 焼却炉建家排気ファン A, B, C 焼却炉建家排気ファン A, B, C電動機 前処理室排気ファン 前処理室排気ファン電 動機 高圧圧縮棟排気ファン A, B電動機 高圧圧縮棟排気ファン A, B電動機	赤外線診断	IM	—	③	当該設備の軸受部異常については、 振動診断にて検知可能であることから 赤外線診断を取り止めた。	平成23年から実施している赤外線診 断の結果については、これまでに採取 したデータが全て管理値内を推移してお り、異常徴候は認められていない。 また、当該設備の軸受部の異常は振 動診断で検知可能である。 以上ことから、赤外線診断を取り 止めても適切な保守管理を行うことが 可能であると判断した。	②	

※：インプット情報は添付－1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		変更前	変更後						
12	補助建屋排気ファン 3A, 3B, 3C	赤外線診断	—	IM	⑬	自主的な取り組みとして、赤外線診断を新たな保全項目として適用した。	類似機器(廃棄物処理室排気ファン等)をハンマーチェックした結果、振動診断に加えて赤外線診断(頻度はIM)を適用することが可能であると判断した。	⑭	

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容		評価			備考 (関連する定期事業者検査等)		
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容		4つの 評価項目 ※※	
		項目	変更前						変更後
13	補助ボイラ・ポンプ注 入ボイラ 3A, 3B	振動診断	—	IC	⑬	自主的な取り組みとして、振動診断 を新たな保全項目として適用した。	類似機器(補助ボイラ・ポンプ等)をベ ンチャーがした結果、振動診断を適用す ることが可能であると判断した。 なお診断頻度は、3号機が施設定期検 査中および補助ボイラが連続運転してい るときに運転する機器であることから ICとする。	⑭	

※：インプット情報は添付-1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更 項目	変更前	変更後	インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	
14	安全補機開閉器室空調 ファン3A, 3B電動機	分解点検(本体) 機能・性能 試験	15Y 15Y	156M 12C	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、ブライド安全設備等の運転に影響を及ぼす可能性があることから、ブライド運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全サイクル管理」へ変更することにより適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。 なお、点検頻度については同程度となるように設定する。	①

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価				備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		変更前	変更後						
15	蓄電池室排気ファン 3A, 3B電動機	7Y	65M	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、ブライド安全設備等の運転に影響を及ぼす可能性があることから、ブライド運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全サイクル管理」へ変更することにより適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。 なお、点検頻度については同程度となるように設定する。	①		

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価				備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		項目	変更前					変更後	
16	補助建屋排気ファン 3A, 3B, 3C電動機	分解点検(本 体) 機能・性能 試験	7Y 7Y	6Y 6Y	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画 を見直した。	① 分解点検の頻度(7Y)を絶縁特性試験 (3Y)の倍數(6Y)にすることが一定の間隔 検と絶縁特性試験の頻度が一定の間隔 となることから適切な保守管理を行う ことが可能であると判断した。	①	77 1次系換気空調設備機能検査

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※	
		項目	変更前					
17	ディーゼル発電機室給 気ファン3A, 3B, 3C, 3D電 動機 電動補助給水ポンプ 室給気ファン3A, 3B電動 機 カービン動補助給水ポン プ室給気ファン3A, 3B電 動機	機能・性能 試験 分解点検(本 体)	1Y 12Y	IC 117M	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画 を見直した。	当該装置の点検は、プラント安全設備等 の運転に影響を及ぼす可能性及び非待 機時間(UA時間)の発生を考慮すると、 プラント運転中よりも施設定期検査時に実 施することが適切であるため、「年度 管理」から「保全サイクル管理」へ変更す ることが可能であると判断した。 なお、点検頻度については同程度と なるように設定する。	①

※：インプット情報は添付－１の定期的な評価のインプット分類２と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			インプット情報の項目※	事象の概要	評価内容	4つの評価項目※※	備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式又は点検内容の変更		変更後					
		項目	変更前						
18	制御用空気圧縮機室 給気ファン3A, 3B電動機	機能・性能 試験 分解点検(本体)	1Y 7Y	1C 65M	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、アラーム安全設備等の運転に影響を及ぼす可能性及び非待機時間(UA時間)の発生を考慮すると、アラーム運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全体制管理」へ変更することが可能であると判断した。 なお、点検頻度については同程度となるように設定する。	①	

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※	
		変更前	変更後					
19	排ガスプロ電動機	3Y	CBM	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	平成29年度における分解点検での点検手入れ前データによると、機能に影響を及ぼす劣化は認められなかった。当該機器は、故障時のプラントに対する影響が小さく保全重要度が低い機器(G4)である。 また、屋内に設置されているため劣化の要因が少なく、状態監視にて劣化状況を把握することが可能である。 以上ことから、時間基準保全を取止め、別途実施していた状態監視による状態基準保全としても適切な保守管理が可能であると判断した。	①	

※：インプット情報は添付－1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更			インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容		4つの 評価項目 ※※
		項目	変更前	変更後					
20	ディーゼル発電機室排 気3A, 3B, 3C, 3Dガソ (3D-VS-402A, B, C, D (OP)) ディーゼル発電機制御 盤室3A, 3B排気ガソ (3D-VS-403A, B (OP)) ディーゼル発電機制御 盤室3A, 3B給気ガソ (3D-VS-404A, B (OP)) 電動補機給水ポンプ 室排気3A, 3Bガソ (3D-VS-412A, B (OP)) 制御用空気圧縮機室 排気3A, 3Bガソ (3D-VS-432A, B (OP)) カーヒュー動補助給水ポン プ室排気3A, 3Bガソ (3D-VS-414A, B (OP))	ガソハホレーク 点検 ガソハホレーク 駆動部分解 点検	6Y 6Y	52M 52M	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、アラシ安全設備等の運転に影響を及ぼす可能性及び非待機時間(UA時間)の発生を考慮すると、アラシ運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全管理」へ変更することが可能であると判断した。なお、点検頻度については同程度となるよう設定する。	①	

※：インプット情報は添付-1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更			インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容		4つの 評価項目 ※※
		項目	変更前	変更後					
21	ディーゼル発電機室排 気ガスハ 3A, 3B, 3C, 3D (3D-VS-402A, B, C, D) ディーゼル発電機制御 盤室排気ガスハ 3A, 3B (3D-VS-403A, B) 電動補助給水ポンプ 室排気ガスハ 3A, 3B (3D-VS-412A, B) タービン動補助給水ポン プ室排気ガスハ 3A, 3B (3D-VS-414A, B) 制御用空圧縮機室 排気ガスハ 3A, 3B (3D-VS-432A, B)	動作確認	6Y	4C	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、アラート安全設備等の運転に影響を及ぼす可能性及び非待機時間(UA時間)の発生を考慮すると、アラート運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全サイクル管理」へ変更することが可能であると判断した。 なお、点検頻度については同程度となるよう設定する。	①	

※：インプット情報は添付-1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更			インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容		4つの 評価項目 ※
		項目	変更前	変更後					
22	燃料取扱棟排気第1, 第2隔離カマ 3号 (3D-VS-252, 253 (OP)) 燃料取扱棟排気第1, 第2隔離カマ 3号 (3D-VS-254, 255 (OP))	高気密カマ ホレカ点検 高気密カマ ホレカ駆動 部分解点検	2Y 4Y	26M 39M	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、プラント安全設備等の運転に影響を及ぼす可能性及び非待機時間(UA時間)の発生を考慮すると、プラント運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全PM管理」へ変更することにより適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。 なお、点検頻度については同程度となるように設定する。	①	

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※	
		項目	変更前					
23	安全補機開閉器室空 調ファン3A, 3B出口ファン (3D-VS-534A, B)	外観点検 軸受給脂	12Y 15Y	9C 156M	自主的な取り組みとして、点検計画 を見直した。	当該装置の点検は、プラント安全設備等 の運転に影響を及ぼす可能性があるこ とから、プラント運転中よりも施設定期検 査時に実施することが適切であるた め、「年度管理」から「保全外管理」 へ変更することにより適切な保守 管理を行うことが可能であると判断し た。 なお、点検頻度については同程度と なるように設定する。	①	

※：インプット情報は添付－１の定期的な評価のインプット分類２と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			インプット情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※	備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更							
		項目	変更前	変更後					
24	MDPV 電動補助給水ポンプ3A, 3B室FDV (3F-VS-411A, B) MDPV 電動補助給水ポンプ3A, 3B室防火ガン (3F-VS-412A, B) T/D-AFWP室天井第1防火兼風量調節ガン (3F-VS-413A) T/D-AFWP3号室天井第2防火兼風量調節ガン (3F-VS-413B) TDPV T/D-AFWP3号室第1, 第2防火ガン (3F-VS-414A, B) IAComp-3A, 3B室防火兼風量調節ガン (3F-VS-431A, B) IACV 制御用空気圧縮機3A, 3B室防火ガン (3F-VS-432A, B)	12Y 12Y	9C 9C	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、プラント安全設備等の運転に影響を及ぼす可能性及び非待機時間(UA時間)の発生を考慮すると、プラント運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全計画管理」へ変更することが可能であると判断した。なお、点検頻度については同程度となるように設定する。	①		

※：インプット情報は添付1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更 項目	変更前	変更後	インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	
25	安全補機開閉器室空 調ユニット3A, 3B	開放点検	7Y	65M	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、プラント安全設備等の運転に影響を及ぼす可能性を考慮する時、プラント運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全サイクル管理」へ変更することにより適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。なお、点検頻度については同程度となるように設定する。	①

※ : インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※ : 点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更 項目	変更前	変更後	インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	
26	安全補機開閉器室空 調ファン3A, 3B	分解点検	15Y	150M	③	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、プラント安全設備等の運転に影響を及ぼす可能性を考慮する時、プラント運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全対策管理」へ変更することにより適切な保守管理を行わなければならないと判断した。なお、点検頻度については同程度となるように設定する。	①

※：インプット情報は添付1-1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容		評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容		4つの 評価項目 ※※
		項目	変更前					
27	ディーゼル発電機室給 気ファン3A, 3B, 3C, 3D 電動補助給水ポンプ 室給気ファン3A, 3B クービソ動補助給水ポン プ室給気ファン3A, 3B	分解点検	25Y	260M	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、プラント安全設備等の運転に及ぼす可能性及び非待機時間(UA時間)の発生を考慮すると、プラント運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全計画管理」へ変更することにより適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。 なお、点検頻度については同程度となるように設定する。	①

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※	
		項目	変更前					
28	制御用空気圧縮機室 給気ファン3A, 3B	分解点検	22Y	22LM	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、ファン安全設備等の運転に影響を及ぼす可能性及び非待機時間(UA時間)の発生を考慮すると、ファン運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全対策管理」へ変更することが可能であると判断した。 なお、点検頻度については同程度となるように設定する。	①

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び代替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容		評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容		4つの 評価項目 ※※
		項目	変更前					
29	ダイヤル発電機室排 気ファン ^{3A, 3B, 3C, 3D} 用電磁弁 (3SV-VS- 402A, B, C, D) ダイヤル発電機制御 盤室排気ファン ^{3A, 3B} 用電磁弁 (3SV-VS-403A, B) ダイヤル発電機制御 盤室給気ファン ^{3A, 3B} 用電磁弁 (3SV-VS-404A, B) 電動補助給水ポン プ室排気ファン ^{3A, 3B} 用 電磁弁 (3SV-VS-412A, B) 制御用空圧縮機室 排気ファン ^{3A, 3B} 用電 磁弁 (3SV-VS-432A, B) ターボ補助給水ポン プ室排気ファン ^{3A, 3B} 用電磁弁 (3SV-VS-414A, B)	電磁弁点検 電磁弁取替	6Y 6Y	52M 52M	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該装置の点検は、プラント安全設備等の運転に影響を及ぼす可能性及び非待機時間(UA時間)の発生を考慮すると、プラント運転中よりも施設定期検査時に実施することが適切であるため、「年度管理」から「保全サイクル管理」へ変更することにより適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。 なお、点検頻度については同程度となるように設定する。	①

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容		評価			備考 (関連する定期事業者検査等)		
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更	項目	変更前	変更後	インプット 情報の項目 ※		事象の概要	評価内容
30	緊急時対策所加圧装置減圧ユニット安全弁 A, B, C, D (3V-KV-706A, B, C, D) 緊急時対策所加圧装置減圧ユニット安全弁 (予備) (3V-KV-706-Y)	分解体点検 機能・性能 試験 漏えい試験	12Y 12Y 12Y	117M 9C 9C	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	当該弁の点検に伴い緊急時対策所加圧装置は機能喪失となるため、重大事故等対処活動を考慮すると、施設定期検査時に実施することが適切であることから、「年度管理」から「保全/外管理」へ変更することにより適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。 なお、点検頻度については同程度となるように設定する。	①	85 I次系安全弁検査

※：インプット情報は添付1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価				備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更			インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※	
		項目	変更前	変更後					
31	二酸化炭素出口安全 弁3号 (3V-CD-293)	取替 機能・性能 試験 漏えい試験	12Y 12Y 12Y	15Y 15Y 15Y	③	平成30年度取替時の点検結果により 点検計画を見直した。	平成30年度取替時の点検結果は良好 であり、また当該弁は周辺設備であり 故障時のガフトに対する影響が少ないこ とから、15Yの取替(変更前から3Yの延 長)により適切な保守管理を行うことが 可能であると判断した。	①	85 1次系安全弁検査

※：インプット情報は添付1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		項目	変更前						変更後
32	メイン固化装置マガス 77A3A, 3B	機能・性能 試験 分解点検	CBM CBM	5Y 5Y	④	平成30年4月に発生した不適合の是正 処置として、点検計画を見直した。	設置された平成4年から20年以上、77A の異常は発生しなかったことから、5Y の分解点検により適切な保守管理を行 うことが可能と判断した。	①	77 1次系換気空調設備検査

※：インプット情報は添付－1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		項目	変更前						変更後
33	セント固化装置オガス フイルエット3A, 3B	機能・性能 試験	CBM	5Y	⑬	自主的な取り組みとして、点検計画を見直した。	セント固化装置オガスフイルエット3A, 3Bの機能・性能試験に合わせて実施しているため、フイルエットの機能・性能試験の保全方式変更に合わせてより適切な保守管理を行うことが可能であると判断とした。	①	77 1次系換気空調設備検査

※：インプット情報は添付-1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		項目	変更前						変更後
34	流量調整ユニット (緊急時対策所加圧 装置) (3V-KV-705)	校正	—	117M	③	校正を新たな保全項目として適用した。	緊急時対策所加圧手順において流量調整弁を操作するために当該流量計の指示値を確認することから、校正(頻度は117M)を新たな保全項目とすることにより適切な保守管理を行うことが可能であると判断とした。	①	

※：インプット情報は添付－1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更			インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容		4つの 評価項目 ※※
		項目	変更前	変更後					
35	非常用ディーゼル機関 3A, 3B 非常用ディーゼル発電 機3A, 3B	振動診断	—	6M	⑬	自主的な取り組みとして、振動診断 を新たな保全項目として適用した。	機関および発電機について、潤滑油 診断および赤外線診断に加え振動診断 (頻度は6M)を適用することにより適切 な保守管理を行うことが可能であると 判断した。	③	

※：インプット情報は添付1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		変更前	変更後						
36	非常用ディゼール機関 3A, 3B	機関診断	—	GM	⑬	自主的な取り組みとして、機関診断を新たな保全項目として適用した。	機関の潤滑油診断および赤外線診断に加え機関診断(頻度はGM)を適用することが可能であると判断した。	⑭	

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容		インプット情報の項目※	事象の概要	評価内容	4つの評価項目※※	備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式又は点検内容の変更項目	変更前					
37	D/G機関3A出口ソリッド冷却水温度指示計(3TI-4304)	単体調整試験	52M	104M	第14回施設定期検査にて採取した計器点検前データ及び過去の点検実績等を用いて点検計画を見直した。	第14回施設定期検査における計器点検前データによらると、機能に影響を及ぼす劣化は認められなかった。 また、計器点検前データが104M相当の期間連続にて許容誤差範囲内を推移することが確認できた。 以上ことから、104Mの点検(変更前から52Mの延長)により適切な保守管理を行うことが可能であると判断した。	①	133 非常用予備発電機付属設備検査

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び代替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更		インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※		
		項目	変更前						変更後
38	体積制御水槽水位伝 送器 (3LT-120)	伝送器単体 調整試験	52M	104M	③	第14回施設定期検査にて採取した計 器点検前データ及び過去の点検実績等 を用いて点検計画を見直した。	第14回施設定期検査における計器点 検前データによると、機能に影響を及 ぼす劣化は認められなかった。 また、計器点検前データが104M相当 の期間連続にて許容誤差範囲内を推移 することから確認できた。 以上のことから、104Mの点検(変更前 から52Mの延長)により適切な保守管理 を行うことが可能であると判断した。	①	72 計測制御系監視機能検査

※ : インプット情報は添付-1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※ : 点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容		インプット情報の項目 ※	事象の概要	評価内容	4つの 評価項目 ※※	備考 (関連する定期事業者検査等)
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更						
		項目	変更前					
39	格納容器冷却材トリン カク水位伝送器 (3LT-1000)	伝送器単体 調整試験	52M	26M	第14回施設定期検査にて採取した計 器点検前データ及び過去の点検実績等 を用いて点検計画を見直した。	第14回施設定期検査における計器点 検前データで許容誤差を逸脱してい ることが確認された。 また、2定検続けて許容誤差を逸脱し ていることが確認された。 以上のことから、26Mの点検(変更前 から26Mの短縮)により適切な保守管理 を行うことが可能であると判断した。	①	72 計測制御系監視機能検査

※ : インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※ : 点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

No.	系統・機器名	保全計画への反映内容			評価			備考 (関連する定期事業者検査等)	
		点検計画の保全方式 又は点検内容の変更			インプット 情報の項目 ※	事象の概要	評価内容		4つの 評価項目 ※※
		項目	変更前	変更後					
40	前処理室排気ファン	振動診断	—	IM	⑬	自主的な取り組みとして、振動診断を新たな保全項目として適用した。	類似機器(雑固体焼却炉建家排気ファン等)をベンチマークした結果、振動診断(頻度はIM)を適用することが可能であると保守管理を行うことが可能であると判断した。	—	

※：インプット情報は添付ー1の定期的な評価のインプット分類2と対応

※※：点検頻度の変更に適用した評価方法

- ① 点検及び取替結果の評価
- ② 劣化トレンドによる評価
- ③ 研究成果等による評価
- ④ 類似機器等の使用実績による評価

保全活動管理指標

1. プラントレベル(採取期間:平成29(2017)年8月1日～令和元(2019)年9月30日)

指標	目標値	実績値
計画外原子炉自動トリップ回数	<1回/7000臨界時間	0回
計画外出力変動回数	<2回/7000臨界時間	0回
工学的安全施設の計画外作動回数	<1回/サイクル	0回

参考

2. 系統レベル (採取期間: MPFF 平成29(2017)年8月1日～令和元(2019)年9月30日、UA時間 平成23(2011)年1月1日～令和元(2019)年9月30日)

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPFF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値[1サイクルあたり]	実績値	目標値[2サイクルあたり]	実績値	
1次冷却材系統	PS-1①原子炉冷却材圧力バウンダリ機能	<1回	0回	-	-	●他の系統に属する原子炉冷却材圧力バウンダリ機器についてはこの指標で管理する。
	PS-1②過剰反応度の印加防止機能	<1回	0回	-	-	
	PS-1③炉心形状の維持機能	<1回	0回	-	-	
	MS-1①原子炉の緊急停止機能	<1回	0回	0時間	0時間	
	MS-1②未臨界維持機能	<1回	0回	0時間	0時間	
	MS-1③原子炉冷却材圧力バウンダリの過圧防止機能	<1回	0回	0時間	0時間	
	MS-1④原子炉停止後の除熱機能	<1回	0回	-	-	
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	PS-2④安全弁・逃がし弁の吹き止まり機能	<1回	0回	-	-	
	MS-2④異常状態の緩和機能	[加圧器逃がし弁] <1回 [加圧器逃がし弁元弁、加圧器後備用弁] <2回	[加圧器逃がし弁] 0回 [加圧器逃がし弁元弁、加圧器後備用弁] 0回	<72時間/各逃がしライン <72時間/各ヒータ系統	0時間/各逃がしライン 0時間/各ヒータ系統	
	PS-3①原子炉冷却材保持機能【LCO】※1	<2回	0回	-	-	
	PS-3②原子炉冷却材の循環機能【LCO】※1	<2回	0回	-	-	
	MS-3①原子炉圧力上昇の緩和機能【LCO】※1	<2回	0回	モータ1～3 <72時間/各逃がしライン モータ4～6 <24時間	モータ1～3 0時間/各逃がしライン モータ4～6 0時間	

※1 要求機能における【LCO】の表記は、クラス3の機能のうち、原子炉施設保安規定の運転上の制限に関連する機能を示す。以下、本表において同様。

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値(1サイクルあたり)	実績値	目標値(2サイクルあたり)	実績値	
化学体積制御系統	PS-1①原子炉冷却材圧力バウンダリ機能	-	-	-	-	●原子炉冷却材圧力バウンダリ機器については、1次冷却材系統のPS-1①指標で管理する。
	MS-1②未臨界維持機能	<1回	0回	<240時間 両トイン同時 0時間	0時間 両トイン同時 0時間	
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	PS-2①原子炉冷却材を内蔵する機能	<2回	0回	-	-	
	MS-2④異常状態の緩和機能	<2回	0回	<240時間	0時間	
	PS-3①原子炉冷却材保持機能【LCO】	<2回	0回	-	-	
	PS-3②原子炉冷却材の循環機能【LCO】	<2回	0回	-	-	
	冷却材補給機能	<2回	0回	<720時間	0時間	
	PS-1①原子炉冷却材圧力バウンダリ機能	-	-	-	-	●原子炉冷却材圧力バウンダリ機器については、1次冷却材系統のPS-1①指標で管理する。
	MS-1②未臨界維持機能	<1回	0回	<240時間/各トイン 両トイン同時 0時間	0時間/各トイン 7時間53分/Bトイン 両トイン同時 0時間	
安全注入系統	MS-1⑤炉心冷却機能	<1回	0回	<1時間/各蓄圧タンク タンク2基以上同時 0時間 <240時間/各トイン 両トイン同時 0時間	0時間/各蓄圧タンク タンク2基以上同時 0時間 0時間/各トイン 7時間53分/Bトイン 両トイン同時 0時間	
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPFF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値[1サイクルあたり]	実績値	目標値[2サイクルあたり]	実績値	
安全注入系統	MS-1⑥放射線物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能	<1回	0回	<240時間/各トリン 両トリン同時 0時間	0時間/各トリン 両トリン同時 0時間	
	アクシデントマネジメント機能 【代替再循環】	<2回	0回	<720時間	0時間/各トリン	
	PS-1①原子炉冷却材圧力バウンダリ機能	-	-	-	-	●原子炉冷却材圧力バウンダリ機能については、1次冷却材系統のPS-1①指標で管理する。
	MS-1④原子炉停止後の除熱機能	<1回	0回	-	-	
余熱除去系統	MS-1⑤炉心冷却機能	<1回	0回	<240時間/各トリン 両トリン同時 0時間	0時間/各トリン 両トリン同時 0時間	
	MS-1⑥放射線物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機能については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	PS-2①原子炉冷却材を内蔵する機能	<1回	0回	-	-	
	余熱除去系統への漏えい監視機能	<2回	0回	-	-	
格納容器サブレイシステム	MS-1⑥放射線物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機能については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	MS-1⑥放射線物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能	<1回	0回	<240時間/各トリン 両トリン同時 0時間 <72時間/タンク	0時間/各トリン 両トリン同時 0時間 0時間/タンク	●消火設備系統のアクシデントマネジメント機能【格納容器消火水サブレイ注水】も含む。
	MS-2④異常状態の緩和機能	<2回	0回	<72時間/タンク	0時間/タンク	

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値[1サイクルあたり]	実績値	目標値[2サイクルあたり]	実績値	
原子炉格納施設	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	<1回	0回	<4時間/各原子炉格納容器 隔離弁 <24時間/各エアロック	0時間/各原子炉格納容器 隔離弁 0時間/各エアロック	●他の系統に属する格納容器バウンダリ機器についてはこの指標で管理する。
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能	<1回	0回	-	-	
	PS-2②放射性物質を貯蔵する機能	<2回	0回	-	-	
	PS-3③燃料を安全に取り扱う機能	<2回	0回	-	-	
	PS-3③放射性物質を貯蔵する機能【間接関連系】 【LCO】	<2回	0回	-	-	
燃料取扱設備	PS-2②放射性物質を貯蔵する機能	<2回	0回	-	-	
	PS-2③燃料を安全に取り扱う機能	<2回	0回	-	-	
	MS-2②放射性物質放出の防止機能	<2回	0回	-	-	
	MS-1②未臨界維持機能	<1回	0回	<1時間	0時間	
	MS-1⑤炉心冷却機能	<1回	0回	<1時間	0時間	
燃料取替用水系統	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能	<1回	0回	<1時間	0時間	
	MS-2①使用済燃料ピットの補給機能	<2回	0回	<720時間	1030時間10分	

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値[1サイクルあたり]	実績値	目標値[2サイクルあたり]	実績値	
主給水系統	MS-1④原子炉停止後の除熱機能	<1回	0回	<72時間/各ライン	0時間/各ライン	
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	MS-2④異常状態の緩和機能	<2回	0回	<72時間/各ライン	0時間/各ライン	
	MS-1④原子炉停止後の除熱機能	<1回	0回	<6時間/各安全弁 <8時間/各ライン/隔離 <168時間/各逃がしライン <240時間/各蒸気元弁	0時間/各安全弁 0時間/各ライン/隔離 0時間/各逃がしライン 0時間/各蒸気元弁	
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	MS-2④異常状態の緩和機能	<1回	0回	<168時間/各逃がしライン <8時間/各ライン/隔離 <8時間/各逆止弁	0時間/各逃がしライン 0時間/各ライン/隔離 0時間/各逆止弁	
主蒸気系統	原子炉停止後の除熱機能の代替機能	<2回	0回	<720時間	0時間	
	MS-1④原子炉停止後の除熱機能	<1回	0回	<240時間/各系統 2系統以上0時間 <168時間/タンク	0時間/各系統 2系統以上0時間 0時間/タンク	
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
補助給水系統	MS-2④異常状態の緩和機能	<1回	0回	<240時間/各ライン	0時間/各ライン	
	原子炉停止後の除熱機能の代替機能	<2回	0回	<720時間	0時間	
2次系純水系統	原子炉停止後の除熱機能の代替機能	<2回	0回	<720時間	0時間	

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値[1サイクルあたり]	実績値	目標値[2サイクルあたり]	実績値	
蒸気発生器ブローダウン系統	MS-1④原子炉停止後の除熱機能	<1回	0回	<240時間/各ライ	0時間/各ライ	
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	MS-2④異常状態の緩和機能	<2回	0回	<240時間/各ライ	0時間/各ライ	
	MS-3④緊急時対策上重要なもの及び異常状態の把握機能【LCO】	<2回	0回	-	-	
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
原子炉補機冷却水系統	MS-1⑧安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	<240時間/各ライ 両ライ同時 0時間 隔離機能 <240時間	0時間/各ライ 0時間/各ライ 両ライ同時 0時間 隔離機能 0時間	●空調用冷水設備系統のアクシデントマネジメント機能【代替補機冷却】も含む。
	MS-2③事故時のプラント状態の把握機能	<2回	0回	-	-	
	PS-3②原子炉冷却材の循環機能【LCO】	<2回	0回	-	-	
	蒸気発生器細管漏えい監視機能	<2回	0回	-	-	
	アクシデントマネジメント機能【格納容器自然対流冷却】	<2回	0回	<720時間	0時間	
原子炉補機冷却海水系統	MS-1⑧安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	<105時間/各ライ 両ライ同時 0時間	0時間/各ライ 0時間/各ライ 両ライ同時 0時間	●海水ピットを含む。
気体廃棄物処理系統	PS-2②放射性物質を貯蔵する機能	<2回	0回	-	-	

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値[サイクルあたり]	実績値	目標値[2サイクルあたり]	実績値	
液体廃棄物処理系統	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	1次冷却材漏えい、草監視機能	<2回	0回	-	-	
	PS-3②原子炉冷却材の循環機能【LCO】	<2回	0回	-	-	
原子炉補給水系統(純水)	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
制御用空気系統	MS-1⑨安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	制御用空気圧縮装置 2台同時 <72時間	制御用空気圧縮装置 2台同時 0時間	
	MS-2④異常状態の緩和機能	<1回	0回	<240時間	0時間	●制御用空気系統のMS-3①原子炉圧力上昇の緩和機能の直接関連系も含む。
所内用空気系統	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
消火設備系統	アグジデントマネジメント機能 【格納容器消火スプレイ注水】	<2回	0回	<720時間	0時間	●格納容器スプレイ系統の主配管から、スプレイ系統側の接続配管もこの指標で管理する。
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
格納容器換気空調系統	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能	<1回	0回	<240時間	0時間	

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値[サイクルあたり]	実績値	目標値[2サイクルあたり]	実績値	
格納容器換気空調系統	アグンデントマニホジスト機能 【格納容器自然対流冷却】	<2回	0回	<720時間	0時間	
	MS-1⑥放射線物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい 及び放出低減機能	<1回	0回	<240時間/各トレイン 両トレイン同時 0時間	0時間/各トレイン 両トレイン同時 0時間	
	MS-2②放射線物質放出の防止機能	<2回	0回	<240時間/各トレイン 両トレイン同時 0時間	0時間/各トレイン 両トレイン同時 0時間	
アニュラス空気浄化系統	MS-1⑥放射線物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい 及び放出低減機能	<1回	0回	<240時間/各トレイン 両トレイン同時 0時間	0時間/各トレイン 両トレイン同時 0時間	
	MS-2②放射線物質放出の防止機能	<2回	0回	<240時間/各トレイン	0時間/各トレイン	
	補助建屋換気空調系統	<1回	0回	DG室、電動補助給水ポンプ室、 制御用空圧縮機室、安全補機閉閉器室 両トレイン同時 <72時間/各室 タービン動補助給水ポンプ室、 安全補機閉閉器室 両トレイン同時 <72時間/各室	DG室 14時間00分/Aトレイン 14時間30分/Bトレイン 両トレイン同時 6時間01分 電動補助給水ポンプ室 486時間15分/Aトレイン 0時間/Bトレイン 両トレイン同時 0時間 制御用空圧縮機室 150時間21分/Aトレイン 0時間/Bトレイン 両トレイン同時 0時間 タービン動補助給水ポンプ室、安全 補機閉閉器室 両トレイン同時 0時間/各室	
安全補機室空気浄化系統	MS-1⑥放射線物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい 及び放出低減機能	<1回	0回	<720時間/各トレイン 両トレイン同時 <72時間	0時間/各トレイン 両トレイン同時 0時間	
	MS-1⑥安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	<720時間/各トレイン 全トレイン同時 <240時間	0時間/各トレイン 全トレイン同時 0時間	
	MS-2安全上特に重要な関連機能【間接関連系】	<2回	0回	<240時間	0時間	
中央制御室換気空調系統						

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値(1サイクルあたり)	実績値	目標値(2サイクルあたり)	実績値	
空調用冷水設備系統	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	MS-1⑦安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	<720時間/各トリン全トリン同時<240時間	340時間26分/Aトリン 315時間35分/Bトリン 全トリン同時 0時間	
	MS-2安全上特に重要な関連機能【間接関連系】	<2回	0回	<720時間	0時間	
	アクシデンタルマニピュレーション機能【代替補機冷却】	<2回	0回	<720時間	0時間	●原子炉補機冷却水系統の余熱除去ポンプ3B及び電動機冷却水出入口系統の主配管から、補機冷却水系統側の接続配管もこの指標で管理する。
	MS-1⑧放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
格納容器減圧パージ系統	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	MS-2③事故時のプラント状態の把握機能	<2回	0回	-	-	
	PS-3①原子炉冷却材保持機能【LCO】	<2回	0回	-	-	
モニタ空気サンプリング系統	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	MS-2③事故時のプラント状態の把握機能	<2回	0回	-	-	
格納容器真空逃がし系統	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。
	原子炉格納容器真空逃がし機能	<2回	0回	<240時間/系統 2系統同時 0時間	0時間/系統 2系統同時 0時間	
格納容器水素パージ系統	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器については、原子炉格納施設のMS-1⑥指標で管理する。

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値(1サイクルあたり)	実績値	目標値(2サイクルあたり)	実績値	
炉内核計装置ガスバypass設備 系統	MS-1⑥放射線物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器 バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器に ついては、原子炉格納施設の MS-1⑥指標で管理する。
	MS-1⑥放射線物質の閉じ込め機能【原子炉格納容器 バウンダリ】	-	-	-	-	●格納容器バウンダリ機器に ついては、原子炉格納施設の MS-1⑥指標で管理する。
格納容器漏洩率試験装置系統	MS-1⑥安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	ディーゼル発電機 燃料油カーヒースタンク貯油量 <240時間/各系 燃料油・潤滑油・始動用空気 <48時間/各系/各系	ディーゼル発電機 50時間30分/A号機 50時間35分/B号機 燃料油カーヒースタンク貯油量 0時間/各系 燃料油・潤滑油・始動用空気 0時間/各系/各系	
	非常用ディーゼル発電機系統					
外部電源系統	PS-3④電源供給機能【LCO】	<2回	0回	すべての外部電源が他の回 線に対して独立性を有して いない場合、および動作可 能な外部電源が2回線であ る場合 720時間/系統 動作可能な外部電源が1回 線である場合 240時間 24時間	すべての外部電源が他の回 線に対して独立性を有して いない場合、および動作可 能な外部電源が2回線であ る場合 1732時間40分/系統 動作可能な外部電源が1回 線である場合 0時間 0時間	
	MS-1⑥原子炉停止系・工学的安全施設への作動信号 の発生機能	<1回	0回	<6時間/各チャンネル	0時間/各チャンネル	
メタクラ系統	MS-1⑥安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	<8時間/各母線	0時間/各母線	
	MS-2⑥運転状態の情報提供機能(安全上特に重要な 関連機能【間接関連系】)	<2回	0回	-	-	
パワーセンタ系統	PS-3④電源供給機能【LCO】	<2回	0回	<2回	-	
	MS-1⑥安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	<8時間/各母線	0時間/各母線	
コントロールセンタ系統	MS-2⑥運転状態の情報提供機能(安全上特に重要な 関連機能【間接関連系】)	<2回	0回	-	-	
	MS-1⑥安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	<8時間/各母線	0時間/各母線	

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(CA時間)		備考
		目標値(1サイクルあたり)	実績値	目標値(2サイクルあたり)	実績値	
直流電源装置系統	MS-1⑥安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	非常用直流母線 <2時間/各母線 蓄電池及び充電器 <128時間/各母線	非常用直流母線 0時間/各母線 蓄電池及び充電器 0時間/各母線	
	MS-2⑥運転状態の情報提供機能(安全上特に重要な関連機能【間接関連系】)	<2回	0回	-	-	
	MS-1⑤安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	<2時間/各母線	0時間/各母線	
	PS-3④電源供給機能【LCO】	<2回	0回	-	-	
計装用電源系統	MS-1①原子炉の緊急停止機能	<1回	0回	<1時間/各トレイン	0時間36分/Aトレイン 1時間17分/Bトレイン 0時間28分/Cトレイン 0時間40分/Dトレイン	
	MS-2③事故時のプラント状態の把握機能	<2回	0回	-	-	
	PS-3④電源供給機能【LCO】	<2回	0回	-	-	
	MS-1⑦原子炉停止系・工学的安全施設への作動/信号の発生機能	<1回	0回	<6時間/各チャンネル <1時間/各インカンローグチャンネル <48時間/各手動回路 <6時間/各ロジック盤 <6時間/各シーケンス盤	0時間/各チャンネル 0時間/各インカンローグチャンネル 0時間/各手動回路 0時間/各ロジック盤 0時間/各シーケンス盤	
原子炉制御保護装置	MS-1⑧安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	<6時間/各DGトレイン <720時間/各M信号トレイン <6時間/各シーケンス盤	0時間/各DGトレイン 0時間/各M信号トレイン 0時間/各シーケンス盤	
	MS-2②放射線物質放出の防止機能	<2回	0回	<240時間/各トレイン	0時間/各トレイン	
	MS-2③事故時のプラント状態の把握機能	<1回	0回	-	-	
	MS-2④異常状態の緩和機能	<1回	0回	<72時間/各シーケンス盤	0時間/各シーケンス盤	
	MS-2⑥運転状態の情報提供機能(安全上特に重要な関連機能【間接関連系】)	<2回	0回	-	-	
	MS-3③原子炉圧力上昇の緩和機能【LCO】	<2回	0回	モータ1~3 <72時間/各逃がし弁 モータ4~6 <24時間	モータ1~3 0時間/各逃がし弁 モータ4~6 0時間	

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値(2サイクルあたり)	実績値	目標値(2サイクルあたり)	実績値	
原子炉制御保護装置	制御室退避時制御盤への情報伝送機能	<2回	0回	-	-	
制御棒位置指示装置	制御棒位置指示機能	<2回	0回	-	-	
制御棒制御装置	FS-3⑥プラント計測・制御機能【LCO】	<2回	0回	-	-	
	制御棒ハンク位置表示機能	<2回	0回	-	-	
制御室退避時制御盤	MS-2⑤制御室外からの安全停止機能	<2回	0回	<720時間	0時間	
	MS-3④緊急時対策上重要なもの及び異常状態の把握機能【LCO】	<2回	0回	-	-	
炉外核計装置	MS-1①原子炉停止系・工学的安全施設への作動信号の発生機能	<1回	0回	<1時間/各センターログチャンネル <6時間/各チャンネル 0時間/各センターログチャンネル	0時間/各チャンネル 0時間/各センターログチャンネル	
	MS-2③事故時のプラント状態の把握機能	<2回	0回	-	-	
	線源領域中性子束指示機能	<2回	0回	-	-	
炉内核計装置	FS-3⑥プラント計測・制御機能【LCO】	<2回	0回	-	-	
放射線監視装置	MS-2③事故時のプラント状態の把握機能	<2回	0回	-	-	
	蒸気発生器細管漏えい監視機能	<2回	0回	-	-	
換気系制御室退避時制御盤	MS-2⑤制御室外からの安全停止機能	<2回	0回	<720時間	0時間	

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(OA時間)		備考
		目標値[1サイクルあたり]	実績値	目標値[2サイクルあたり]	実績値	
建屋(原子炉建屋)	MS-1⑤放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能	<1回	0回	-	-	●燃料取扱種のMS-2②放射性物質放出の防止機能も含む。
	MS-1⑥放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能	<1回	0回	-	-	
建屋(原子炉補助建屋)	MS-1③安全上特に重要な関連機能	<1回	0回	-	-	●中央制御室の遮へい機能。
	電巻、溢水等に対して発電用原子炉施設を防護する機能	<2回	0回	-	-	
防護設備						

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値	実績値	目標値	実績値	
重大事故等対処設備	緊急停止失敗時に原子炉を未臨界にするための設備	0回	0回	多様化自動作動盤(ATWS)綫和設備)論理回路 720時間/系統 蒸気発生器水位低 720時間/チャンネル	多様化自動作動盤(ATWS)綫和設備)論理回路 0時間/系統 蒸気発生器水位低 0時間/チャンネル	
	1次冷却系統のフィードアンドブリードをするための設備	0回	0回	高圧注入系 240時間/系統 加圧器逃がし弁 72時間/台	高圧注入系 0時間/系統 加圧器逃がし弁 0時間/台	
	炉心注水をするための設備	0回	0回	高圧注入系 全系統同時 0時間 高圧再循環系 全系統同時 0時間 低圧注入系 全系統同時 0時間 低圧再循環系 全系統同時 0時間 充てんポンプ(B,自己冷却式)による代替注水系 720時間 中型ポンプ車および加圧ポンプ車による代替炉心注水系 0時間/系統 代替再循環運転 [格納容器スプレイポンプ (B,代替再循環配管使用)による代替再循環系] 240時間 代替再循環運転 [格納容器再循環サブB隔離弁ハイス弁] 72時間 代替再循環運転 [高圧注入ポンプ(B,海水冷却)による高圧再循環系] 240時間	高圧注入系 全系統同時 0時間 高圧再循環系 全系統同時 0時間 低圧注入系 全系統同時 0時間 低圧再循環系 全系統同時 0時間 充てんポンプ(B,自己冷却式)による代替注水系 0時間 中型ポンプ車および加圧ポンプ車による代替炉心注水系 0時間/系統 代替再循環運転 [格納容器スプレイポンプ (B,代替再循環配管使用)による代替再循環系] 0時間 代替再循環運転 [格納容器再循環サブB隔離弁ハイス弁] 0時間 代替再循環運転 [高圧注入ポンプ(B,海水冷却)による高圧再循環系] 0時間	
	1次冷却系統の減圧をするための設備	0回	0回	蒸素ポンベ(加圧器逃がし弁用) および加圧器逃がし弁用可搬型蓄電池を使用した 加圧器逃がし弁による1次冷却材系統の減圧系 240時間/系統	蒸素ポンベ(加圧器逃がし弁用) および加圧器逃がし弁用可搬型蓄電池を使用した 加圧器逃がし弁による1次冷却材系統の減圧系 0時間/系統	
	原子炉格納容器スプレイをするための設備	0回	0回	原子炉格納容器スプレイ系 全系統同時 0時間 スプレイ再循環系 全系統同時 0時間 代替原子炉格納容器スプレイポンプによる 代替原子炉格納容器スプレイ系 720時間	原子炉格納容器スプレイ系 全系統同時 0時間 スプレイ再循環系 全系統同時 0時間 代替原子炉格納容器スプレイポンプによる 代替原子炉格納容器スプレイ系 0時間	
	原子炉格納容器内自然対流冷却をするための設備	0回	0回	原子炉格納容器内自然対流冷却系 720時間 中型ポンプ車による原子炉格納容器内自然対流冷却系 および代替補機冷却系 720時間/系統 2系統同時 240時間	原子炉格納容器内自然対流冷却系 0時間 中型ポンプ車による原子炉格納容器内自然対流冷却系 および代替補機冷却系 0時間/系統 2系統同時 0時間	
	2次冷却系からの除熱(注水)をするための設備	0回	0回	電動補助給水ポンプによる 蒸気発生器への給水系 0時間/系統 タービン動補助給水ポンプによる 蒸気発生器への給水系 0時間/系統	電動補助給水ポンプによる 蒸気発生器への給水系 0時間/系統 タービン動補助給水ポンプによる 蒸気発生器への給水系 0時間/系統	

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(UA時間)		備考
		目標値(1サイクルあたり)	実績値	目標値(2サイクルあたり)	実績値	
重大事故等対処設備	2次冷却系からの除熱(蒸気放出)をするための設備	0回	0回	主蒸気逃がし弁 72時間/個 2個以上同時 24時間	主蒸気逃がし弁 0時間/個 2個以上同時 0時間	
	水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備	0回	0回	静的触媒式水素再結合装置 72時間/基 格納容器水素濃度計測装置等による水素濃度監視系 720時間	静的触媒式水素再結合装置 0時間/基 格納容器水素濃度計測装置等による水素濃度監視系 0時間	
	水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための設備	0回	0回	アニュラス空気浄化系 0時間/全系統同時 代替空気(密着)系統 240時間	アニュラス空気浄化系 0時間/全系統同時 代替空気(密着)系統 0時間	
	使用済燃料ピントの冷却等のための設備	0回	0回	—	—	
	発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備	0回	0回	大型ポンプ車(泡混合機能付)、大型ポンプ車、泡混合器、大型放水砲、軽油タンク、ミニローリー 240時間 放射性物質吸着剤、海水ピットシルトフエンス、取水ピットシルトフエンス、放水ピットシルトフエンス、放水ピットメントシート、雨水排水溝海洋シルトフエンス、小型船舶 240時間	大型ポンプ車(泡混合機能付)、大型ポンプ車、泡混合器、大型放水砲、軽油タンク、ミニローリー 0時間 放射性物質吸着剤、海水ピットシルトフエンス、取水ピットシルトフエンス、放水ピットシルトフエンス、放水ピットメントシート、雨水排水溝海洋シルトフエンス、小型船舶 0時間	
	重大事故等の取束に必要な水の供給設備(補助給水タンクへの補給)	SAクラスタ2: <1回 SAクラスタ3: <2回	0回	中型ポンプ車による補助給水タンクへの補給系 240時間 燃料取替用水タンク水量 1時間 補助給水タンク水量 72時間	中型ポンプ車による補助給水タンクへの補給系 0時間 燃料取替用水タンク水量 0時間 補助給水タンク水量 0時間	
	電源設備	0回	0回	空冷式非常用発電装置からの電源系 240時間 300kVA電源車および300kVA電源車用変圧器からの電源系 720時間 蓄電池(非常用) 全系統同時 720時間 蓄電池(重大事故等対処用) 全系統同時 720時間 可搬型直流電源装置(75kVA電源車および可搬型整流器)からの電源系 720時間/系統 代替所内電気設備からの給電系 240時間 重油タンク油量 48時間 軽油タンク油量 72時間 ミニローリー 72時間/台 3台同時 48時間	空冷式非常用発電装置からの電源系 0時間 300kVA電源車および300kVA電源車用変圧器からの電源系 0時間 蓄電池(非常用) 全系統同時 0時間 蓄電池(重大事故等対処用) 全系統同時 0時間 可搬型直流電源装置(75kVA電源車および可搬型整流器)からの電源系 0時間/系統 代替所内電気設備からの給電系 0時間 重油タンク油量 0時間 軽油タンク油量 0時間 ミニローリー 0時間/台 3台同時 0時間	
	計装設備	0回	0回	可搬型計測器 所要数を満足できない状態 720時間	可搬型計測器 所要数を満足できない状態 0時間	

系統名	要求機能	予防可能故障回数(MPPF回数)		非待機時間(CA時間)		備考
		目標値[1サイクルあたり]	実績値	目標値[2サイクルあたり]	実績値	
重大事故等対処設備	中央制御室		0回	中央制御室非常用循環系 全系統同時 72時間 中央制御室用可搬型照明、 酸素濃度計、二酸化炭素濃度計 所要数を満足できない状態 240時間	中央制御室非常用循環系 全系統同時 0時間 中央制御室用可搬型照明、 酸素濃度計、二酸化炭素濃度計 所要数を満足できない状態 0時間	
	監視測定設備		0回	—	—	
	緊急時対策所	SAクラス2: <1回 SAクラス3: <2回	0回	緊急時対策用発電機 240時間/台 緊急時対策所空気浄化系 全系統同時 240時間 緊急時対策所加圧装置 240時間 酸素濃度計、二酸化炭素濃度計 所要数を満足できない状態 240時間	緊急時対策用発電機 0時間/台 緊急時対策所空気浄化系 全系統同時 0時間 緊急時対策所加圧装置 0時間 酸素濃度計、二酸化炭素濃度計 所要数を満足できない状態 0時間	
	通信連絡を行うために必要な設備		0回	240時間	0時間	
	中型ポンプ車		0回	中型ポンプ車 720時間/台 3台以上同時 240時間	中型ポンプ車 0時間/台 3台以上同時 0時間	
	その他設備		0回	240時間	0時間	